

文部科学省

平成 22 年度教育研修活動補助事業

「専修学校におけるキャリア教育に関する調査研究」

報告書

平成 23 年 3 月

財団法人 専修学校教育振興会

はじめに

近年、日本の社会は、少子高齢化にともなう労働人口の減少や就業構造の変化、開発途上国の経済的発展など複合的要因から、国内産業の空洞化、技術の流出、就職率の低下等の様々な問題が発生し、わが国の持続的発展の上で社会基盤そのものをも揺るがしかねない深刻な課題を抱えています。

教育的側面からみると、戦後の教育が普通教育に偏重したことが一つの要因となって、進路意識や目的意識が希薄な進学者が増加し、中途退学者や無業者など社会・職業への移行が円滑に行われない若者が増えているとの指摘がなされています。

このことは、平成 23 年 1 月 31 日に文部科学省・中央教育審議会が出した「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」においても、読み取ることができる重要な問題になっています。

財団法人専修学校教育振興会では、高等教育における職業教育の中心である専門学校におけるキャリア教育の振興に寄与することを目的に、平成 15 年度にその実態を調査するとともに、その実態から必要性が明らかになったキャリア教育に関する研修会を開催する等その振興に努めてまいりましたが、今年度、キャリア教育の一層の普及推進を目的とした「キャリア教育調査研究委員会」を組織し、平成 15 年度調査以後の専門学校におけるキャリア教育の変化を明らかにするとともに、平成 21 年度に当会が開発したキャリア教育教材の教員用ガイド改定のための調査研究を実施いたしました。

委員会では、この調査研究が産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化等の影響を受けた社会の激しい変化の中で、学生の学習意欲向上、就職・職業人生の設計に貢献するとともに、専修学校の運営にとっても極めて重要な課題であるキャリア教育について新たな考察を加え、専修学校全体の一層の発展・振興につながることを祈念しています。

最後になりましたが、アンケート調査にご協力くださった全国の専門学校ならびに個別の聞き取り調査にご協力くださった専門学校の皆様に深く感謝の意を表しますとともに、この調査研究報告書が全国の専修学校生のキャリア形成支援に関する教育内容の改善・充実に資することを願っています。

平成 23 年 3 月

財団法人 専修学校教育振興会
キャリア教育調査研究委員会

もくじ

はじめに

第1章 調査・研究の概要

- 1. 調査・研究の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 調査・研究の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3. キャリア教育に関する実態調査 調査票
一専門学校のキャリア教育推進の実態を把握する一・・・・・・・・ 5

第2章 キャリア教育に関する実態調査

- 回答者のプロフィール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

第1部 調査回答校の概要について

- 問1. 貴校が開設している教育分野は、どちらですか？・・・・ 12
- 問2. 貴校の本年5月1日現在の在籍学生数は、どのくらいですか？・・・・ 13
- 問3. 平成21年度における自主退学者の割合は、どの程度でしたか。・・・・ 14
- 問4. 平成21年度における卒業時進路未定者は、どの程度でしたか。・・・・ 16

第2部 キャリア教育への取組み

- 問5. キャリア教育について貴校の現状をお聞かせください。・・・・ 18
- 問6. キャリア教育を行っている外部機関との連携をとっていますか？・・・・ 24
 - 付問6. 連携先に当てはまる項目・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- 問7. キャリア教育に関する科目や学習法、教材として採用している項目・・・ 26
 - 付問7. 貴校が取組まれている最も代表的なインターンシップの内容・・・・ 29
- 問8. 教職員の中に、キャリア教育に関する有資格者がいますか？・・・・ 36
 - 付問8. どのような資格を有していますか？・・・・・・・・ 37
- 問9. キャリア教育に関して、教職員対象の教育研修は行っていますか？・・・ 43
 - 付問9. どのような教育研修を行っていますか？・・・・ 43
- 問10. 貴校のキャリア教育への取組みレベルについて、
どのように評価していますか？・・・・ 51
 - 付問10. 取組みレベルが低い原因は何ですか？・・・・ 56

問 11. 今後、貴校のキャリア教育の取組みに対して、	
どのようにお考えですか？……	64
付問 11. どのような点を充実させたいとお考えですか？……	65
問 12. キャリア教育や、アンケートの内容、本事業等について、	
ご意見をお聞かせください。……	76
総括……	77
調査協力校一覧（サンプル）……	80

第3章 学生向けキャリア教育教材・教員用ガイドの活用方法に関する実態調査

1. 調査の概要……	83
2. 実際のアンケート調査票……	94
3. アンケート回答内容の概要……	97
4. レポート回答内容の概要……	98
5. 今年度の調査研究概要と今後への課題……	105

第 1 章 調査・研究の概要

1. 調査・研究の趣旨

平成 22 年度、財団法人専修学校教育振興会（以下専教振）では、専修学校における今後のキャリア教育推進に資することを目的として、文部科学省の教育研修活動補助を受けた専修学校教育内容等改善研究協力校事業として、「専修学校におけるキャリア教育に関する調査研究」を実施した。

調査研究は、「専修学校におけるキャリア教育の実態」と「平成 21 年度に開発した学生向けキャリア教育教材・教員用ガイドの活用方法」の 2 つに区分し、それぞれにアンケート調査を行い、その結果に基づく研究を行った。

なお、「学生向けキャリア教育教材・教員用ガイドの活用方法」の調査研究結果は、教員用ガイドを改定するための検討資料とする。

2. 調査・研究の実施

調査研究の実施に当たっては、専修学校関係者を委員とする「キャリア教育調査研究委員会」を設置し、平成 22 年 4 月から平成 23 年 2 月にかけて全 7 回の委員会を開催した。

(1) キャリア教育調査研究委員会

- 委員長 神崎 清一（京都 Y M C A 国際福祉専門学校・校長）
- 副委員長(実態調査担当)
- 船山 世界（日本電子専門学校・総務部長）
- 副委員長(教材調査担当)
- 岡村 慎一（専門学校 Y I C グループ学院本部・山口本部長）
- 委 員 神山 恵美子（学校法人帯広コア学園・理事長）
- 〃 財津 香壽子 （ I L P お茶の水医療福祉専門学校・副校長）
- 〃 平田 眞一（中国デザイン専門学校・理事長）

(2) キャリア教育調査研究委員会 開催日程・議題

回次	開催日		議 題
第 1 回	平成 22 年	4 月 28 日	委員紹介、委員長・副委員長選任、事業と予算、事業の進め方について、その他、次回日程
第 2 回		6 月 7 日	研究調査報告書の仕上りイメージ(事業目標)、今後の作業スケジュール、その他、次回日程
第 3 回		8 月 30 日	報告書全体(実態調査研究編、教員用ガイド改定編)の概要確認、実態調査編の集計結果分析、教員用ガイド改定編、その他、今後の作業スケジュール
第 4 回		8 月 31 日	

第 5 回	平成 22 年	11 月 8 日	実態調査編の集計結果分析と原稿確認、教員用ガイド改定編の進行状況確認、報告書の全体確認、その他、今後の作業スケジュール
第 6 回	平成 23 年	1 月 27 日	実態調査編の集計結果分析と原稿確認、教員用ガイド改定編の集計結果分析と原稿確認、報告書の全体確認、その他、今後の作業スケジュール
第 7 回		2 月 28 日	報告書原稿の最終確認、その他

(3) 調査経過

①キャリア教育に関する実態調査

【調査期間】 平成 22 年 7 月 6 日～7 月 23 日

【送 付 校】 1,667 校 （全国学校法人立専門学校協会会員校）

【回 収 数】 725 校 （回収率 43.5%）

アンケートの発送は学校法人立専門学校のうち全国専修学校各種学校総連合会の会員校 1,667 校を対象に行うとともに、ホームページにて広く調査協力を呼びかけた。

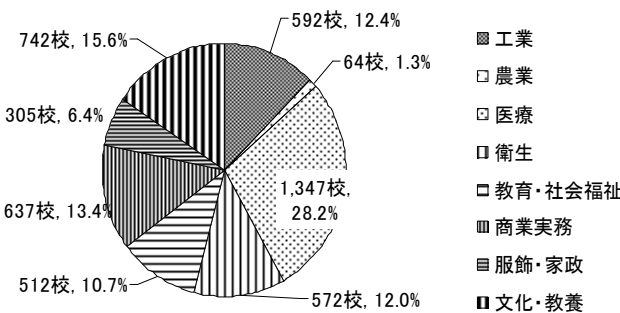
その結果、調査用紙を送付した 1,667 校中からの回答 723 に加え、ホームページを見て調査に協力くださった 2 校からの回答を加え、回答総数は合計で 725 となった。

本来であれば、回収率は調査用紙を送付した学校 1,667 を母数にし、そこからの回答 723 を分子として算出するべきであるが、ホームページをみて回答くださった学校数が極めて少数（2 校）であることから、回答総数を 725 として扱い回収率を算出することとした。

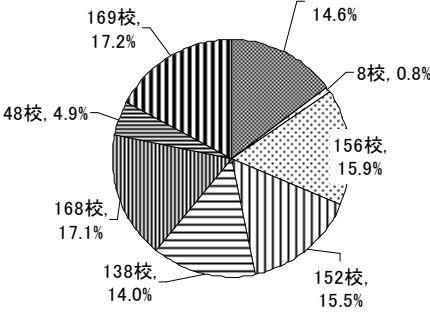
この 725 校が多肢選択した分野の延べ数を集計したものが図表 2 である。

平成 21 年度の文部科学省学校基本調査における専門学校の学科別学校数（総数 4,771）の分野別割合（図表 1 参照）と比較すると、医療分野の割合が低いものの他は概ね近似値を示している。

図表 1 平成21年度専門学校の学科別学校数(学校基本調査)



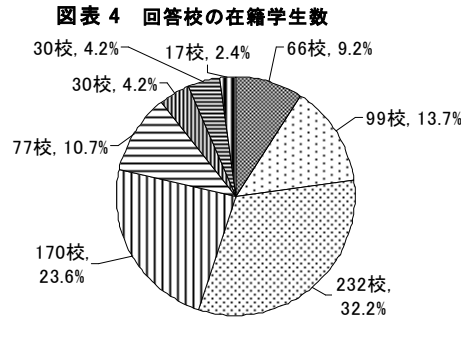
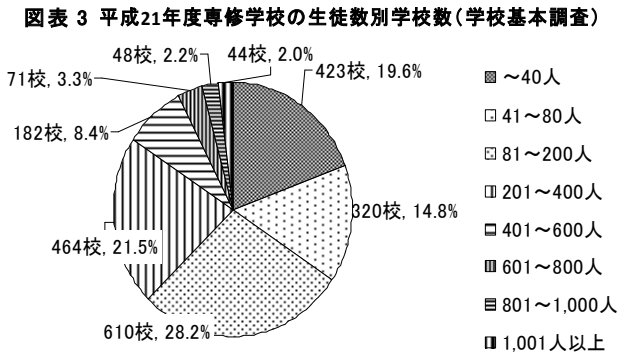
図表 2 回答校の設置分野(多肢選択)



また、この 725 校のうち在籍学生数を回答した 721 校を集計したものが図表 4 である。平成 21 年度の文部科学省学校基本調査における学校法人立（準学校法人立を含む）

専門学校の生徒数別学校数（総数 2,162 校）の割合を表した図表 3 と比較すると 40 人未満の学校の割合が少ないものの、他の区分は概ね近似値を示している。

以上、今回の回答校の設置分野、在籍学生数が学校基本調査の割合から大きくかけ離れていないことから、今回の調査結果が専門学校のキャリア教育に関する姿を概ね正確に現していると推察される。



なお、「調査協力校」（80～82 ページ参照）として学校名の公表を可とした学校は 430 校（59.3%）であった。

実際の調査票は、5～10 ページに掲載。

②学生向けキャリア教育教材・教員用ガイドの活用方法に関する実態調査

【調査期間】平成 22 年 11 月 19 日～12 月 24 日

【調査校】アンケート調査回答校 2 校、レポート報告校 2 校

こちらは、専振が平成 21 年度に文部科学省の補助を受けて研究を行い、平成 22 年度に「やる気の根っこ」として刊行した学生向けのチーム学習型教育ワークブックおよびその教員用ガイドについての調査研究である。

調査は電子メールによるアンケート形式で、平成 22 年 10 月・11 月に開催されたキャリア教育技法研修会に参加した学校等を対象に行われた。

調査時期が 11 月であったため、殆どの学校において授業が全編終了していない状態ではあったものの、本調査研究委員会のうちの 3 名が教材及び教員用ガイドを開発した調査研究委員であり、かつ各々の学校で授業を行っていることから、教材および教員用ガイドの改定に向けた具体的な調査研究を行うことができた。

調査内容は、対象学科・学年・人数、実施時期、総授業時間、講師プロフィール、章節ごとの学生評価・教材評価・指導案（教員用ガイド）評価からなるもので、校数

は少ないものの、教材・教員用ガイド改定へ向けての初期データを収集することができた。（実際のアンケート調査票は、94～96 ページに掲載。）

委員会では、本調査結果をもととした研究協議を行い、教員用ガイドの部分改訂を行い、インターネット上において利用校に公表した。

3. キャリア教育に関する実態調査 調査票

— 専門学校のキャリア教育推進の実態を把握する —

回答者のプロフィール	
貴校名 (学校単位でご記入ください。)	別添の「アンケート回答用紙」に記入してください。
都道府県	〃
お名前	〃
部署・役職 該当する番号すべてに○をしてください。(選択はいくつでも)	別添の「アンケート回答用紙」に具体的な部署・役職（お問合せ用）を記入し、一般的な職務名称等（分析用）を以下の 1～8 より選んでください。(選択はいくつでも) 私は カリキュラム編成の中心（必須）であり、かつ以下の役職に就いている。 (別添の「アンケート回答用紙」に記入してください。) 1. 理事長 4. 管理職（教育系） 7. 就職指導担当 2. 校長・副校長(教頭) 5. 学科長 8. キャリア・サポーター 3. 管理職（事務系） 6. 教 員 *8.は、専教振「キャリア・サポーター養成講座修了認定者」のことです。
電話番号	別添の「アンケート回答用紙」に記入してください。
電子メールアドレス	〃
調査報告書への校名掲載の可否 (選択は1つ)	可否いずれかに○を記してください。 1. 可 ・ 2. 否

可としていただいた学校は、平成 23 年 3 月発行予定の報告書内に、「調査ご協力校一覧」として学校名を掲載させていただきます。

記入いただきました個人情報は、当財団のプライバシーポリシーに基づいて管理し、本調査のご回答内容に関するお問い合わせ、ご確認以外には利用いたしません。

はじめに、貴校の専門課程の概要についてお伺いします。

問 1. 貴校が開設している教育分野は、どちらですか？（選択はいくつでも）

1. 工 業	4. 衛 生	7. 服飾・家政
2. 農 業	5. 教育・社会福祉	8. 文化・教養
3. 医 療	6. 商業実務	

問 2. 貴校の本年 5 月 1 日現在の在籍学生数は、どのくらいですか？（選択は 1 つ）

1. ～40 人	4. 201～400 人	7. 801 人～1,000 人
2. 41～80 人	5. 401～600 人	8. 1,001 人以上
3. 81～200 人	6. 601～800 人	

問 3. 平成 21 年度における自主退学者の割合は、どの程度でしたか。平成 21 年度当初の在籍学生総数に占める割合でお答えください。（選択は 1 つ）

1. 0%	3. 5～10%未満	5. 20～30%未満
2. ～5%未満	4. 10～20%未満	6. 30%以上

問 4. 平成 21 年度における卒業時進路未定者は、どの程度でしたか。年度末卒業生総数に占める割合でお答えください。（選択は 1 つ）

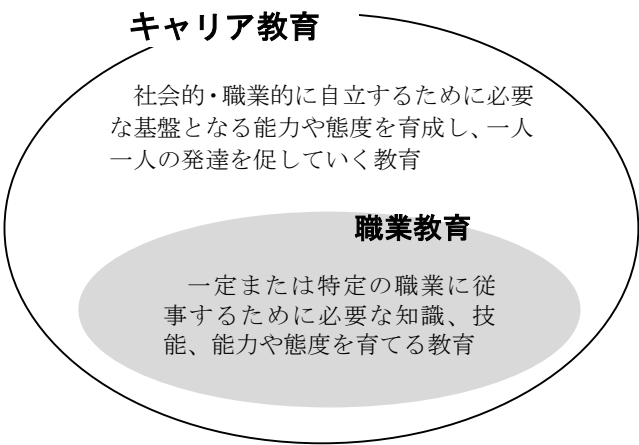
1. 0%	3. 5～10%未満	5. 20～30%未満
2. ～5%未満	4. 10～20%未満	6. 30%以上

次に、貴校のキャリア教育への取組みについてお伺いします。

本アンケートにおける「キャリア教育」の定義

本アンケートでは、「キャリア教育」を「社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力や態度を育成し、一人一人の発達を促していく教育」と定義します。

職業教育はキャリア教育の一部として位置づけ、それだけをもってキャリア教育とはしないこととします



解説	人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが「キャリア」の意味するところである。このキャリアは、ある年齢に達すると自然に獲得されるものではなく、子ども・若者の発達段階や発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくものである。 このような発達を促すには、外部からの体系的・組織的な働きかけが不可欠であり、学校教育では、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力や態度を育成し、一人一人の発達を促していく必要がある。このような教育が「キャリア教育」である。それは、特定の活動や指導方法に限定されるものではなく、様々な教育活動を通して実践される。
参考文献： 文部科学省 中央教育審議会 キャリア教育・職業教育特別部会 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（第二次審議経過報告）」2010/05/17	

問 5. 次の a. ～h. の各項目について、貴校の現状をお聞かせください。（各問選択は 1 つ）

	そうである	どちらかといえば そうである	どちらかといえば そうではない	そうではない
職業教育や就職指導のみの実施は、本アンケートにおけるキャリア教育には該当しないこととします。				
a. キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針等の中に定めている	1	2	3	4
b. キャリア教育の方針を明確に定めている	1	2	3	4
c. 全校をあげて、体系的・総合的なキャリア教育を実践している	1	2	3	4
d. キャリア教育を積極的に推進する体制が整っている	1	2	3	4
e. キャリア教育を評価・改善する機能や取組みがある	1	2	3	4
f. キャリア教育について、教職員に対する普及に努力している	1	2	3	4
g. キャリア教育について、入学前の時点から取り組んでいる	1	2	3	4
h. キャリア教育について、卒業生に対するサービスや支援を行っている	1	2	3	4

問 6. キャリア教育を行っている外部機関との連携をとっていますか？（選択は 1 つ）

（例：〇〇に講師を派遣してキャリア教育を行っている、〇〇から講師の派遣を受けキャリア教育を行っている、〇〇とキャリア教育に関する研究を行っている等）

1. YES（→付問 6 へ）・ 2. NO

付問 6. 連携先に当てはまる項目に○をしてください。（選択はいくつでも）

- | | | |
|----------|-------------|------------------------|
| 1. 小学校 | 5. 専修学校（他校） | 9. NPO など非営利組織 |
| 2. 中学校 | 6. 行政機関 | 10. その他（回答用紙に記入してください） |
| 3. 高等学校 | 7. 業界団体 | |
| 4. 大学・短大 | 8. 企業 | |

問7. キャリア教育に関する科目や学習法、教材として採用している項目に○をしてください。
(選択はいくつでも)

* 「国家資格（受験資格を含む）取得の要件として法令等で定められた実習」は、選択肢 15. インターンシップから除きます。

1. 自己理解のための科目	10. 職業適性検査
2. キャリアプランニング・キャリアデザイン	11. 職業適性検査以外のアセスメント
3. キャリアガイダンス	12. やる気の根っこ（ワークブック形式）
4. リーダーシップ等コミュニケーションの能力育成	13. ワークブック形式の教材（12. 以外）
5. ファシリテーション	14. ワークブック以外のテキストや教科書
6. 体験学習	15. インターンシップ →（付問7へ）
7. グループワーク	16. その他（回答用紙に
8. ゼミ	「具体的に」記入してください）
9. ロールプレイング	17. 採用していない

* 「12.やる気の根っこ」は、専修学校教育振興会にて作成したキャリア教育ワークブックです。

付問7. 貴校が取り組まれている最も代表的なインターンシップの内容に○をしてください。
複数のインターンシップを実施している場合は、期間が最も長いもの、または最もキャリア教育として有効であると考えるもので回答してください。（各問選択は1つ）

a. 期 間	1. 1 日～数日間 2. 1 週間～数週間	3. 約 1 ヶ月 4. 1 ヶ月超の長期	5. ケースによる
b. 実施管理部署	1. 教務課（科） 2. 学科毎の責任部署(者)	3. キャリアサポート室 4. 委員会等	5. ケースによる
c. 参加対象	1. 全 員 2. 一部の希望者	3. 一部の内定者 4. 条件をクリアした学生	5. 教員等の推薦者 6. その他
d. 単位（成績）	1. インターンシップが科目になっており、 <u>企業側</u> の評価に応じて単位認定(成績)を判断する 2. インターンシップが科目になっており、 <u>学校側</u> の評価に応じて単位認定(成績)を判断する 3. 科目にはなっていないが、 <u>企業側</u> の評価に応じて他の科目の単位(成績)に振替える 4. 科目にはなっていないが、 <u>学校側</u> の評価に応じて他の科目の単位(成績)に振替える 5. 単位認定(成績判断)はしない		
e. 給与等	1. 有 給	2. 無 給	3. ケースによる 4. 学校は介入しない
f. インターンシップ 保険	1. <u>学校負担</u> で学生全員がインターンシップ保険に加入 2. <u>自費</u> で学生全員がインターンシップ保険に加入 3. <u>学校負担</u> で学生の <u>一部が</u> インターンシップ保険に加入 4. <u>自費</u> で学生が <u>任意に</u> インターンシップ保険に加入 5. インターンシップ保険には入らない		
g. 採用(就職)との 関係	1. 採用試験の一環としてインターンシップを実施している 2. 採用内定者に入社前研修としてインターンシップを実施している 3. インターンシップと採用（就職）は、原則、直接関係していない 4. ケースによる		

問 8. 教職員の中に、キャリア教育に関する有資格者がいますか？（選択は 1 つ）

（資格の具体例は、付問 8 参照）

1. YES（→付問 8 へ）・ 2. NO

付問 8. どのような資格を有していますか？（選択はいくつでも）

1. 国家資格「キャリア・コンサルティング技能士」
2. NPO 日本教育カウンセラー協会認定「教育カウンセラー」
3. 社団法人日本産業カウンセラー協会認定「産業カウンセラー」
4. 日本キャリア教育学会認定「キャリア・カウンセラー」
5. 厚生労働省キャリア形成促進助成金（職業能力評価推進給付金）対象のキャリア・コンサルタント能力評価試験の合格者
6. 財団法人専修学校教育振興会認定「キャリア・サポーター」
7. その他（回答用紙に記入してください）

問 9. キャリア教育に関して、教職員対象の教育研修は行っていますか？（選択は 1 つ）

1. YES（→付問 9 へ）・ 2. NO

付問 9. どのような教育研修を行っていますか？（選択はいくつでも）

1. 校内研修（講演・講義・座学型）
2. 校内研修（ワークショップ、体験学習型）
3. 校外研修（専教振 キャリア・サポーター養成講座（旧・CSM 講座））
4. 校外研修（カウンセラー系（資格取得目的であるか否かは問いません））
5. 校外研修（キャリアコンサルタント系（資格取得目的であるか否かは問いません））
6. その他（回答用紙に記入してください）

問 10. 貴校のキャリア教育への取組みレベルについて、どのように評価していますか？

（選択は 1 つ）

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. かなり高いレベルにあると思う | 4. まだ低いレベルだと思う |
| 2. 相応のレベルにあると思う | 5. かなり低いレベルだと思う |
| 3. どちらともいえない | |

（4. 5. は付問 10 へ）

付問 10. 取組みレベルが低い原因は何ですか？（選択はいくつでも）

- | | |
|----------------------------------|-----------------------|
| 1. 組織としてキャリア教育の重要性をあまり認識できていないから | 5. 専任の担当者がいないから |
| 2. 担当者の養成が難しいから | 6. 特定の教員に依存しているから |
| 3. 担当者の人数が不足しているから | 7. 費用の対応が難しいから |
| 4. 担当者のスキル、経験が不足しているから | 8. 取組み方法が分からないから |
| | 9. その他（回答用紙に記入してください） |

問 11. 今後、貴校のキャリア教育の取組みに対して、どのようにお考えですか？（選択は1つ）

- | | |
|---------------------------|----------------|
| 1. よりレベルアップさせたい（→付問 11 へ） | 3. 現状よりも縮小させたい |
| 2. 現状通りでよい | |

付問 11.（問 11 で「1. よりレベルアップさせたい」とお答えの方に）それでは、どのような点を充実させたいとお考えですか？（選択はいくつでも）

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. 目的・理念・教育方針への反映 | 7. キャリア関連有資格者の育成 |
| 2. キャリア教育の方針策定 | 8. カリキュラムへの取込み |
| 3. 校内教職員への普及・啓発・研修 | 9. キャリア関係科目・授業の開発・運用 |
| 4. 全校あげての取組み | 10. 学生のやる気向上 |
| 5. 体系的・総合的・組織的な取組み | 11. 就職指導・支援の改革 |
| 6. 中退者の抑制 | 12. その他（回答用紙に記入してください） |

問 12. キャリア教育や、アンケートの内容、本事業等について、ご意見をお聞かせください。

自由記述

回答用紙に記入してください。

第2章 キャリア教育に関する実態調査

回答者のプロフィール

今回は「キャリア教育」に関する実態調査は、全国の専門学校においてカリキュラム編成の中心となっておられる方に回答をお願いしたところ、校長・副校長をはじめとした管理職にお答えいただいた（図表5参照）。

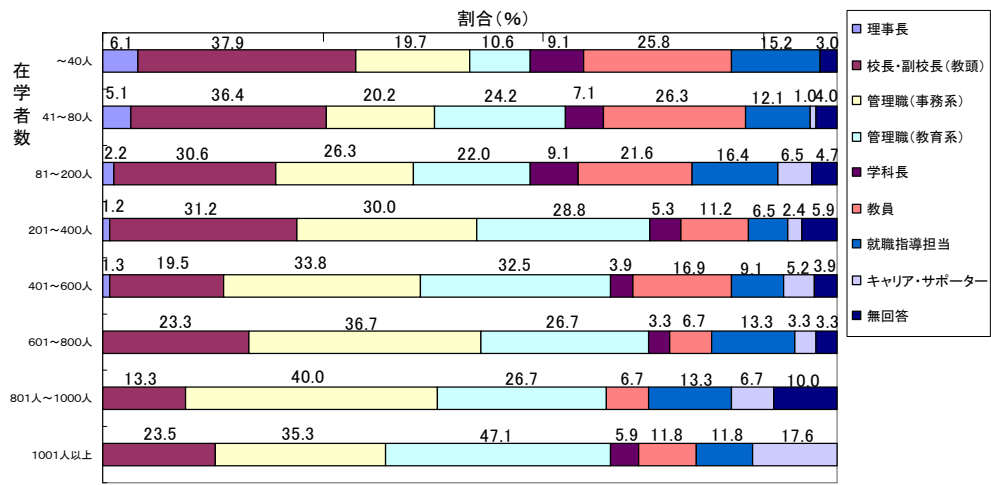
図表5 回答者のプロフィール

回答者のプロフィール 部署・役職	件数	理事長	校長・副校長 (教頭)	管理職 (事務系)	管理職 (教育系)	学科長	教員	就職指導担当	キャリア・サポーター	無回答
合計	725	17	215	200	180	49	131	89	30	36
割合 (%)	100.0	2.3	29.7	27.6	24.8	6.8	18.1	12.3	4.1	5.0

(1) 在学者数とのクロス集計

回答いただいた方の役職については在学者の規模別（図表6参照）で見ると、いわゆる小規模校では校長・副校長の割合が高く、200 人を越える規模の専門学校は管理職（事務系・教育系）の割合が高くなっていて、学校サイズによる役割分担の形態の差異がみられた。

図表6 回答者のプロフィール



第 1 部 調査回答校の概要について

問 1. 貴校が開設している教育分野は、どちらですか？（複数選択可）

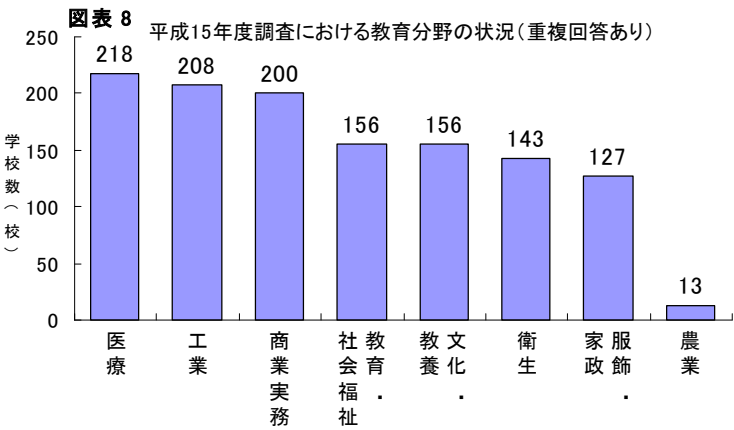
図表 7 開設している教育分野

	件数	工業	農業	医療	衛生	教育・社会福祉	商業実務	服飾・家政	文化・教養	無回答
問 1. 貴校が開設している教育分野は、どちらですか？（選択はいくつでも）										
合計	725	144	8	156	152	138	168	48	169	3
割合（％）	100.0	19.9	1.1	21.5	21.0	19.0	23.2	6.6	23.3	0.4

複数の教育分野を開設している学校もあり、上記のように述べ 986 校で、文化・教養、商業実務、医療、衛生そして工業、教育・社会福祉分野の順となっている（図表 7 参照）。

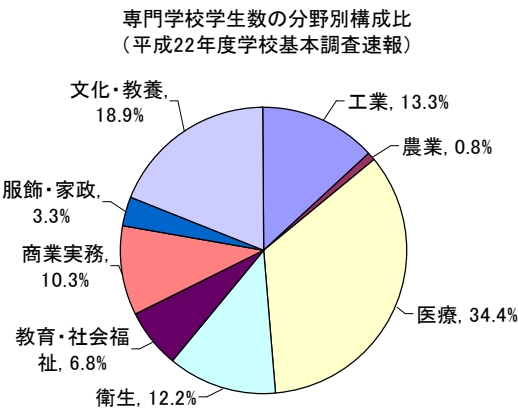
（ 1 ） 平成 15 年度調査との比較

前回 15 年度調査（図表 8 参照）と比較して、文化・教養分野の割合が若干高くなっている。



（ 2 ） 学校基本調査との比較

学校基本調査（図表 9 平成 22 年速報値）との比較では、全国専修学校各種学校総連合会加盟校への医療系専門学校の加入率が高くないことから、医療系専門学校の回答数が少なくなっている。



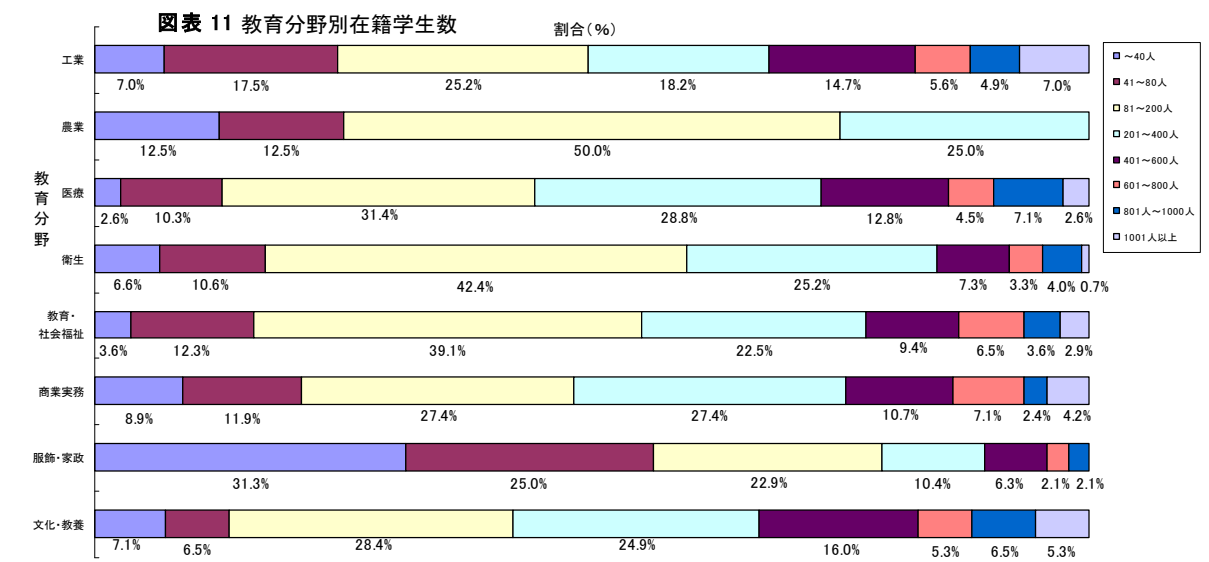
問 2．貴校の本年 5 月 1 日現在の在籍学生数は、どのくらいですか？（択一回答）

図表 10 在籍学生数

	件数	5 4 0 人	4 1 8 0 人	8 1 2 0 0 人	2 0 1 4 0 0 人	4 0 6 0 0 人	6 0 8 0 0 人	8 0 1 1 0 0 人	1 0 0 1 人 以上	無 回 答
問 2．貴校の本年5月1日現在の在籍学生数はどのくらいですか？（選択は1つ）										
合計	725	66	99	232	170	77	30	30	17	4
割合（％）	100.0	9.1	13.7	32.0	23.4	10.6	4.1	4.1	2.3	0.6

専門学校の在学者数については、①81 人～200 人（32％）②201 人～400 人（23.4％）③41 人～80 人（13.7％）であった（図表 10 参照）。

（1）教育分野とのクロス集計



教育分野別に見た回答は、図表 11 のとおりである。

問 3．平成 21 年度における自主退学者の割合は、どの程度でしたか。平成 21 年度当初の学生総数に占める割合でお答えください。（択一回答）

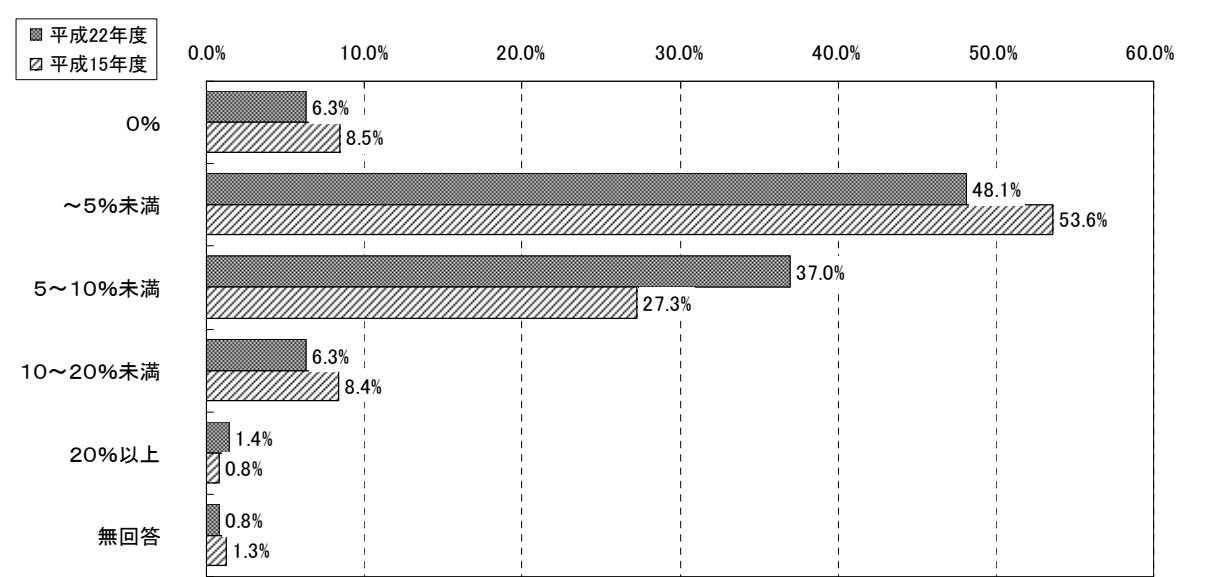
図表 12 自主退学者の割合

問 3．平成21年度における自主退学者の割合は、どの程度でしたか。平成21年度当初の在籍学生数に占める割合でお答えください。（選択は 1 つ）	件数	0 %	～ 5 % 未満	5 ～ 10 % 未満	10 ～ 20 % 未満	20 ～ 30 % 未満	30 % 以上	無回答
合計	725	46	349	268	46	9	1	6
割合（％）	100.0	6.3	48.1	37.0	6.3	1.2	0.1	0.8

平成 21 年度当初の在籍学生総数に占める自主退学者の割合は「～5%未満」が 48.1%と約半数、次いで「5～10%未満」が 37.0%と、全体の 8 割以上が 10%未満となっている。

（ 1 ） 平成 15 年度調査との比較

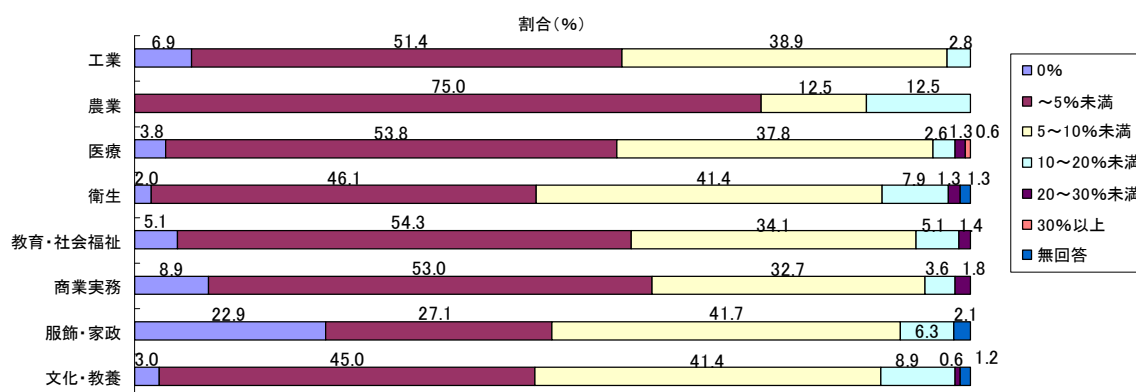
図表 13 自主退学者の割合（平成 22 年度と平成 15 年度の比較）



平成 15 年度調査との比較では、「5～10%未満」が大きくその割合を高めているが、回答した学校の実際の学生数規模等がわからないので、この比較をもとに専門学校全体の「退学率が増加傾向」と一概には言えない。どちらにしても今回の調査における自主退学率の平均が 5%未満にあることは、平成 15 年度調査と同様であった。

（２）教育分野とのクロス集計

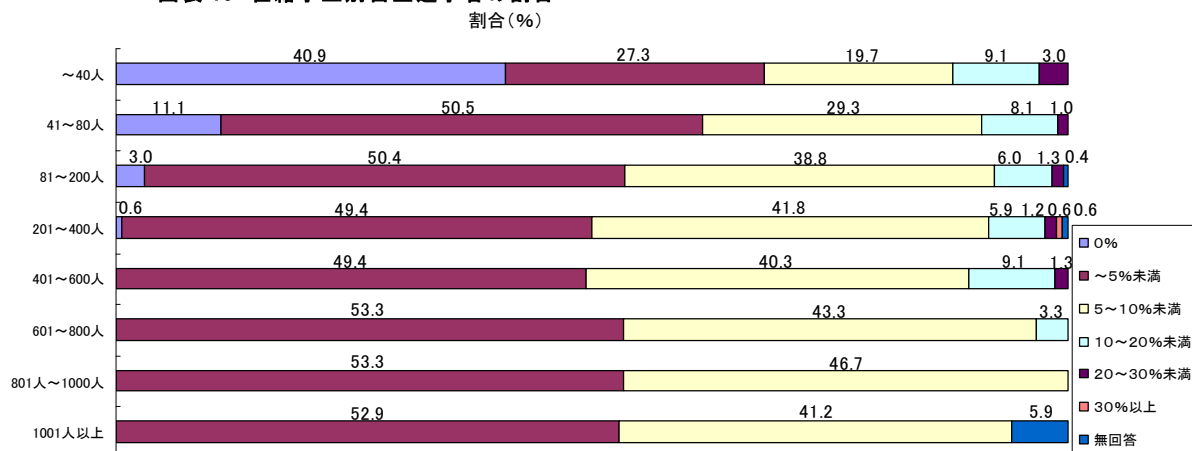
図表 14 教育分野別自主退学者の割合



教育分野別でみると、服装・家政分野が「0%」の割合が高く(22.9%)、医療分野では「10%以上」と回答した学校の割合が低い。これは前回の調査と同様である。また前回の調査では工業分野の10%以上の自主退学者が「11.5%」だったのに対し、今回の調査では「2.8%」と改善されており、医療分野よりもその割合は低い。

（３）在籍学生数とのクロス集計

図表 15 在籍学生別自主退学者の割合

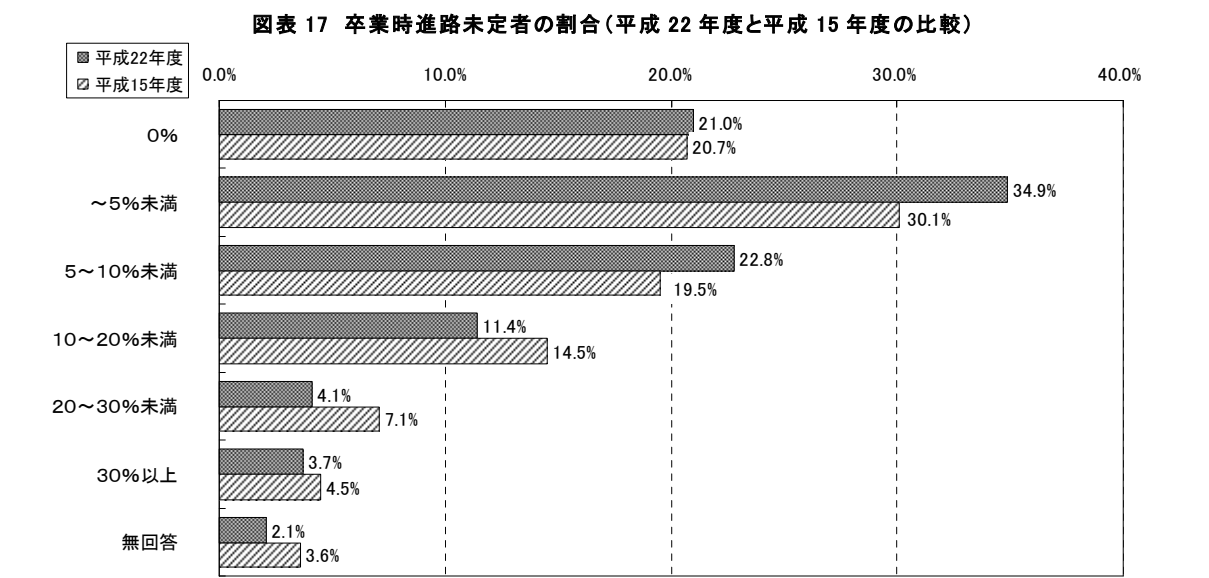


在籍学生数別で見たとき、「～40人」の場合は、退学者が「0%」の割合が40.9%と高く、「41～80人」の場合も11.1%である。在籍学生数が多くなるほど、退学者の割合が増加する傾向にあることがわかる。

問 4．平成 21 年度における卒業時進路未定者は、どの程度でしたか。年度末卒業生総数に占める割合でお答えください。（択一回答）

問 4．平成21年度における卒業時進路未定者は、どの程度でしたか。年度末卒業生総数に占める割合でお答えください。（選択は 1 つ）	件数	0 %	5 % 未満	5 ～ 10 % 未満	10 ～ 20 % 未満	20 ～ 30 % 未満	30 % 以上	無回答
合計	725	152	253	165	83	30	27	15
割合（％）	100.0	21.0	34.9	22.8	11.4	4.1	3.7	2.1

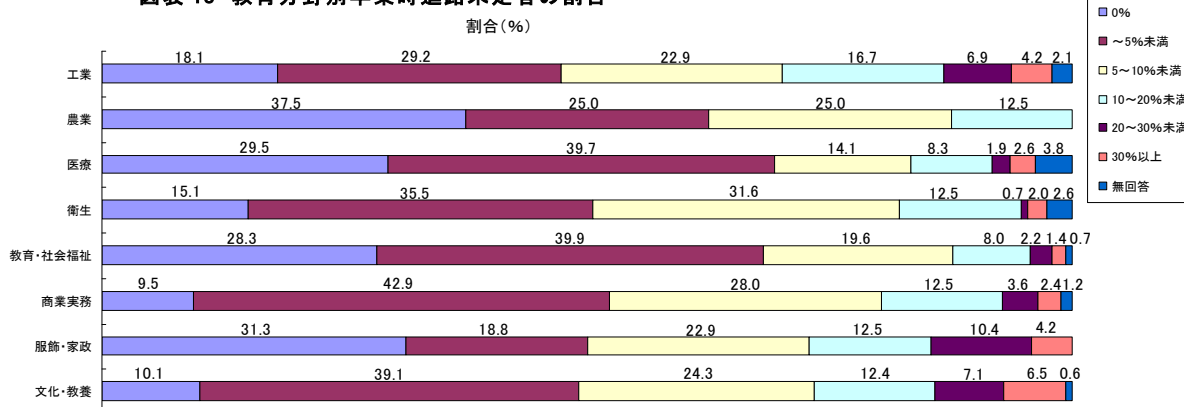
（ 1 ） 平成 15 年度調査との比較



卒業生総数に占める進路未定者の割合は、「5%未満」と回答した学校が全体の 34.9%と最も多く、「0%」と回答した学校も 21.0%、約 8 割の学校が 10%未満と回答をしている。平成 15 年度の調査時もちょうどバブル直後で現在と同様就職が大変厳しい時期ではあったが、卒業時進路に関しては今回の調査結果のほうが改善されているように思われる。

(2) 教育分野とのクロス集計

図表 18 教育分野別卒業時進路未定者の割合



教育分野別でみると前回同様に、教育・社会福祉と医療の2分野では割合が低く、7割近い学校が「5%未満(「0%」と「~5%未満」の合計)」と回答している。農業分野は、前回の調査では「5%未満」が3割だったのに対し、今回の調査では6割以上と健闘している。前回の調査では、服飾・家政と文化・教養の2分野では「20%以上(「20~30%未満」と「30%以上」の合計)」と回答した学校が2割以上あったのに対し、今回の調査では15%以下と改善されている。

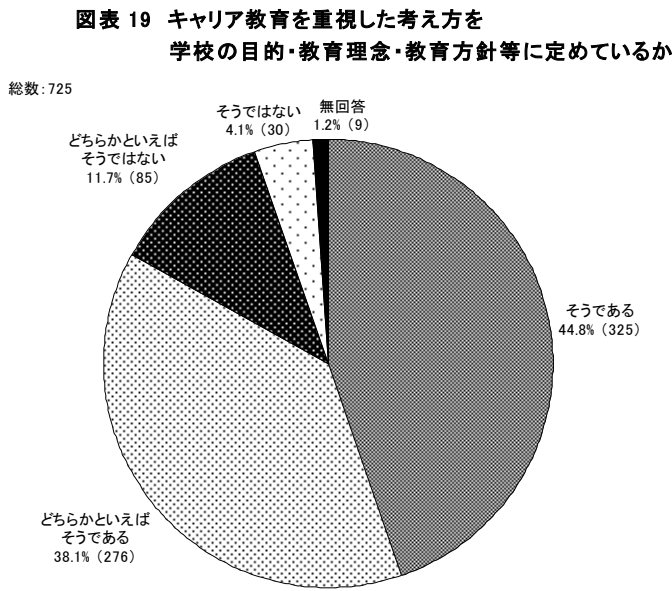
就職に関しては、医療や介護の世界など、有資格者が必須となる分野の学校は、不況時に対して就職は強く、また農業分野に関しては市場のニーズと教育内容が合致してきたのではないかと推測される。

第2部 キャリア教育への取組み

問5. 次の a. ～h. の各項目について、貴校の現状をお聞かせください。（択一回答）

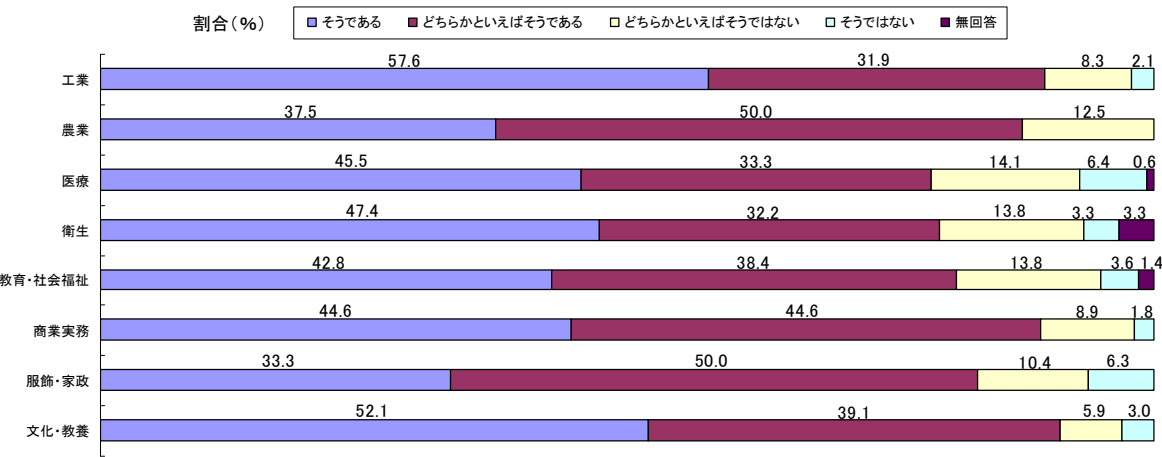
a. キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針等の中に定めている。

「そうである」と回答した学校が全体の44.8%、「どちらかといえばそうである」が38.1%と、全体の8割以上がキャリア教育を重視した考え方を学校の目的や教育理念、教育方針等に定めていると回答している（図表19参照）。



(1) 教育分野別の集計

図表 20 教育分野別キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針等に定めているか

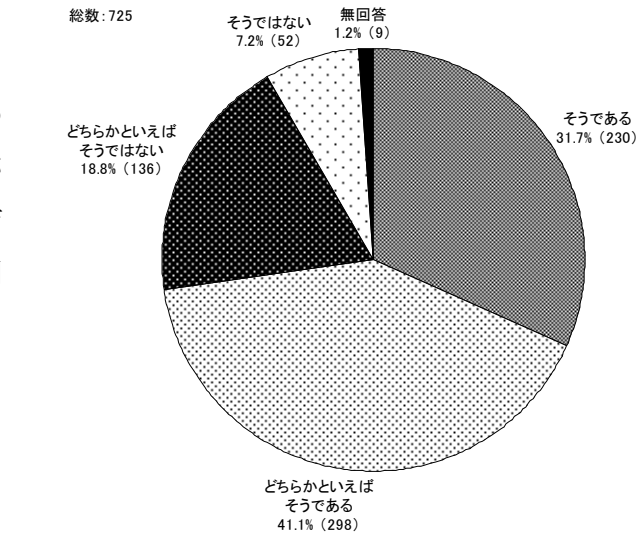


教育分野別（図表 20 参照）にみると、医療、衛生、教育・社会福祉、服飾・家政分野では、「どちらかといえばそうではない」「そうではない」と回答している割合が15%以上と、その他の分野よりも高い。学生の就職意欲の向上等を加味すると、工業や商業実務、文化・教育分野では、よりキャリア教育の必要性を感じていると推測される。

b. キャリア教育の方針を明確に定めているか

「そうである」と回答した学校が全体の31.7%、「どちらかといえばそうである」が41.1%と、全体の約7割の学校がキャリア教育の方針を明確に定めていると回答している（図表 21 参照）。

図表 21 キャリア教育の方針を明確に定めているか



(1) キャリア教育の現状とのクロス集計

図表 22 キャリア教育の方針とキャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針等に定めているか

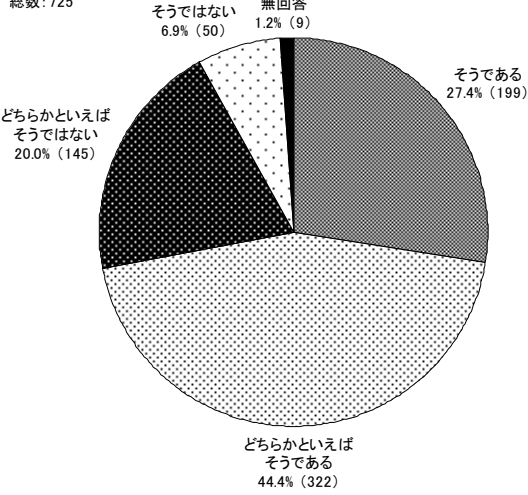
		件数	そうである	るえど ばち そら うか であ い	なえど いば ち そら うか で は い	そう で は な い	無 回 答
問 5 b. 現状／キャリア教育の方針を明確に定めている							
合計		725	230	298	136	52	9
割合 (%)		100.0	31.7	41.1	18.8	7.2	1.2
問 5 a. 現状／キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針等の中に定めている	そうである	325	214	104	7	—	—
	どちらかといえばそうである	276	15	191	65	5	—
	どちらかといえばそうではない	85	—	3	61	21	—
	そうではない	30	1	—	3	26	—
		100.0	3.3	—	10.0	86.7	—

前出問 5－a. との回答と比べてみると、学校の目的・教育理念・教育方針等に定めていると回答した学校の 65.8%はキャリア教育の方針を明確に定めているが、残りの学校は具体的な方針を明確に定めてはいないと回答をしている（図表 22 参照）。

c. 全校をあげて、体系的・総合的なキャリア教育を実践している

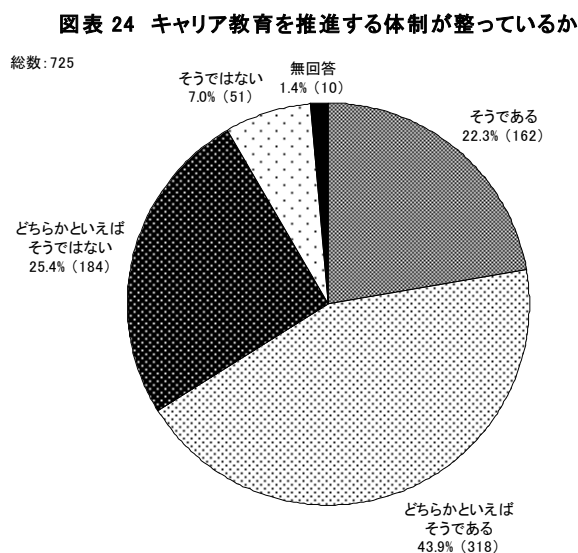
「そうである」と回答した学校が全体の3割を切るが、「どちらかといえばそうである」が44.4%と合わせて全体の約7割の学校が、全校をあげて体系的・総合的なキャリア教育を実践していると回答している（図表 23 参照）。

図表 23 体系的・総合的なキャリア教育を実践しているか

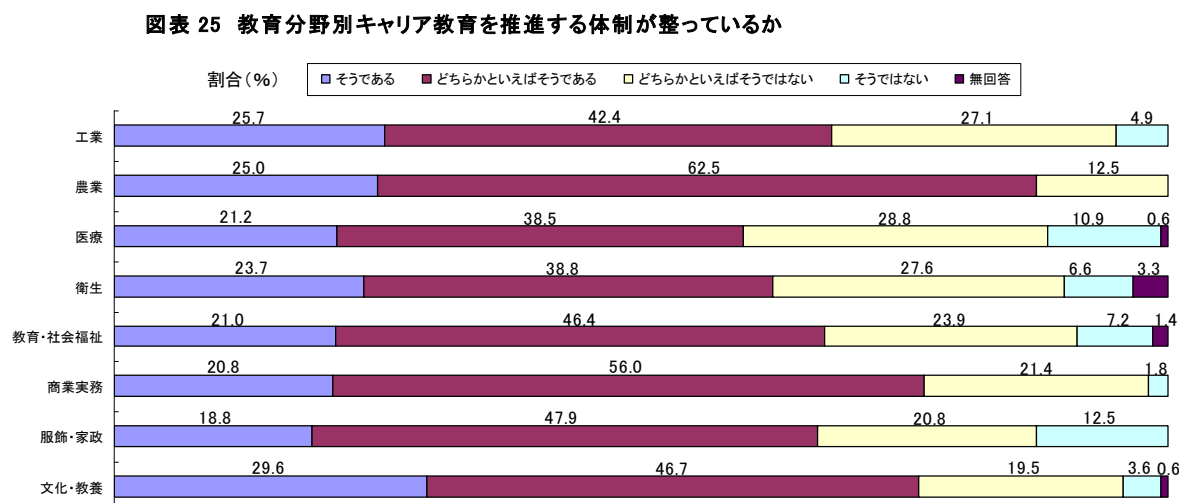


d. キャリア教育を積極的に推進する体制が整っている

「そうである」と回答した学校が全体の22.3%、「どちらかといえばそうである」が43.9%と、全体の6割以上の学校が、キャリア教育を推進する体制が整っていると回答している（図表24参照）。



(1) 教育分野とのクロス集計

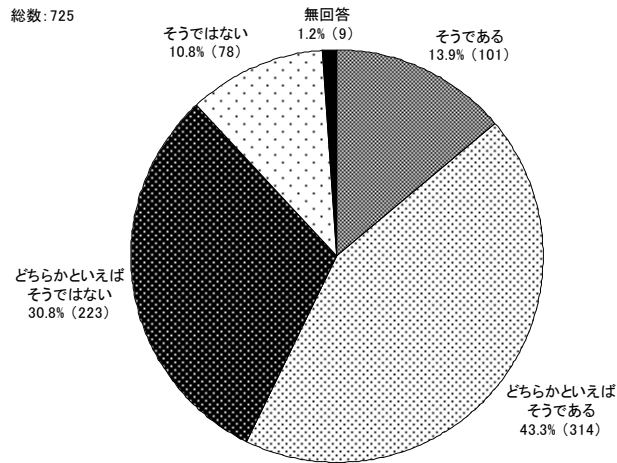


教育分野別（図表25参照）にみると、農業、商業実務、文化・教育分野では75%以上の学校が「そうである」「どちらかといえばそうである」と回答している。問5－a.と比較してみると、工業分野ではキャリア教育の必要性を感じてはいるものの、体制についてはまだ未整備であると感じている学校の割合が多いと回答している。

e. キャリア教育を評価・改善する機能や取組みがある

図表 26 キャリア教育を評価・改善する機能や取組みがあるか

「そうである」と回答した学校が全体の 13.9%、「どちらかといえばそうである」が 43.3%と、評価や改善する機能や取組みについてはまだ不十分であると回答している（図表 26 参照）。



(1) キャリア教育の現状とのクロス集計

図表 27 キャリア教育を評価・改善する機能や取組みとキャリア教育を推進する体制が整っているか

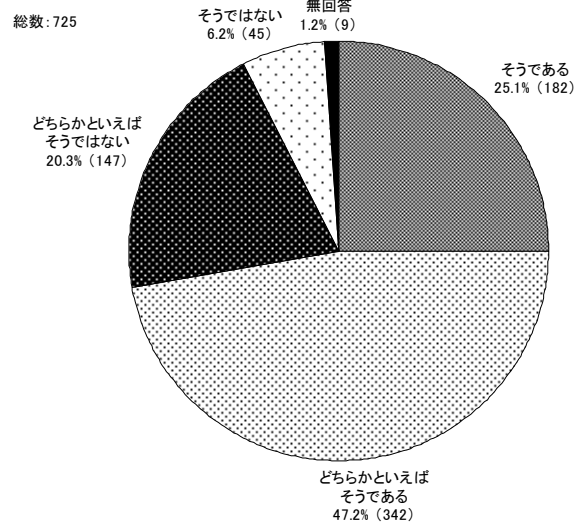
問 5 e. 現状／キャリア教育を評価・改善する機能や取組みがある		件数	そうである	るえど ばち そら うか であ い	なえど いばち そら うか でと はい	そう で は な い	無 回 答
合計		725	101	314	223	78	9
割合 (%)		100.0	13.9	43.3	30.8	10.8	1.2
問 5 d. 現状／キャリア教育を積極的に推進する体制が整っている	そうである	162	83	71	8	—	—
	どちらかといえばそうである	318	17	216	83	2	—
	どちらかといえばそうではない	184	1	25	127	31	—
	そうではない	51	—	1	5	45	—
		100.0	—	2.0	9.8	88.2	—

前出問 5－d. との回答と比べてみると、キャリア教育を積極的に推進する体制が整っていると回答した学校でも、評価・改善するや取組みがあると回答した学校は、そのうちの 51.3%に留まっている（図表 27 参照）。

f. キャリア教育について、教職員に対する普及に努力している

図表 28 キャリア教育の教職員に対する普及に努力しているか

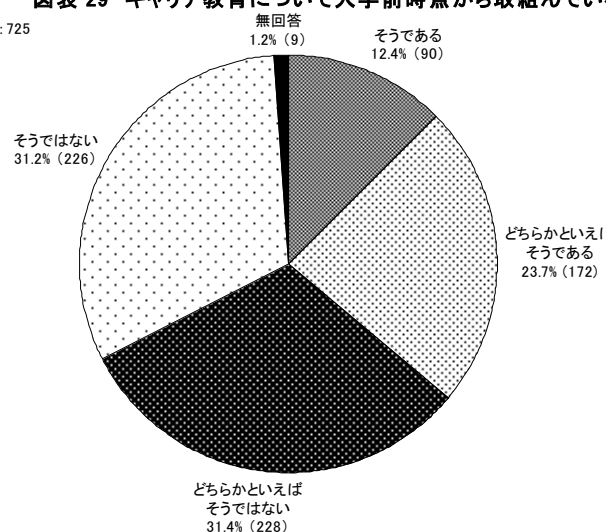
「そうである」と回答した学校が全体の 25.1%、「どちらかといえばそうである」が 47.2%と合わせて全体の 7 割以上の学校が、教職員に対する普及に努力していると回答している。



g. キャリア教育について、入学前の時点から取組んでいる

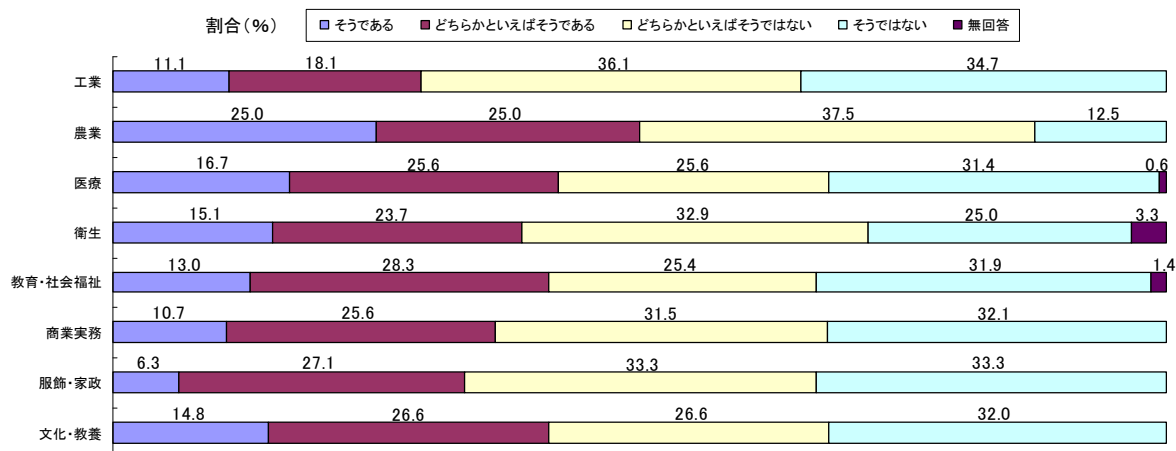
全体の 3 分の 1 強が「そうである」「どちらかといえばそうである」と回答しているが、「どちらかといえばそうではない」「そうではない」と回答する学校もそれぞれ存在する。入学前時点からの取組みについては、各校対応にばらつきがある（図表 29 参照）。

図表 29 キャリア教育について入学前時点から取組んでいるか
総数: 725



(1) 教育分野とのクロス集計

図表 30 教育分野別キャリア教育について入学前時点から取組んでいるか

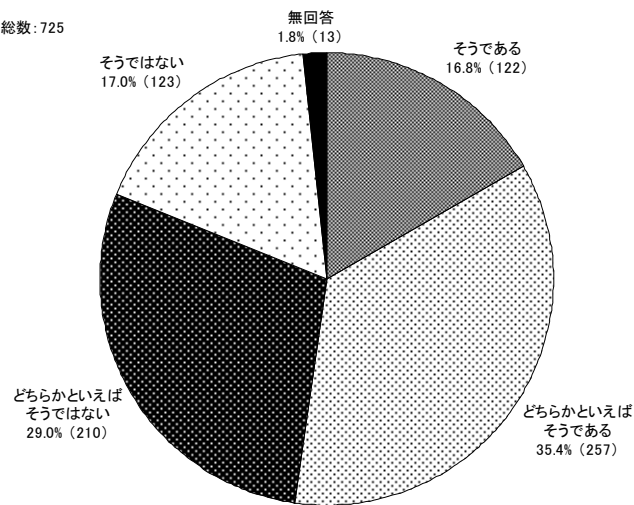


分野別（図表 30 参照）に見た場合、農業分野では「そうである」「どちらかといえばそうである」の合計が 50.0%と高く、「そうではない」が 12.5%と低い。農業分野に関しては、全体的に入学前のキャリア教育に関して特に積極的であるということが伺える。

h. キャリア教育について、卒業生に対するサービスや支援を行っている

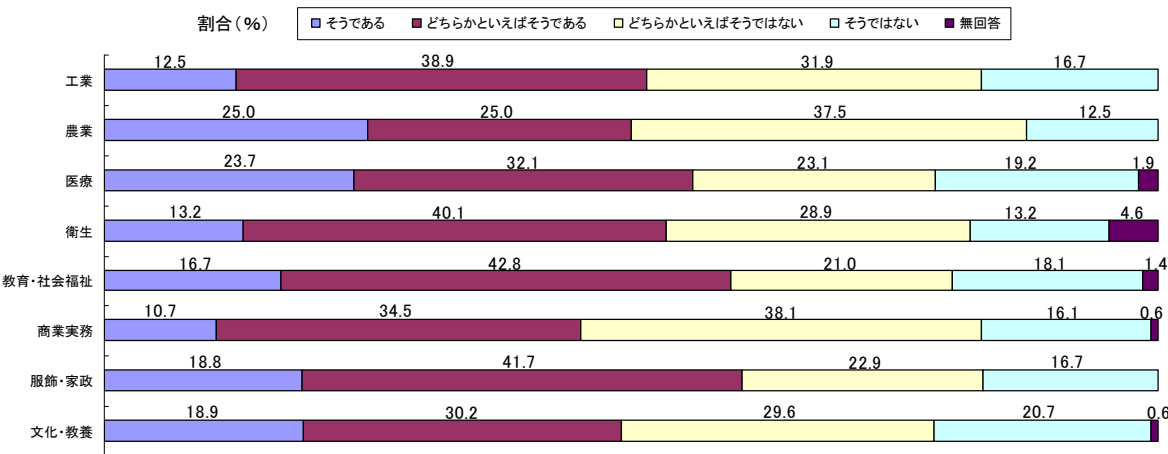
「そうである」と回答した学校が16.8%、「どちらかといえばそうである」が35.4%と、全問の入学前のキャリア教育よりも取組みの多い学校がある。一方では「そうではない」と回答する学校も17.0%ある（図表 31 参照）。

図表 31 キャリア教育の卒業生に対するサービスや支援を行っているか



(1) 教育分野とのクロス集計

図表 32 教育分野別キャリア教育の卒業生に対するサービスや支援を行っているか



分野別に見た回答は、図表 32 のとおりである。

問 6．キャリア教育を行っている外部機関と連携をとっていますか？（択一回答）

図表 33 キャリア教育を行っている外部機関との連携と
キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針等に定めているか

問 6．キャリア教育を行っている外部機関との連携をとっていますか？（選択肢は 1 つ）		件数	Y E S	N O	無 回 答
合計		725	391	330	4
割合（％）		100.0	53.9	45.5	0.6
問 5 a．キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針等の中に定めている。	そうである	325	244	81	
	割合（％）	100.0	75.1	24.9	－
	どちらかといえばそうである	276	117	159	
	割合（％）	100.0	42.4	57.6	－
	どちらかといえばそうではない	85	24	61	
	割合（％）	100.0	28.2	71.8	－
	そうではない	30	5	25	
	割合（％）	100.0	16.7	83.3	－

キャリア教育を行っている外部機関との連携は、ほぼ半数（391 校、53.9％）が行っていると回答している。

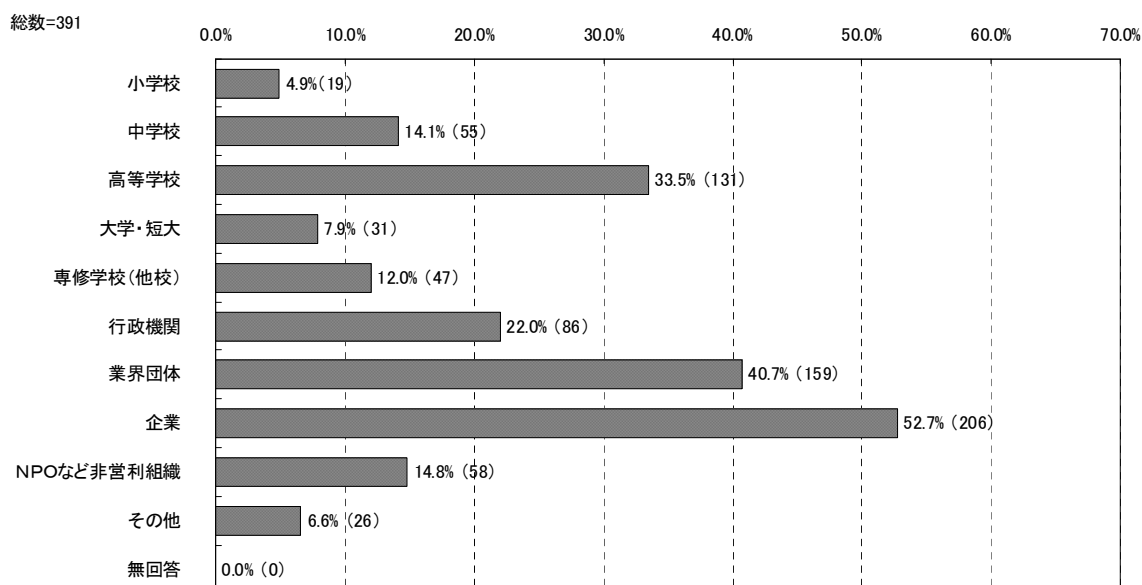
（１）キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針等の中に定めているか、とのクロス集計

特に、「キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針等の中に定めている」とする 325 校中 244 校の 75.1％が、外部機関と連携をしており、方針を明確に定め(77.8％)、実践している(78.9％)と回答している学校が、外部連携していると傾向があると思われる。

付問 6. 連携先に当てはまる項目に○をしてください。

図表 34 キャリア教育の連携先

※「問 6. キャリア教育を行っている外部機関と連携をとっていますか？」にYESと回答した学校が対象



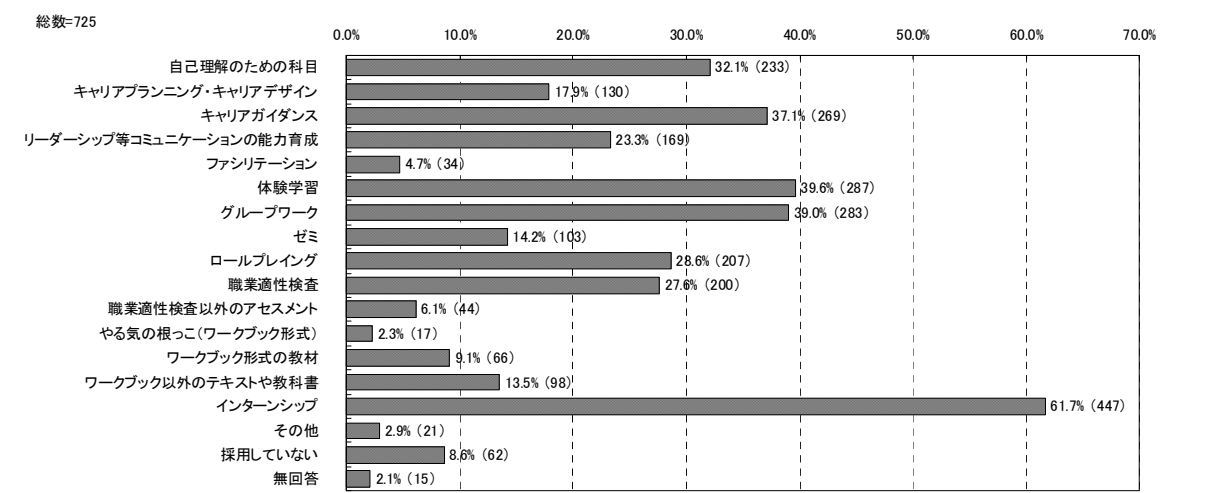
外部機関と連携を取っている391校中206校の52.7%が、「企業」を連携先と回答している。次いで159校40.7%が「業界団体」をあげている。同時に、キャリア教育を提供する相手として、「小学校」(4.9%)、「中学校」(14.1%)、「高等学校」(33.5%)の教育機関をあげている。

しかし、「他校専修学校」は12.0%、「大学・短大」は7.9%と少なく、「行政機関」とは22.0%、「NPOなどの非営利組織」とは14.8%とあまり多くないようである。

キャリア教育を行う上で、企業や業界団体と半数強が連携をしている。さらに、他教育機関とは、キャリア教育をサポートする立場で、特に高等学校と3割強の学校が連携をしている状況にある。しかしながら、高等教育機関同士(大学・短大、専修学校)との連携はあまり行われず、また行政機関等の公的機関とのサポート連携は十分行われていないのが現状だといえよう。

問7. キャリア教育に関する科目や学習法、教材として採用している項目に○をしてください。(複数回答可)

図表 35 キャリア教育に関する科目や学習法、教材として採用している項目



キャリア教育として、「インターンシップ」を、最も多く 447 校 61.7%が採用している。

次いで、「体験学習」を 287 校 39.6%の学校が採用している。さらに「グループワーク」を 283 校 39%が採用しており、「キャリアガイダンス」を 269 校 37.1%が行っている。

「自己理解のための科目」を 233 校 32.1%の学校が実施しており、「ロールプレイング」(28.6%)や「職業適性検査」(27.6%)そして「リーダーシップ等コミュニケーションの能力育成」(23.3%)を 30%弱の学校で行っている。

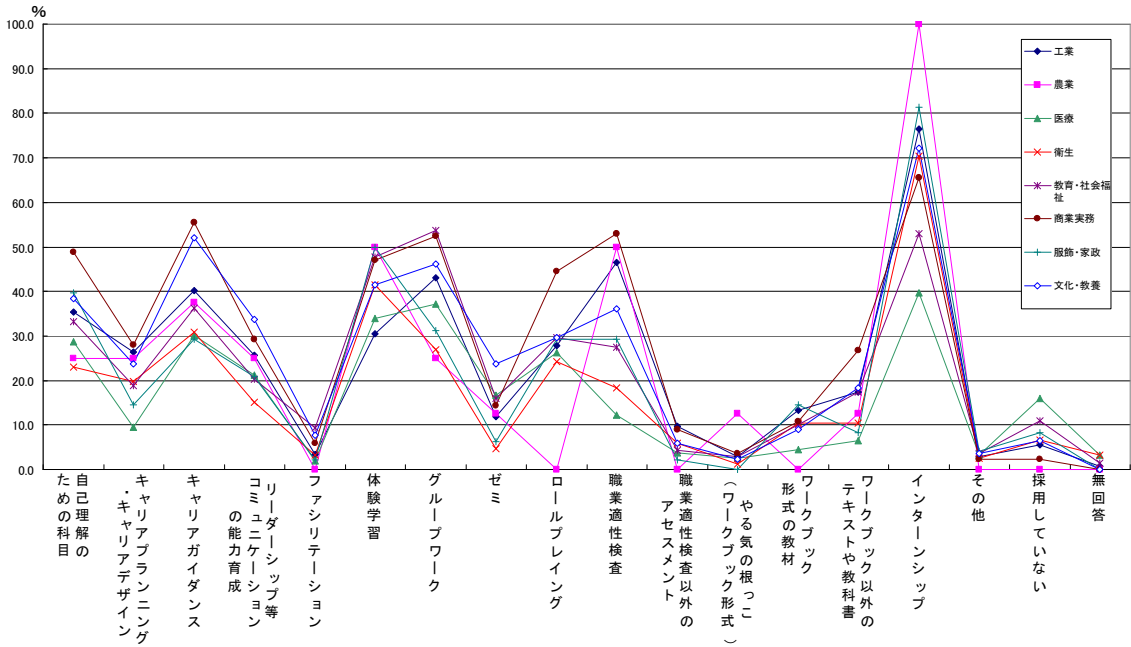
キャリア教育を行う上で、体系的学習として、「キャリアガイダンス」または「キャリアデザイン」(17.9%)等を科目として採用しているようである。そして、自己理解及び仕事理解のステップを行う上で、「体験学習」や「グループワーク」、「ロールプレイング」などの学習方法を導入しており、さらに、客観的な理解を深めるための「職業適性検査」を行い、ワークブック形式による教材を活用した主体的活動通じて、自己理解を深めるようにしているようである。

(1) 教育分野とのクロス集計

図表 36 教育分野別キャリア教育に関する科目や学習法、教材として採用している項目

問7. キャリア教育に関する科目や学習法、教材として採用している項目に○をしてください。（選択はいくつでも）	件数	自己理解のための科目	キャリアプランデザイン	キャリアガイダンス	能力育成	リーダーシップ等のコミュニケーション	フシリテーション	体験学習	グループワーク	ゼミ	ロールプレイング	職業適性検査	職業適性検査以外のアセスメント	職業適性検査以外のワークブック形式の教材	やる気の根拠となるワークブック形式の教材	ワークブック以外のテキストや教科書	インターンシップ	その他	採用していない	無回答
合計	725	233	130	269	169	34	287	283	103	207	200	44	17	66	98	447	21	62	15	
割合 (%)	100.0	32.1	17.9	37.1	23.3	4.7	39.6	39.0	14.2	28.6	27.6	6.1	2.3	9.1	13.5	61.7	2.9	8.6	2.1	
開設教育分野：工業	144	51	38	58	37	5	44	62	17	40	67	14	4	19	25	110	4	8	1	
割合 (%)	100.0	35.4	26.4	40.3	25.7	3.5	30.6	43.1	11.8	27.8	46.5	9.7	2.8	13.2	17.4	76.4	2.8	5.6	0.7	
農業	8	2	2	3	2	—	4	2	1	—	4	—	—	1	1	8	—	—	—	
割合 (%)	100.0	25.0	25.0	37.5	25.0	—	50.0	25.0	12.5	—	50.0	—	—	12.5	12.5	100.0	—	—	—	
医療	156	45	15	47	33	3	53	58	26	41	19	6	—	7	10	62	5	25	5	
割合 (%)	100.0	28.8	9.6	30.1	21.2	1.9	34.0	37.2	16.7	26.3	12.2	3.8	—	4.5	6.4	39.7	3.2	16.0	3.2	
衛生	152	35	30	47	23	5	63	41	7	37	28	9	2	16	16	107	4	10	5	
割合 (%)	100.0	23.0	19.7	30.9	15.1	3.3	41.4	27.0	4.6	24.3	18.4	5.9	1.3	10.5	10.5	70.4	2.6	6.6	3.3	
教育・社会福祉	138	46	26	50	28	13	66	74	22	41	38	6	4	14	24	73	5	15	2	
割合 (%)	100.0	33.3	18.8	36.2	20.3	9.4	47.8	53.6	15.9	29.7	27.5	4.3	2.9	10.1	17.4	52.9	3.6	10.9	1.4	
商業実務	168	82	47	93	49	10	79	88	24	75	89	15	6	18	45	110	4	4	4	
割合 (%)	100.0	48.8	28.0	55.4	29.2	6.0	47.0	52.4	14.3	44.6	53.0	8.9	3.6	10.7	26.8	65.5	2.4	2.4	—	
服飾・家政	48	19	7	14	10	1	24	15	3	14	14	1	—	7	4	39	2	4	—	
割合 (%)	100.0	39.6	14.6	29.2	20.8	2.1	50.0	31.3	6.3	29.2	29.2	2.1	—	14.6	8.3	81.3	4.2	8.3	—	
文化・教養	169	65	40	88	57	13	70	78	40	50	61	10	4	15	31	122	6	11	—	
割合 (%)	100.0	38.5	23.7	52.1	33.7	7.7	41.4	46.2	23.7	29.6	36.1	5.9	2.4	8.9	18.3	72.2	3.6	6.5	—	

図表 37 教育分野別キャリア教育に関する科目や学習法、教材として採用している項目



「医療分野」(39.7%)、「教育・社会福祉分野」(52.9%)は、他分野(全体平均 61.7%)と比較して同趣旨による「インターンシップ」の実施率が低い結果となっている。「医療分野」「教育・社会福祉分野」はともに、厚生労働省指定の養成施設として、教育課程で実習が義務づけられていることから、今回の趣旨の「インターンシップ」は他の分野と比較して低いものとなったと推測される。

「キャリアガイダンス」(全体 37.1%)は、「商業実務分野」(55.4%)「文化・教養分野」(52.1%)「工業分野」(40.3%)の3分野で多く実施されている。

(2) 自主退学率割合とのクロス集計

図表 38 キャリア教育に関する科目や学習法、教材として採用している項目と自主退学者

問 7. キャリア教育に関する科目や学習法、教材として採用している項目に○をしてください。(選択はいくつでも)	件数	自己理解のための科目	キャリア・キャリアプランデザイン	キャリアガイダンス	能力育成	ミニディーション等のコミュニケーション	フシリディーション	体験学習	グループワーク	ゼミ	ロールプレイング	職業適性検査	職業適性検査以外のアセスメント	志ややる気の場としてのワークブック形式の教材	ワークブック形式の教材以外の教科書	インターンシップ	その他	採用していない	無回答
合計	725	233	130	269	169	34	287	283	103	207	200	44	17	66	98	447	21	62	15
割合 (%)	100.0	32.1	17.9	37.1	23.3	4.7	39.6	39.0	14.2	28.6	27.6	6.1	2.3	9.1	13.5	61.7	2.9	8.6	2.1
自主退学者割合、... 0%	46	13	7	15	8	2	21	16	8	14	12	3	—	3	7	27	2	8	—
～5%未満	349	112	56	135	94	19	140	130	58	98	91	21	13	26	41	219	11	23	4
	100.0	32.1	16.0	38.7	26.9	5.4	40.1	37.2	16.6	28.1	26.1	6.0	3.7	7.4	11.7	62.8	3.2	6.6	1.1
5～10%未満	268	95	56	105	61	11	111	119	27	85	86	19	1	32	46	168	7	20	7
	100.0	35.4	20.9	39.2	22.8	4.1	41.4	44.4	10.1	31.7	32.1	7.1	0.4	11.9	17.2	62.7	2.6	7.5	2.6
10～20%未満	46	10	9	10	4	1	12	15	9	8	9	1	3	3	4	24	1	8	1
	100.0	21.7	19.6	21.7	8.7	2.2	26.1	32.6	19.6	17.4	19.6	2.2	6.5	6.5	8.7	52.2	2.2	17.4	2.2
20～30%未満	9	2	1	3	2	1	2	2	2	1	2	—	—	1	6	6	—	1	1
	100.0	22.2	11.1	33.3	22.2	11.1	22.2	22.2	11.1	11.1	22.2	—	—	11.1	—	66.7	—	11.1	11.1
30%以上	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—

自主退学者割合が 10%未満となっている学校では、「体験学習」を実施している学校が 40%を超えている。反面、自主退学者割合が 10%以上の学校では、「体験学習」の実施率は 20%台という低い状況にある。

(3) 卒業時進路未定者割合とのクロス集計

図表 39 キャリア教育に関する科目や学習法、教材として採用している項目と卒業時進路未定者

問 7. キャリア教育に関する科目や学習法、教材として採用している項目に○をしてください。(選択はいくつでも)	件数	自己理解のための科目	キャリア・キャリアプランデザイン	キャリアガイダンス	能力育成	ミニディーション等のコミュニケーション	フシリディーション	体験学習	グループワーク	ゼミ	ロールプレイング	職業適性検査	職業適性検査以外のアセスメント	志ややる気の場としてのワークブック形式の教材	ワークブック形式の教材以外の教科書	インターンシップ	その他	採用していない	無回答
合計	725	233	130	269	169	34	287	283	103	207	200	44	17	66	98	447	21	62	15
割合 (%)	100.0	32.1	17.9	37.1	23.3	4.7	39.6	39.0	14.2	28.6	27.6	6.1	2.3	9.1	13.5	61.7	2.9	8.6	2.1
卒業時進路未定者割合、... 0%	152	38	14	35	33	5	70	60	19	37	26	4	1	4	13	91	5	19	4
～5%未満	100.0	25.0	9.2	23.0	21.7	3.3	46.1	39.5	12.5	24.3	17.1	2.6	0.7	2.6	8.6	59.9	3.3	12.5	2.6
5～10%未満	253	82	45	106	78	18	105	95	52	73	67	20	5	30	32	154	9	16	5
	100.0	32.4	17.8	41.9	30.8	7.1	41.5	37.5	20.6	28.9	26.5	7.9	2.0	11.9	12.6	60.9	3.6	6.3	2.0
10～20%未満	165	69	43	79	32	6	73	77	14	64	60	11	5	16	34	102	4	9	3
	100.0	41.8	26.1	47.9	19.4	3.6	44.2	46.7	8.5	38.8	36.4	6.7	3.0	9.7	20.6	61.8	2.4	5.5	1.8
20～30%未満	83	25	19	30	18	2	24	32	13	19	27	6	3	6	9	57	—	9	1
	100.0	30.1	22.9	36.1	21.7	2.4	28.9	38.6	15.7	22.9	32.5	7.2	3.6	7.2	10.8	68.7	—	10.8	1.2
30%以上	30	10	5	13	1	1	6	8	2	5	12	2	1	4	6	19	2	5	—
	100.0	33.3	16.7	43.3	3.3	3.3	20.0	26.7	6.7	16.7	40.0	6.7	3.3	13.3	20.0	63.3	6.7	16.7	—
	27	4	3	5	4	7	6	3	4	8	4	1	—	1	4	16	1	1	—
	100.0	14.8	11.1	18.5	11.1	3.7	25.9	22.2	11.1	14.8	29.6	3.7	3.7	3.7	14.8	59.3	3.7	3.7	—

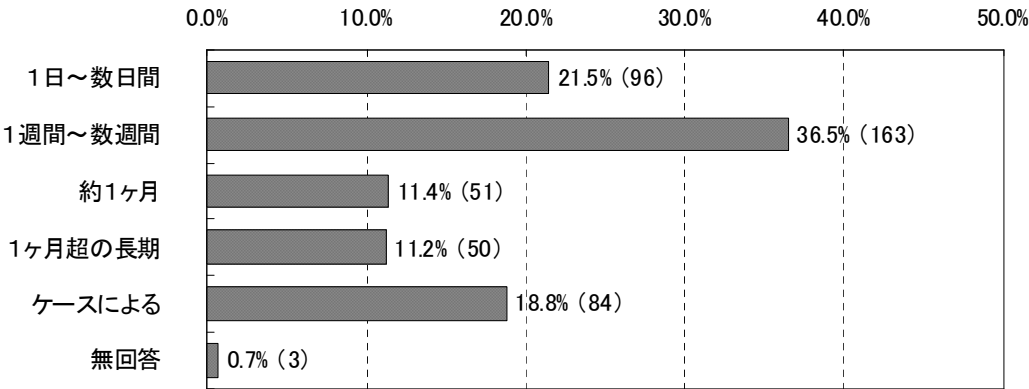
同様な傾向は、卒業時進路未定者割合もデータとして出ている。「体験学習」を実施している学校では、10%未満となっている学校が 40%を超えており。反面、10%以上の卒業時進路未定者割合の学校は、20%台の実施率という低い状況である。

付問 7. 貴校が取組まれている最も代表的なインターンシップの内容に○をしてください。複数のインターンシップを実施している場合は、期間が最も長いもの、または最もキャリア教育として有効であると考えるもので回答してください。(択一回答)

a. 期間

総数=447

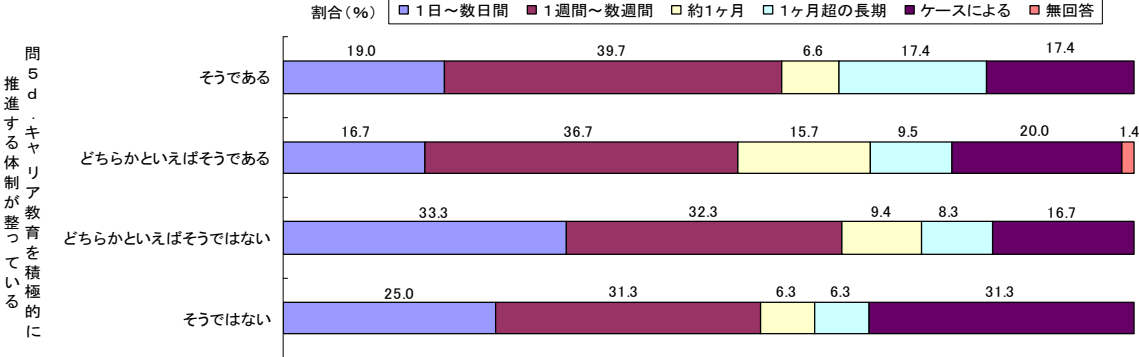
図表 40 取り組んでいる最も代表的なインターンシップの期間



インターンシップは、「1日～数日間」で21.5%が実施しており、「1週間～数週間」で36.5%が実施している。合わせると57%の過半数を占めており、「約1ヶ月」実施している学校は11.4%で、「1ヶ月超の長期」実施している学校は、11.2%となっている。さらに、「ケースにより」期間を対応して実施しているところは、18.8%である。

(1) キャリア教育を推進する体制とのクロス集計

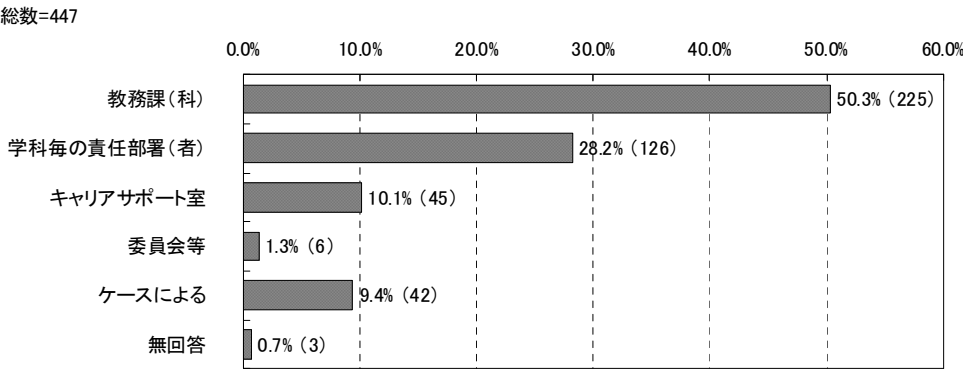
図表 41 インターンシップの期間別キャリア教育を積極的に推進する体制の整備



インターンシップの期間は、問 5－d.「キャリア教育を積極的に推進する体制が整っている」と回答している学校では、そうではない学校よりも1ヶ月以上の期間を行っている傾向が強いようである。

b. 実施管理部署

図表 42 取り組んでいる最も代表的なインターンシップの実施管理部署

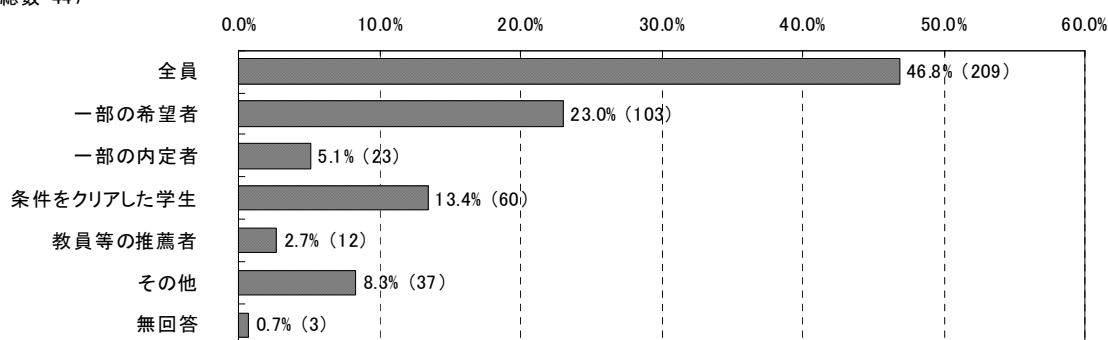


インターンシップの実施管理部署は、ほぼ半数の 50.3%が「教務課（科）」となっている。次いで、「学科毎の責任部署（者）」で 28.2%が行い、「キャリアサポート室」で行っている学校は 10.1%と多くはないようである。インターンシップは教育の一環として行うために、教務部門が管理していると推測される。

c. 参加対象

図表 43 取り組んでいる最も代表的なインターンシップの参加対象者

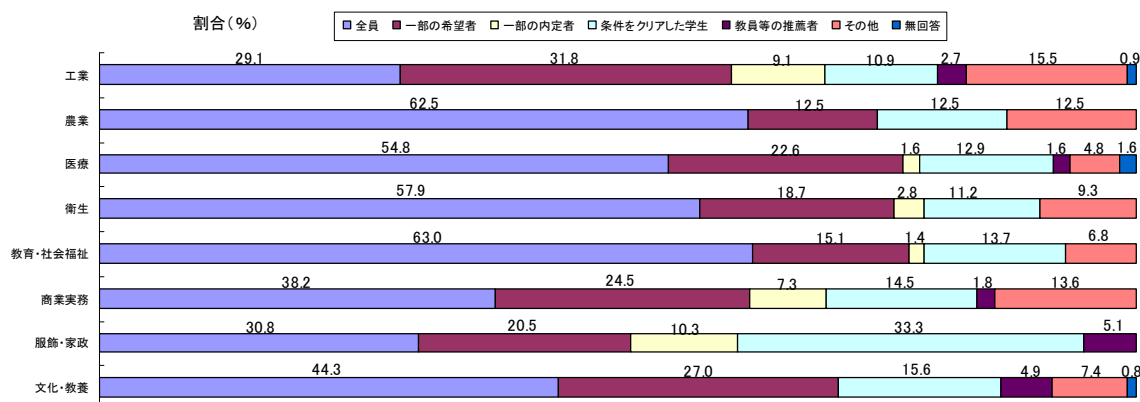
総数=447



インターンシップの参加対象を「全員」としている学校は、46.8%である。「一部の希望者」に参加させているところは23%で、「条件をクリアした学生」には13.4%となっている。

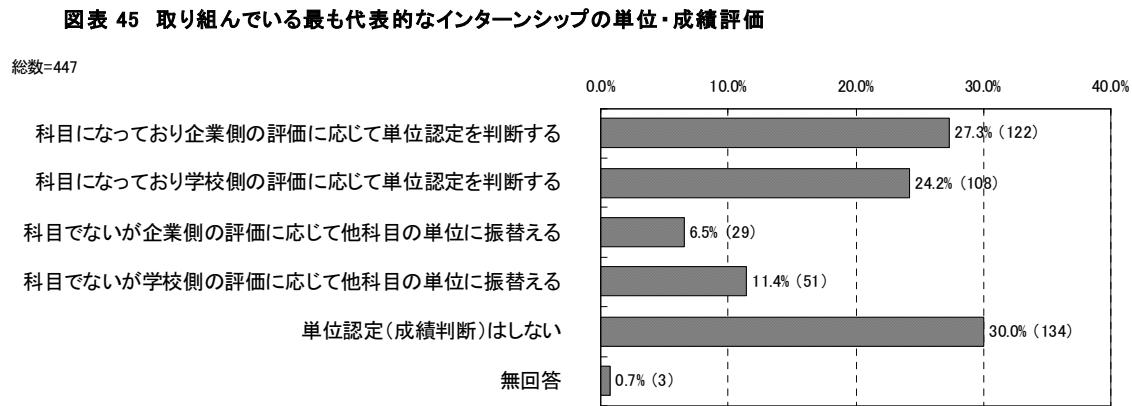
(1) 教育分野とのクロス集計

図表 44 教育分野別 取り組んでいる最も代表的なインターンシップの参加対象者



教育分野別でみると、「工業分野（29.1%）」、「服飾・家政分野（30.8%）」の全員参加率が低い。工業分野では高いのは「一部の希望者」、服飾分野で高いのは「条件をクリアした学生」となっているのが特徴的である。

d. 単位（成績）



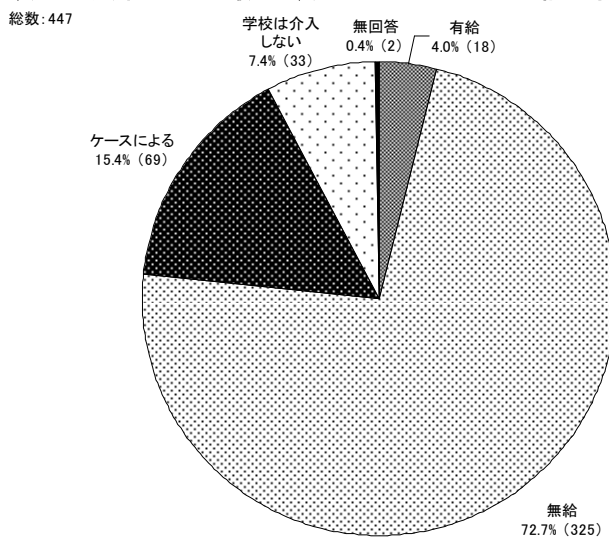
インターンシップの単位・成績評価は、27.3%の学校が「科目として企業側の評価に応じて単位認定を判断している」ようで、24.2%の学校は「科目となっており学校側の評価に応じて単位認定を判断している」。

しかしながら、30.6%の学校は「単位認定（成績判断）はしていない」でインターンシップを実施しているようである。

e. 給与等

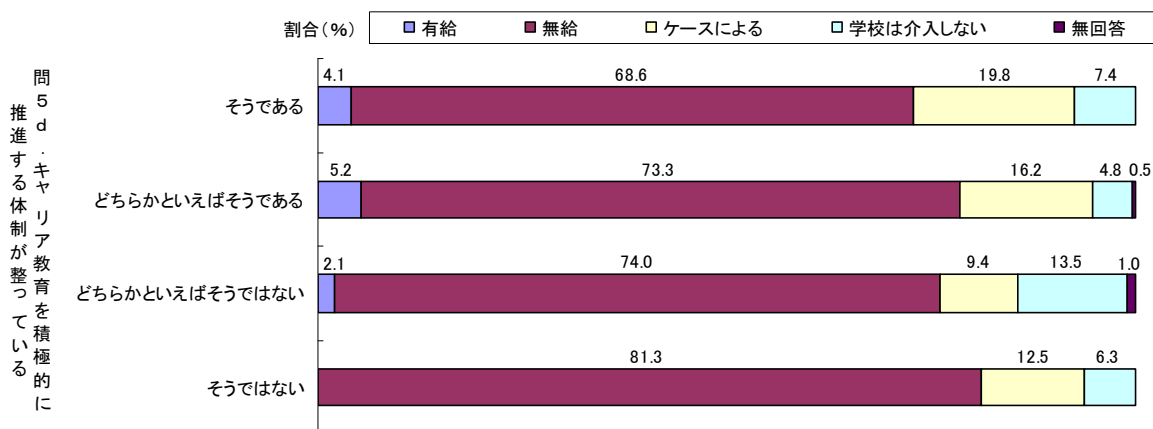
インターンシップを「無給」で実施している学校は72.7%である。「有給」で実施している学校は4%と少ないが、「ケースによる」実施が15.4%となっている。

図表 46 取り組んでいる最も代表的なインターンシップの給与等



(1) キャリア教育を推進する体制とのクロス集計

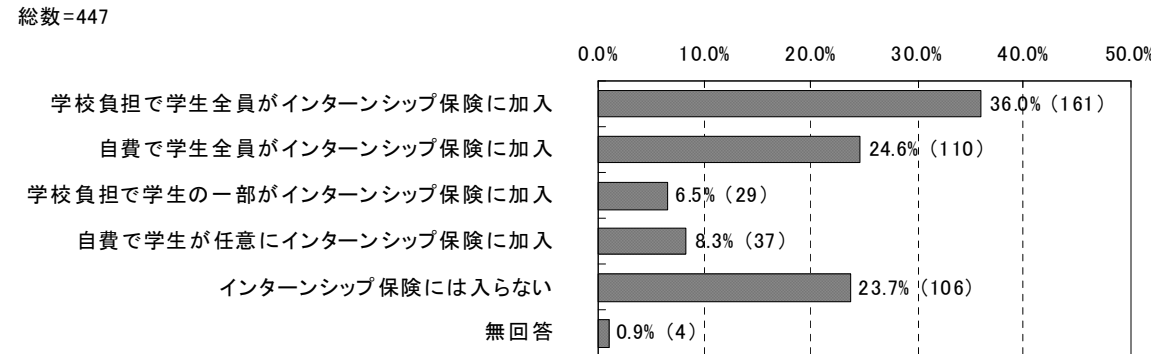
図表 47 インターンシップの給与等別キャリア教育を積極的に推進する体制の整備



問 5 d 「キャリア教育を積極的に推進する体制が整っている」学校ほど、「無給」で実施するところは若干少なくなり、「ケースにより」対応している傾向が見られる。

f. インターンシップ保険

図表 48 インターンシップ保険の加入状況

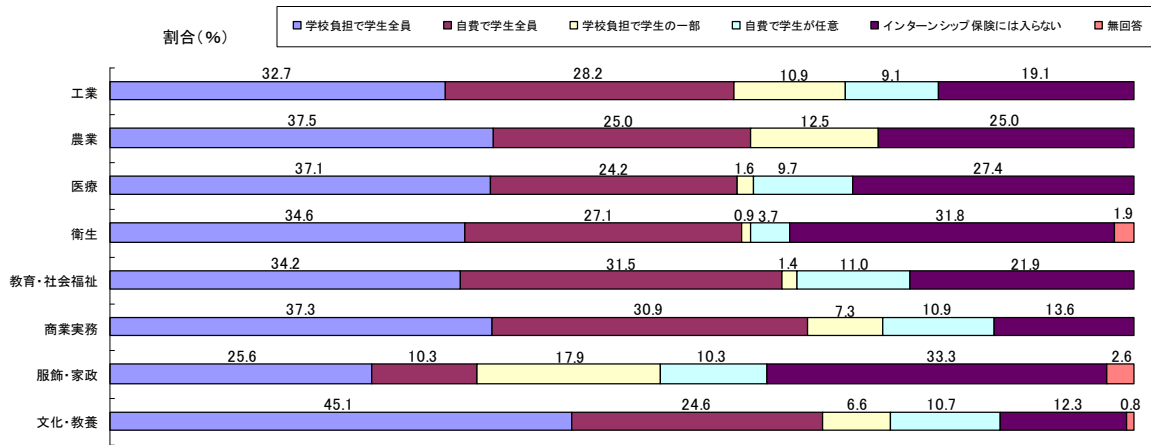


インターンシップを実施している学校（総数 447）のインターンシップ保険加入については、「学校負担で学生全員が加入」している学校が 36.0%、「自費で学生全員が加入」している学校が 24.6%である。

「インターンシップ保険には入らない」で実施している学校は、23.7%である。

(1) 教育分野とのクロス集計

図表 49 教育分野別インターンシップ保険の加入状況

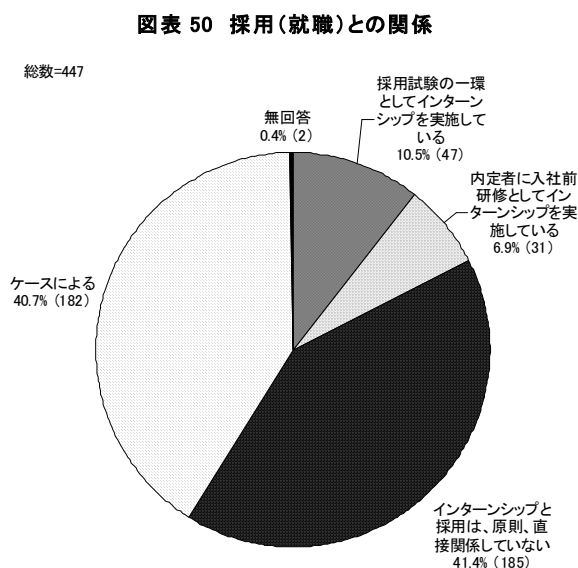


「インターンシップ保険には入らないでインターンシップを実施している学校」を教育分野別にみると、「工業分野」が 19.1%、「商業実務分野」が 13.6%、「文化・教養分野」が 12.3%とその割合が低く、この 3 分野では何らかの形で多くの学校がインターンシップ保険に加入した学生をインターンシップに送り出しているようである。

g. 採用（就職）との関係

ここでは、「インターンシップと採用の関係」を調べてみた。

「インターンシップと採用は、原則、直接関係していない」でインターンシップを実施している学校は 41.4%、「ケースによって」実施している学校が 40.7%である。また、「採用試験の一環としてインターンシップを実施している」学校は 10.5%となっている。



専門学校におけるインターンシップについて

問7. キャリア教育に関する科目や学習法として、最も多くの学校が採用している「インターンシップ」の標準的な形態は次のようなものであると考えられる。

期間は「1週間から数週間」で、「教務課」が実施管理部署となり、「全員」を対象として行われ、「単位認定（成績判断）」はせず、「無給」で「学校負担で学生全員がインターンシップ保険に加入」して、「採用とは原則直接関係していない」。

しかし、付問 a ～ g のどの項目も回答は分散していることから、インターンシップの標準型は、まだ定まっているとは言えないようである。インターンシップは、企業実習あるいは養成施設等が実施する実習とは教育目標が異なるキャリア発達に必要な啓発的経験として実施されることを今後も期待したい。

インターンシップは、教務課が管理し、学生全員を対象に、無報酬で就職とは関係せず、インターンシップ保険に加入して、企業・学校双方により評価に応じた単位認定を判断して行われる実践的な体験学習であり、体系的に取り組む教科目として実施する。そうすることで、キャリア教育の有力な学習法として今後も期待したいものである。

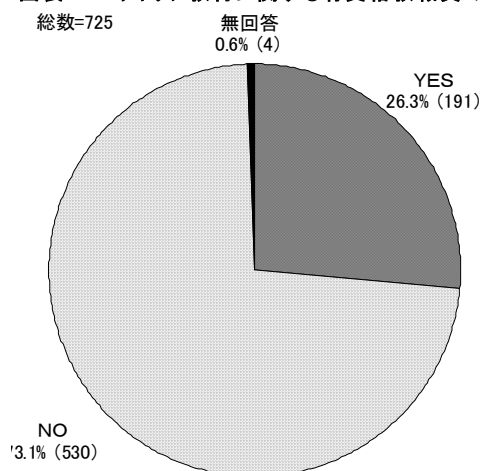
問 8．教職員の中に、キャリア教育に関する有資格者がいますか？（択一回答）

この設問の目的は、教職員の中にキャリア教育に関する有資格者が勤務する専門学校の割合を調査し、さらに有資格者が保有する資格名を具体的に問うことによって、専門学校がキャリア関連資格を有効利用しているか否かを読み取ることである。

背景には、平成 15 年度調査以後キャリア・コンサルタント資格に対する世間の認知が高まり、各種の民間資格が台頭していることや、平成 20 年から厚生労働省が「技能検定職種」に「キャリア・コンサルティング技能士」を加え、キャリア関連資格の国家資格化が実現したことがある。また、財団法人専修学校教育振興会が推進している「キャリア・サポーター養成講座（旧 CSM 講座）」によっても、全国に 360 名あまりのキャリア・サポーターが輩出されている。これらの動向をとらえ、専門学校の教職員がキャリア関連資格の取得や、そのための学習を通じて、在籍する学校のキャリア教育に役立っているか否か、興味あるところである。また、平成 15 年度調査との比較により、その動態を推測する。

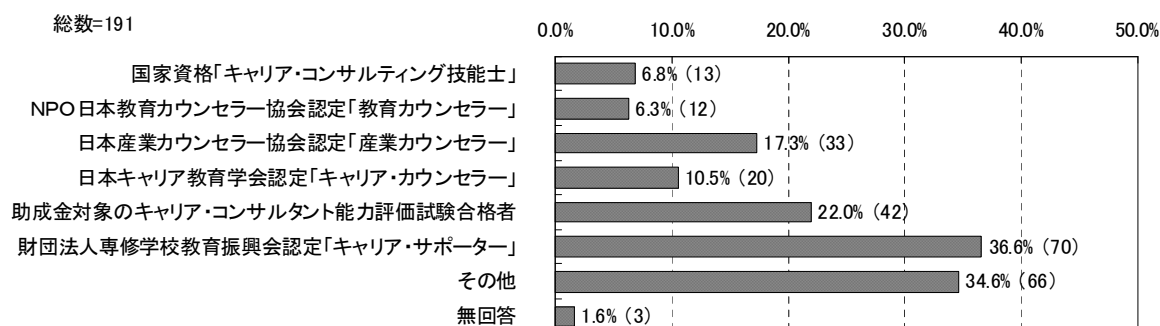
まず、主設問で標記の問いを行い、単純に YES、NO で回答を求めたところ、191 校（26.3%）が YES と回答した。

図表 51 キャリア教育に関する有資格教職員の有無
総数=725



付問 8. どのような資格を有していますか？（複数選択可）

図表 52 キャリア教育に関する有資格教職員の資格名



付問 8 では、問 8 で YES と回答した学校（キャリア教育に関する有資格者のいる学校）191 校に対して、おのおの有している資格をたずねた。

最も多くの学校に有資格者がいる資格は、専教振認定「キャリア・サポーター」（36.6%）であり、次いで「その他」（34.6%）、助成金対象のキャリア・コンサルタント能力評価試験合格者（22.0%）、日本産業カウンセラー協会認定「産業カウンセラー」（17.3%）と続いた。

「その他」の回答が多数であるため、その具体的な資格名を確認したところ、助成金対象のキャリア・コンサルタント能力評価試験合格者に該当する資格が 18 件含まれており、この結果を反映させると、「キャリア・サポーター」に次ぐのは、助成金対象のキャリア・コンサルタント能力評価試験合格者（31.4%）で、「その他」は 25.1%となった。

（１）平成 15 年度調査との比較（図表 53 参照）

この結果を平成 15 年度調査と比較するが、若干問い方が異なるので平成 15 年度調査の設問を以下に再現する。

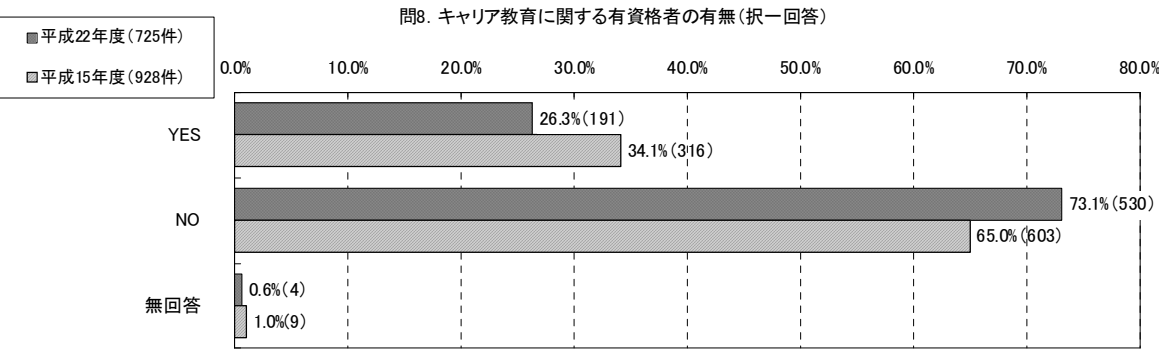
（問）貴校の職業・進路指導、キャリア相談等の実施担当者は、そのための何らかの資格を有していますか。（○は 1 つ）

1. 全員資格を有している
2. 一部資格を有している人もいる
3. 誰も資格は有していない

平成 15 年度の調査結果では、全員資格を有している（7.1%）、一部資格を有している人もいる（26.9%）であり、合計すると有資格者が 34.1%になる。したがって、今回の YES（26.3%）は 5 年前より 7.8 ポイント下回る結果となる。

平成 15 年度調査では「職業・進路指導、キャリア相談等のための何らかの資格」、今回の調査では「キャリア教育に関する資格」と表現が異なり、今回の問い方はより限定された表現になっている関係で、回答にあげられる資格の種類も限定されたものと思われ、その結果平成 15 年度調査を下回ったと考えられる。

図表 53 キャリア教育に関する有資格教職員の有無（平成 22 年度と平成 15 年度の比較）



（２）教育分野別・在籍学生数別のクロス集計

続いて、有資格者の有無を教育分野別・在籍学生数別でみたものが図表 54 である。

教育分野別の集計を見ると、農業（50.0%）、工業（41.7%）、商業実務（40.5%）の割合が高く、服飾・家政（20.8%）、医療（20.5%）、衛生（20.4%）の割合が低い。

在籍学生数別に見ると、1001 人以上（64.7%）の割合が突出して高く、801 人～1000 人（36.7%）、601 人～800 人（36.7%）と続く。一方で、～40 人（21.2%）、201 人～400 人（20.6%）の割合が低く、大規模校の割合が高い。

図表 54 キャリア教育に関する有資格教職員の有無と開設教育分野・在籍学生数

問 8. 教職員の中に、キャリア教育に関する有資格者がいますか？（選択は 1 つ） 集計軸：開設教育分野／在籍学生数		件数	Y E S	N O	無 回 答
合計		725	191	530	4
割合（%）		100.0	26.3	73.1	0.6
開設教育分野	工業	144	60	84	
		100.0	41.7	58.3	－
	農業	8	4	4	
		100.0	50.0	50.0	－
	医療	156	32	124	
		100.0	20.5	79.5	－
	衛生	152	31	120	1
		100.0	20.4	78.9	0.7
	教育・社会福祉	138	45	92	1
		100.0	32.6	66.7	0.7
開設教育分野	商業実務	168	68	100	
		100.0	40.5	59.5	－
	服飾・家政	48	10	38	
		100.0	20.8	79.2	－
	文化・教養	169	46	123	
		100.0	27.2	72.8	－
在籍学生数	～40 人	66	14	52	
		100.0	21.2	78.8	－
	41～80 人	99	26	72	1
		100.0	26.3	72.7	1.0
	81～200 人	232	60	171	1
		100.0	25.9	73.7	0.4
	201～400 人	170	35	135	
		100.0	20.6	79.4	－
	401～600 人	77	22	55	
		100.0	28.6	71.4	－
在籍学生数	601～800 人	30	11	19	
		100.0	36.7	63.3	－
	801 人～1000 人	30	11	19	
		100.0	36.7	63.3	－
在籍学生数	1001 人以上	17	11	6	
		100.0	64.7	35.3	－

（３）自主退学者割合・卒業時進路未定者割合とのクロス集計

いずれもはっきりとした傾向を読み取ることができなかった（図表未掲載）。

(4)「有している資格」と「教育分野・在籍学生数」のクロス集計

図表 55 キャリア教育に関する有資格教職員の資格名と開設教育分野・在籍学生数

付問 8. どのような資格を有していますか？（選択はいくつでも） 集計軸：開設教育分野／在籍学生数		件数	国家資格「キャリア・コンサルティング・技術士」	国家資格「キャリア・カウンセラー」	NPQ認定「キャリア・カウンセラー」	日本産業協会の認定「キャリア・カウンセラー」	日本産業協会の認定「キャリア・カウンセラー」	学会認定「キャリア・カウンセラー」	合格者	リニア・コンペティティブ・スキル・評価試験	助成金対象のキャリア・サポーター	「キャリア・サポーター」	財団法人専修学校	その他	無回答
合計		191	13	12	33	20	42	70	66	3					
割合（％）		100.0	6.8	6.3	17.3	10.5	22.0	36.6	34.6	1.6					
開設教育分野	工業	60	2	3	9	9	19	26	19	—					
	農業	4	1	—	—	—	—	1	3	—					
	医療	32	3	2	7	5	1	18	7	—					
	衛生	31	3	—	4	3	6	15	7	1					
	教育・社会福祉	45	2	1	10	6	9	15	15	2					
	商業実務	68	5	5	12	5	15	23	29	1					
	服飾・家政	10	3	—	2	—	3	—	3	—					
	文化・教養	46	2	5	10	10	12	13	17	1					
		100.0	4.3	10.9	21.7	21.7	26.1	28.3	37.0	2.2					
在籍学生数	～40人	14	4	2	—	—	2	3	5	—					
	41～80人	26	2	2	6	4	5	2	11	1					
		100.0	7.7	7.7	23.1	15.4	19.2	7.7	42.3	3.8					
	81～200人	60	4	4	7	5	13	25	19	1					
		100.0	6.7	6.7	11.7	8.3	21.7	41.7	31.7	1.7					
	201～400人	35	1	2	10	4	9	12	12	1					
		100.0	2.9	5.7	28.6	11.4	25.7	34.3	34.3	2.9					
	401～600人	22	1	1	3	1	6	11	10	—					
		100.0	4.5	4.5	13.6	4.5	27.3	50.0	45.5	—					
	601～800人	11	—	1	3	2	3	5	3	—					
		100.0	—	9.1	27.3	18.2	27.3	45.5	27.3	—					
	801人～1000人	11	—	—	1	2	1	5	3	—					
		100.0	—	—	9.1	18.2	9.1	45.5	27.3	—					
	1001人以上	11	1	—	3	2	2	7	3	—					
		100.0	9.1	—	27.3	18.2	18.2	63.6	27.3	—					

① 教育分野とのクロス集計

工業、医療、衛生、社会・福祉で「キャリア・サポーター」の割合が最も高く、農業、商業実務、文化・教養で「その他」の割合が高い。

② 在籍学生数とのクロス集計

81人～1001人以上の6区分において「キャリア・サポーター」の割合が最も高いが、～80人の2区分においては「その他」の割合が高くなっている。

(5)「有している資格」と「自主退学者割合・卒業時進路未定者割合」のクロス集計

図表 56 キャリア教育に関する有資格教職員の資格名と自主退学者割合・卒業時進路未定者割合

付問 8. どのような資格を有していますか？（選択はいくつでも） 集計軸：自主退学者割合／卒業時進路未定者割合		件数	国家資格「キャリア・コンサルティング・カウンセラー」	NPO 日本教育労働会認定「教育カウンセラー」	日本産業労働会認定「産業カウンセラー」	学協会認定「キャリア・カウンセラー」	日本職業能力評価試験合格者	助成金対象のキャリア・コンサルティング・サポーター	財団法人専修学校「教育振興会認定キャリア・サポーター」	その他	無回答
合計		191	13	12	33	20	42	70	66	3	
割合（％）		100.0	6.8	6.3	17.3	10.5	22.0	36.6	34.6	1.6	
自主退学者割合	0％	14	2	2	2	1	3	4	4	—	
	～ 5％未満	92	7	6	17	4	17	33	37	2	
	5 ～ 10％未満	71	3	4	11	12	18	27	20	1	
	10 ～ 20％未満	10	—	—	2	2	3	6	4	—	
	20 ～ 30％未満	3	1	—	—	1	—	—	1	—	
	30％以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		100.0	33.3	—	—	33.3	—	—	33.3	—	
卒業時進路未定者割合	0％	28	4	3	2	4	3	8	10	1	
	～ 5％未満	82	6	5	16	7	20	26	25	2	
	5 ～ 10％未満	40	—	1	8	4	8	19	17	—	
	10 ～ 20％未満	26	—	1	5	5	7	10	10	—	
	20 ～ 30％未満	9	2	2	1	—	3	4	3	—	
	30％以上	2	—	—	—	—	1	1	—	—	
		100.0	—	—	—	—	50.0	50.0	—	—	

① 自主退学者割合とのクロス集計

どの自主退学者割合においても「キャリア・サポーター」と「その他」が高い数値を示しており、キャリア・サポーターの在籍校が幅広く存在していることが分かる。

② 自主退学者割合・卒業時進路未定者割合とのクロス集計

こちらも「キャリア・サポーター」と「その他」が高い数値を示しており、キャリア・サポーターの在籍校が幅広く存在していることが分かる。①の結果とともに専教振のキャリア・サポーター養成事業が一定の実績として示された結果となった。

(6)「キャリア教育に関する有資格教職員の有無」と
「キャリア教育の現状」のクロス集計（次頁・図表 57 参照）

有資格者自体が多くないことから、いずれの設問、いずれの回答においても N0（有資格者がいない）が多くなっている。

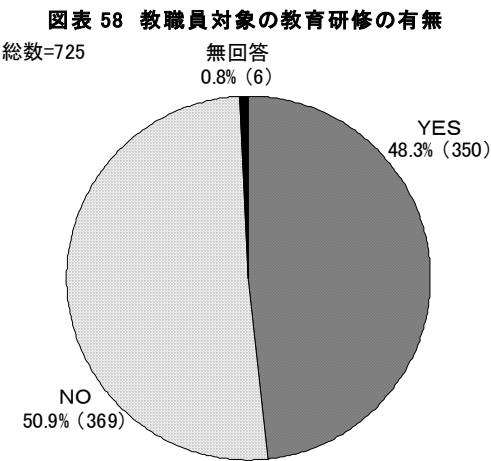
図表 57 キャリア教育に関する有資格教職員の有無とキャリア教育の現状

問8．教職員の中に、キャリア教育に関する有資格者がいますか？（選択は1つ）		件数	Y E S	N O	無 回 答
合計		725	191	530	4
割合（％）		100.0	26.3	73.1	0.6
問5 a．現状／キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針等の中に定めている	そうである	325	118	206	1
		100.0	36.3	63.4	0.3
	どちらかといえばそうである	276	51	224	1
		100.0	18.5	81.2	0.4
	どちらかといえばそうではない	85	15	70	
		100.0	17.6	82.4	－
	そうではない	30	4	26	
		100.0	13.3	86.7	－
問5 b．現状／キャリア教育の方針を明確に定めている	そうである	230	82	148	
		100.0	35.7	64.3	－
	どちらかといえばそうである	298	70	227	1
		100.0	23.5	76.2	0.3
	どちらかといえばそうではない	136	27	108	1
		100.0	19.9	79.4	0.7
	そうではない	52	9	43	
		100.0	17.3	82.7	－
問5 c．現状／全校をあげて、体系的・総合的なキャリア教育を実践している	そうである	199	68	131	
		100.0	34.2	65.8	－
	どちらかといえばそうである	322	83	238	1
		100.0	25.8	73.9	0.3
	どちらかといえばそうではない	145	32	112	1
		100.0	22.1	77.2	0.7
	そうではない	50	5	45	
		100.0	10.0	90.0	－
問5 d．現状／キャリア教育を積極的に推進する体制が整っている	そうである	162	54	108	
		100.0	33.3	66.7	－
	どちらかといえばそうである	318	89	228	1
		100.0	28.0	71.7	0.3
	どちらかといえばそうではない	184	40	143	1
		100.0	21.7	77.7	0.5
	そうではない	51	5	46	
		100.0	9.8	90.2	－
問5 e．現状／キャリア教育を評価・改善する機能や取組みがある	そうである	101	39	62	
		100.0	38.6	61.4	－
	どちらかといえばそうである	314	83	230	1
		100.0	26.4	73.2	0.3
	どちらかといえばそうではない	223	54	168	1
		100.0	24.2	75.3	0.4
	そうではない	78	12	66	
		100.0	15.4	84.6	－
問5 f．現状／キャリア教育について、教職員に対する普及に努力している	そうである	182	74	108	
		100.0	40.7	59.3	－
	どちらかといえばそうである	342	85	256	1
		100.0	24.9	74.9	0.3
	どちらかといえばそうではない	147	25	121	1
		100.0	17.0	82.3	0.7
	そうではない	45	4	41	
		100.0	8.9	91.1	－
問5 g．現状／キャリア教育について、入学前の時点から取り組んでいる	そうである	90	33	57	
		100.0	36.7	63.3	－
	どちらかといえばそうである	172	47	124	1
		100.0	27.3	72.1	0.6
	どちらかといえばそうではない	228	61	167	
		100.0	26.8	73.2	－
	そうではない	226	47	178	1
		100.0	20.8	78.8	0.4
問5 h．現状／キャリア教育について、卒業生に対するサービスや支援を行っている	そうである	122	33	88	1
		100.0	27.0	72.1	0.8
	どちらかといえばそうである	257	81	176	
		100.0	31.5	68.5	－
	どちらかといえばそうではない	210	53	157	
		100.0	25.2	74.8	－
	そうではない	123	19	103	1
		100.0	15.4	83.7	0.8

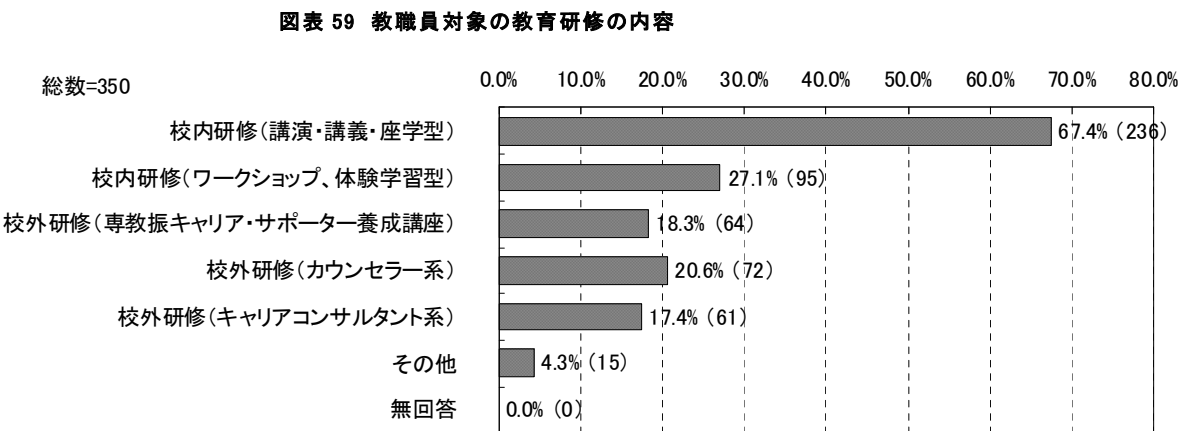
問 9．キャリア教育に関して、教職員対象の教育研修は行っていますか？（択一回答）

この設問の目的は、キャリア教育に関する教職員対象の教育研修の有無を調査し、さらに教育研修の内容を問うことによって、具体的な取組みを確認することである。

まず、主設問で標記の問いを行い、単純に YES、NO で回答を求めたところ、約半数の 350 校(48.3%) が YES と回答した。



付問 9．どのような教育研修を行っていますか？（複数選択可）



問 9 にて YES と回答した学校（教員対象の教育研修がある学校）に対して具体的な教育研修の内容をたずねたところ、最も割合が高かったのが「校内研修（講演・講義・座学型）」（67.4%）となり、次いで「校内研修（ワークショップ、体験学習型）」（27.1%）、「校外研修（カウンセラー系）」（20.6%）、「校外研修（専教振キャリア・サポーター養成講座）」（18.3%）、「校外研修（キャリア・コンサルタント系）」（17.4%）となった。

（１）平成 15 年度調査との比較（図表 60 参照）

続いてこの結果を平成 15 年度調査と比較するが、若干問い方が異なるので平成 15 年度調査の設問を再現する。

（問）次の項目について貴校の現状をお聞かせ下さい。

選択肢：「そうである」「どちらかといえばそうである」「どちらかといえばそうではない」「そうではない」の 4 通り

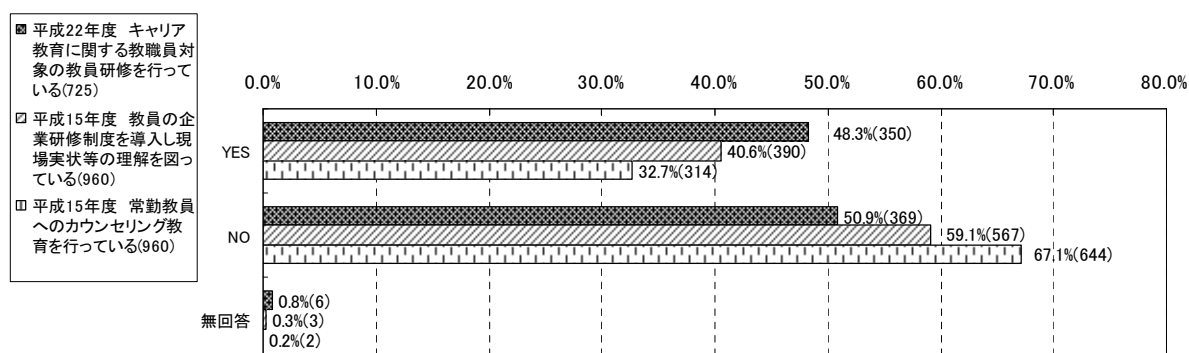
（小問）教員の企業研修制度を導入し現場の実情等の理解を図っている。

（小問）常勤教員へのカウンセリング教育を行っている。

今回の調査にあわせて、「そうである」「どちらかといえばそうである」を YES と、「どちらかといえばそうではない」「そうではない」を NO と読み直し、それぞれ YES の割合を見ると、「教員の企業研修制度を導入し現場の実情等の理解を図っている」は 40.6%、「常勤教員へのカウンセリング教育を行っている」は 32.7%であった（図表 60 参照）。

いずれも、今回調査でキャリア教育に関する教職員対象の教育研修の有無を YES と答えた割合（48.3%）のほうが上回っている。

図表 60 教職員対象の教育研修の有無と平成 15 年度・平成 22 年度の比較



(2) 教育分野・在籍学生数とのクロス集計

図表 61 教職員対象の教育研修の有無と開設教育分野・在籍学生数

問9. キャリア教育に関して、教職員対象の教育研修は行っていますか？（選択は1つ） 集計軸：開設教育分野／在籍学生数		件数	Y E S	N O	無 回 答
合計		725	350	369	6
割合（％）		100.0	48.3	50.9	0.8
開設教育分野	工業	144	68	75	1
		100.0	47.2	52.1	0.7
	農業	8	5	3	—
		100.0	62.5	37.5	—
	医療	156	67	88	1
		100.0	42.9	56.4	0.6
	衛生	152	67	84	1
		100.0	44.1	55.3	0.7
	教育・社会福祉	138	67	69	2
		100.0	48.6	50.0	1.4
在籍学生数	商業実務	168	112	54	2
		100.0	66.7	32.1	1.2
	服飾・家政	48	26	22	—
		100.0	54.2	45.8	—
	文化・教養	169	100	69	—
		100.0	59.2	40.8	—
	～40人	66	29	37	—
		100.0	43.9	56.1	—
	41～80人	99	39	60	—
在籍学生数		100.0	39.4	60.6	—
	81～200人	232	98	133	1
		100.0	42.2	57.3	0.4
	201～400人	170	87	81	2
		100.0	51.2	47.6	1.2
	401～600人	77	43	33	1
		100.0	55.8	42.9	1.3
	601～800人	30	24	6	—
		100.0	80.0	20.0	—
在籍学生数	801人～1000人	30	18	12	—
		100.0	60.0	40.0	—
	1001人以上	17	12	5	—
		100.0	70.6	29.4	—

① 教育分野とのクロス集計

YES の回答割合（研修を行っている）を見てみると、商業実務（66.7%）、農業（62.5%）、文化・教養（59.2%）で高く、工業（47.2%）、衛生（44.1%）、医療（42.9%）において低くなっている。

② 在籍学生数とのクロス集計

YES の回答割合（研修を行っている）を見てみると、601～800 人（80.0%）の割合が突出して高く、1001 人以上（70.6%）、801～1000 人（60.0%）と続く。一方で、～40 人（43.9%）、81～200 人（42.2%）、41～80 人（39.4%）の割合が低い。

（３）自主退学者割合・卒業時進路未定者割合とのクロス集計

図表 62 教職員対象の教育研修の有無と自主退学者割合・卒業時進路未定者割合

問 9 . キャリア教育に関して、教職員対象の教育研修は行っていますか？（選択は1つ） 集計軸：自主退学者割合／卒業時進路未定者割合		件数	Y E S	N O	無 回 答
合計		725	350	369	6
割合（％）		100.0	48.3	50.9	0.8
自主退学者割合	0％	46	24	22	—
	～ 5％未満	349	173	172	4
	5 ～ 10％未満	268	138	130	—
	10 ～ 20％未満	46	13	33	—
	20 ～ 30％未満	9	2	7	—
	30％以上	1	—	1	—
		100.0	—	100.0	—
卒業時進路未定者割合	0％	152	66	85	1
	～ 5％未満	253	137	115	1
	5 ～ 10％未満	165	88	76	1
	10 ～ 20％未満	83	35	47	1
	20 ～ 30％未満	30	12	18	—
	30％以上	27	7	20	—
		100.0	25.9	74.1	—

① 自主退学者割合とのクロス集計

YES の回答割合（研修を行っている）を見てみると、自主退学者割合 0%では YES が 52.2%、5%未満では 49.6%、5～10%未満では 51.5%と、10%未満の学校で YES が高い割合を示した。

一方、10～20%未満では YES が 28.3%、20～30%未満では 22.2%と、10%以上の学校では研修実施の割合が低い数値を示した。

② 卒業時進路未定者割合とのクロス集計

YES の回答割合（研修を行っている）を見てみると、卒業時進路未定者割合が 5%未満では 54.2%、5～10%未満では 53.3%と高い割合を示した。

一方で 30%以上の学校は 25.9%と突出して低い値になっている。

（４）キャリア教育に関する学校の現状とのクロス集計（次頁・図表 63 参照）

YES の回答割合（研修を行っている）を見てみると、8 つの設問全てにおいて「そうである」と積極的な回答をした学校が最も高い割合を示した。一方で「そうではない」と回答をした学校が、最も低い割合を示した。

図表 63 教職員対象の教育研修の有無とキャリア教育の現状

問9. キャリア教育に関して、教職員対象の教育研修は行っていますか？（選択は1つ）		件数	Y E S	N O	無 回 答
合計		725	350	369	6
割合（％）		100.0	48.3	50.9	0.8
問5 a. 現状／キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針等の中に定めている	そうである	325	202	120	3
		100.0	62.2	36.9	0.9
	どちらかといえばそうである	276	127	149	—
		100.0	46.0	54.0	—
問5 b. 現状／キャリア教育の方針を明確に定めている	どちらかといえばそうではない	85	14	70	1
		100.0	16.5	82.4	1.2
	そうではない	30	3	27	—
		100.0	10.0	90.0	—
問5 c. 現状／全校をあげて、体系的・総合的なキャリア教育を実践している	そうである	230	149	79	2
		100.0	64.8	34.3	0.9
	どちらかといえばそうである	298	158	138	2
		100.0	53.0	46.3	0.7
問5 d. 現状／キャリア教育を積極的に推進する体制が整っている	どちらかといえばそうではない	136	32	104	—
		100.0	23.5	76.5	—
	そうではない	52	7	45	—
		100.0	13.5	86.5	—
問5 e. 現状／キャリア教育を評価・改善する機能や取組みがある	そうである	199	127	70	2
		100.0	63.8	35.2	1.0
	どちらかといえばそうである	322	176	145	1
		100.0	54.7	45.0	0.3
問5 f. 現状／キャリア教育について、教職員に対する普及に努力している	どちらかといえばそうではない	145	38	106	1
		100.0	26.2	73.1	0.7
	そうではない	50	5	45	—
		100.0	10.0	90.0	—
問5 g. 現状／キャリア教育について、入学前の時点から取り組んでいる	そうである	162	113	48	1
		100.0	69.8	29.6	0.6
	どちらかといえばそうである	318	178	138	2
		100.0	56.0	43.4	0.6
問5 h. 現状／キャリア教育について、卒業生に対するサービスや支援を行っている	どちらかといえばそうではない	184	50	133	1
		100.0	27.2	72.3	0.5
	そうではない	51	5	46	—
		100.0	9.8	90.2	—
問5 i. 現状／キャリア教育について、教職員に対する普及に努力している	そうである	101	69	32	—
		100.0	68.3	31.7	—
	どちらかといえばそうである	314	189	122	3
		100.0	60.2	38.9	1.0
問5 j. 現状／キャリア教育について、卒業生に対するサービスや支援を行っている	どちらかといえばそうではない	223	77	145	1
		100.0	34.5	65.0	0.4
	そうではない	78	11	67	—
		100.0	14.1	85.9	—
問5 k. 現状／キャリア教育について、卒業生に対するサービスや支援を行っている	そうである	182	129	51	2
		100.0	70.9	28.0	1.1
	どちらかといえばそうである	342	183	159	—
		100.0	53.5	46.5	—
問5 l. 現状／キャリア教育について、卒業生に対するサービスや支援を行っている	どちらかといえばそうではない	147	30	115	2
		100.0	20.4	78.2	1.4
	そうではない	45	4	41	—
		100.0	8.9	91.1	—
問5 m. 現状／キャリア教育について、卒業生に対するサービスや支援を行っている	そうである	90	69	21	—
		100.0	76.7	23.3	—
	どちらかといえばそうである	172	102	68	2
		100.0	59.3	39.5	1.2
問5 n. 現状／キャリア教育について、卒業生に対するサービスや支援を行っている	どちらかといえばそうではない	228	89	138	1
		100.0	39.0	60.5	0.4
	そうではない	226	86	139	1
		100.0	38.1	61.5	0.4
問5 o. 現状／キャリア教育について、卒業生に対するサービスや支援を行っている	そうである	122	77	43	2
		100.0	63.1	35.2	1.6
	どちらかといえばそうである	257	127	129	1
		100.0	49.4	50.2	0.4
問5 p. 現状／キャリア教育について、卒業生に対するサービスや支援を行っている	どちらかといえばそうではない	210	96	113	1
		100.0	45.7	53.8	0.5
	そうではない	123	45	78	—
		100.0	36.6	63.4	—

(5) 教育分野・在籍学生数とのクロス集計

図表 64 教職員対象の教育研修の内容と開設教育分野・在籍学生数

付問 9. どのような教育研修を行っていますか？（選択はいくつでも） 集計軸：開設教育分野／在籍学生数		件数	校内研修（講義・演習・座学）	校内研修（ワークショップ）	校外研修（振替・リポート・養成講座）	校外研修（セミナー）	校外研修（オンライン）	校外研修（キータ）	その他	無回答
合計		350	236	95	64	72	61	15		
割合（％）		100.0	67.4	27.1	18.3	20.6	17.4	4.3		
開設教育分野	工業	68	36	11	24	16	20	4		
		100.0	52.9	16.2	35.3	23.5	29.4	5.9		
	農業	5	2	1	1	3	2			
		100.0	40.0	20.0	20.0	60.0	40.0	－		
	医療	67	45	22	12	15	9	5		
		100.0	67.2	32.8	17.9	22.4	13.4	7.5		
	衛生	67	48	20	12	13	8	2		
		100.0	71.6	29.9	17.9	19.4	11.9	3.0		
教育・社会福祉	67	49	23	12	12	7	4			
	100.0	73.1	34.3	17.9	17.9	10.4	6.0			
商業実務	112	76	35	22	20	20	4			
	100.0	67.9	31.3	19.6	17.9	17.9	3.6			
服飾・家政	26	17	4	5	4	9				
	100.0	65.4	15.4	19.2	15.4	34.6	－			
文化・教養	100	81	28	12	25	10	1			
	100.0	81.0	28.0	12.0	25.0	10.0	1.0			
在籍学生数	～40人	29	9	5	5	6	12	3		
		100.0	31.0	17.2	17.2	20.7	41.4	10.3		
	41～80人	39	23	8	9	7	9	3		
		100.0	59.0	20.5	23.1	17.9	23.1	7.7		
	81～200人	98	67	25	13	20	12	2		
		100.0	68.4	25.5	13.3	20.4	12.2	2.0		
	201～400人	87	63	22	18	12	16	1		
		100.0	72.4	25.3	20.7	13.8	18.4	1.1		
401～600人	43	30	15	8	11	5	3			
	100.0	69.8	34.9	18.6	25.6	11.6	7.0			
601～800人	24	20	12	4	6	2	2			
	100.0	83.3	50.0	16.7	25.0	8.3	8.3			
801人～1000人	18	16	4	3	7	3				
	100.0	88.9	22.2	16.7	38.9	16.7	－			
1001人以上	12	8	4	4	3	2	1			
	100.0	66.7	33.3	33.3	25.0	16.7	8.3			

① 教育分野とのクロス集計

全ての分野で「校内研修（講演・講義・座学型）」の割合が最も高い。

② 在籍学生数とのクロス集計

こちら、全ての区分において「校内研修（講演・講義・座学型）」の割合が最も高い。

（６）自主退学者割合・卒業時進路未定者割合とのクロス集計

図表 65 教職員対象の教育研修の内容と自主退学者割合・卒業時進路未定者割合

付問 9. どのような教育研修を行っていますか？（選択はいくつでも） 集計軸：自主退学者割合／卒業時進路未定者割合		件数	型演校・内講義・座学	験学習型	校内研修（ワークショップ）	座ボ振校外 ーリキリ ーア ー養成・専 ー講サ教	ン校外 セラー ー係 （カウ	ンリ校外 トア研 コ修 ンサ（キ ルタ	その他	無回答
合計 割合（％）		350 100.0	236 67.4	95 27.1	64 18.3	72 20.6	61 17.4	15 4.3		
自主退学者割合	0％	24 100.0	9 37.5	4 16.7	6 25.0	5 20.8	9 37.5	2 8.3		
	～ 5％未満	173 100.0	116 67.1	46 26.6	27 15.6	40 23.1	25 14.5	6 3.5		
	5 ～ 10％未満	138 100.0	100 72.5	40 29.0	26 18.8	24 17.4	25 18.1	4 2.9		
	10 ～ 20％未満	13 100.0	10 76.9	5 38.5	4 30.8	3 23.1	2 15.4	2 15.4		
	20 ～ 30％未満	2 100.0	1 50.0		1 50.0			1 50.0		
	30％以上									
	卒業時進路未定者割合	0％	66 100.0	40 60.6	16 24.2	15 22.7	12 18.2	15 22.7	3 4.5	
～ 5％未満	137 100.0	103 75.2	32 23.4	13 9.5	29 21.2	14 10.2	4 2.9			
5 ～ 10％未満	88 100.0	55 62.5	32 36.4	20 22.7	21 23.9	18 20.5	4 4.5			
10 ～ 20％未満	35 100.0	23 65.7	7 20.0	9 25.7	6 17.1	11 31.4	2 5.7			
20 ～ 30％未満	12 100.0	8 66.7	4 33.3	4 33.3	1 8.3	1 8.3				
30％以上	7 100.0	3 42.9	2 28.6	1 14.3	3 42.9	2 28.6	1 14.3			

① 自主退学者割合とのクロス集計

全ての割合区分において「校内研修（講演・講義・座学型）」の割合が最も高い。

② 卒業時進路未定者割合とのクロス集計

全ての区分において「校内研修（講演・講義・座学型）」の割合が最も高い。

（７）キャリア教育に関する学校の現状とのクロス集計

いずれの回答においても全ての区分においても「校内研修（講演・講義・座学型）」の割合が最も高く、特筆すべき点は無かった。（図表未掲載）

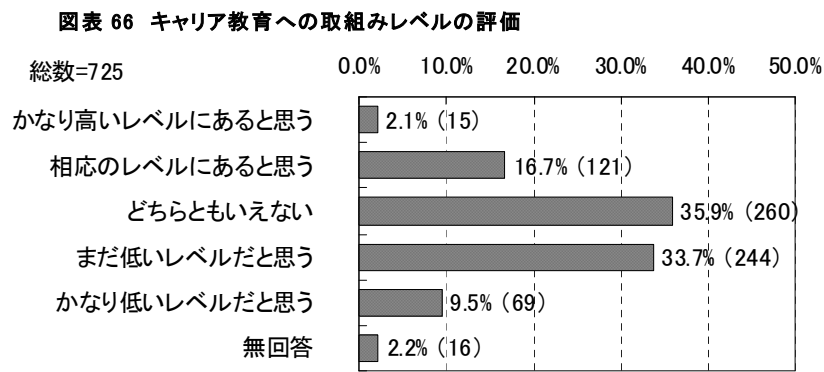
問 9 専門学校における教職員研修について

問 9 「教職員対象の教育研修」の調査結果について総括すると、約半数（48.3%）の学校が、キャリア教育に関する何らかの教職員対象の教育研修を行っており、その内容を見ると、「校内研修（講演・講義・座学型）」（67.4%）が圧倒的な割合を占めている。そのため、他の調査結果とのクロス集計には見るべき点が少なかった。

また、平成 15 年度の調査における「教員の企業研修制度を導入し現場の実情等の理解を図っている（40.6%）」「常勤教員へのカウンセリング教育を行っている（32.7%）」割合をいずれも上回り、アンケート内容の相違を念頭に置いても、概ね「キャリア教育に関する教職員対象の教育研修」は活発化していると言えよう。

なお、自主退学者割合・卒業時進路未定者割合の高い学校ほど教職員対象の研修を行っている割合が低かったことから、教職員対象のキャリア教育に関する教育研修の重要性が調査結果に現れたと考えられる。

問 10. 貴校のキャリア教育への取組みレベルについて、どのように評価していますか？（択一選択）



この質問は、自己点検の立場から回答者が自分の学校のキャリア教育への取組みレベルをどう評価しているかを確認するためのものである。結果は、「かなり高い」及び「相応のレベルにある」と答えた学校が合計で 18.8%と少なく、「まだ低い」及び「かなり低いレベルだと思う」と答えた学校が合計で 44.2%と多いものであった。

（１）問 10 のクロス集計

今回の結果を他の質問の回答状況と照らし合わせて検討すると次のような結果となった。

① 教育分野・在籍学生数とのクロス集計

図表 67 キャリア教育への取組みレベルの評価と開設教育分野・在籍学生数

問10. 貴校のキャリア教育への取組みレベルについて、どのように評価していますか？（選択は1つ） 集計軸：開設教育分野／在籍学生数		件数	思にいかうあれるべりとル高	るべ相とル応思にのうあレ	いもどいちえらなと	とレま思べだうル低だい	だいかとレな思べりうル低	無回答
合計		725	15	121	260	244	69	16
割合（％）		100.0	2.1	16.7	35.9	33.7	9.5	2.2
開設教育分野	工業	144	4	26	44	52	13	5
		100.0	2.8	18.1	30.6	36.1	9.0	3.5
	農業	8		2	2	3		1
		100.0	－	25.0	25.0	37.5	－	12.5
	医療	156	5	29	51	48	20	3
		100.0	3.2	18.6	32.7	30.8	12.8	1.9
	衛生	152	4	24	47	62	12	3
		100.0	2.6	15.8	30.9	40.8	7.9	2.0
	教育・社会福祉	138	3	24	56	37	14	4
		100.0	2.2	17.4	40.6	26.8	10.1	2.9
開設教育分野	商業実務	168	3	26	80	46	9	4
		100.0	1.8	15.5	47.6	27.4	5.4	2.4
	服飾・家政	48		5	13	22	7	1
		100.0	－	10.4	27.1	45.8	14.6	2.1
	文化・教養	169	4	39	66	44	14	2
		100.0	2.4	23.1	39.1	26.0	8.3	1.2
在籍学生数	～40人	66		4	19	31	10	2
		100.0	－	6.1	28.8	47.0	15.2	3.0
	41～80人	99	2	13	42	32	9	1
		100.0	2.0	13.1	42.4	32.3	9.1	1.0
	81～200人	232	4	39	73	82	30	4
		100.0	1.7	16.8	31.5	35.3	12.9	1.7
	201～400人	170	4	21	68	59	14	4
		100.0	2.4	12.4	40.0	34.7	8.2	2.4
	401～600人	77		21	25	25	4	2
		100.0	－	27.3	32.5	32.5	5.2	2.6
在籍学生数	601～800人	30	2	8	14	5		1
		100.0	6.7	26.7	46.7	16.7	－	3.3
	801～1000人	30	3	10	10	6	1	
		100.0	10.0	33.3	33.3	20.0	3.3	－
在籍学生数	1001人以上	17		5	8	4		
		100.0	－	29.4	47.1	23.5	－	－

開設教育分野別の比較では概ね、どの分野も同様の結果であり、あまり差は出てはいない。在籍学生数で比較してみると、在籍数が401人以上の学校群は比較的「相応のレベルにある」と回答した学校の数が多くなってきている。このことから規模の大きな学校ではキャリア教育への対応が進んでいるのではないかと推測される。

② 自主退学者割合・卒業時進路未定者割合とのクロス集計

図表 68 キャリア教育への取組みレベルの評価と自主退学者割合・卒業時進路未定者割合

問10. 貴校のキャリア教育への取組みレベルについて、どのように評価していますか？（選択は1つ） 集計軸：自主退学者割合／卒業時進路未定者割合		件数	思にいかうあれなるべりとル高	るべ相とル応思にのうあレ	いもどいちえらなと	とレま思べだうル低だい	だいかとレな思べりうル低	無回答
合計 割合（％）		725 100.0	15 2.1	121 16.7	260 35.9	244 33.7	69 9.5	16 2.2
自主退学者割合	0％	46 100.0	2 4.3	3 6.5	21 45.7	17 37.0	3 6.5	—
	～5％未満	349 100.0	5 1.4	63 18.1	132 37.8	117 33.5	27 7.7	5 1.4
	5～10％未満	268 100.0	7 2.6	49 18.3	94 35.1	84 31.3	26 9.7	8 3.0
	10～20％未満	46 100.0	—	6 13.0	11 23.9	18 39.1	10 21.7	1 2.2
	20～30％未満	9 100.0	—	—	1 11.1	6 66.7	2 22.2	—
	30％以上	1 100.0	—	—	1 100.0	—	—	—
卒業時進路未定者割合	0％	152 100.0	2 1.3	30 19.7	55 36.2	44 28.9	17 11.2	4 2.6
	～5％未満	253 100.0	7 2.8	45 17.8	91 36.0	82 32.4	22 8.7	6 2.4
	5～10％未満	165 100.0	1 0.6	27 16.4	71 43.0	51 30.9	12 7.3	3 1.8
	10～20％未満	83 100.0	2 2.4	11 13.3	22 26.5	38 45.8	10 12.0	—
	20～30％未満	30 100.0	—	5 16.7	8 26.7	14 46.7	3 10.0	—
	30％以上	27 100.0	1 3.7	3 11.1	8 29.6	11 40.7	3 11.1	1 3.7

自主退学割合が0％と答えた学校は「どちらとも言えない」「まだ低いレベルにある」と答えた学校の割合が高く、その他の回答した学校の割合には大きな差は出てはいない。これは謙虚に努力をして自主退学率を0％にしていることはまだ努力を怠ってはならないという自戒の念の表れであろうか。また、自主退学率が20％以上の学校には「高いレベルにある」もしくは「相応のレベルにある」と回答している学校はなかった。

卒業時進路未定者割合の回答から比較してみると、0％から5％未満と答えた学校では「高いレベルにある」もしくは「相応のレベルにある」と回答している学校の割合が比較的高い。しかし、20％以上と答えている学校でも同様に「高いレベルにある」もしくは「相応のレベルにある」と回答している学校が幾つかあるので、あまり比較対象とはならなかった。

③ キャリア教育の現状（a～c）とのクロス集計

図表 69 キャリア教育への取組みレベルの評価とキャリア教育の現状(1)

問10. 貴校のキャリア教育への取組みレベルについて、どのように評価していますか？（選択は1つ）		件数	思にいかうあれなるべりとル高	るべ相とル応思にのうあれ	いもどいちえらなと	とレま思べだうル低だい	だいかとレな思べりうル低	無回答
合計		725	15	121	260	244	69	16
割合（％）		100.0	2.1	16.7	35.9	33.7	9.5	2.2
問5 a. 現状／キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針等の中に定めている	そうである	325	14	102	94	104	5	6
		100.0	4.3	31.4	28.9	32.0	1.5	1.8
	どちらかといえばそうである	276	15	138	96	22	5	
		100.0	—	5.4	50.0	34.8	8.0	1.8
	どちらかといえばそうではない	85	2	22	34	27	—	
		100.0	—	2.4	25.9	40.0	31.8	—
	そうではない	30	1	6	7	15	1	
		100.0	—	3.3	20.0	23.3	50.0	3.3
問5 b. 現状／キャリア教育の方針を明確に定めている	そうである	230	13	84	62	66	1	4
		100.0	5.7	36.5	27.0	28.7	0.4	1.7
	どちらかといえばそうである	298	1	31	155	95	10	6
		100.0	0.3	10.4	52.0	31.9	3.4	2.0
	どちらかといえばそうではない	136	4	33	67	31	1	
		100.0	—	2.9	24.3	49.3	22.8	0.7
	そうではない	52	1	10	13	27	1	
		100.0	—	1.9	19.2	25.0	51.9	1.9
問5 c. 現状／全校をあげて、体系的・総合的なキャリア教育を実践している	そうである	199	13	80	55	48	—	3
		100.0	6.5	40.2	27.6	24.1	—	1.5
	どちらかといえばそうである	322	1	39	162	106	9	5
		100.0	0.3	12.1	50.3	32.9	2.8	1.6
	どちらかといえばそうではない	145	1	36	72	34	2	
		100.0	—	0.7	24.8	49.7	23.4	1.4
	そうではない	50	—	—	7	15	26	2
		100.0	—	—	14.0	30.0	52.0	4.0

キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針の中に定めているか、キャリア教育の方針を明確に定めている、全校あげて体系的・統合的なキャリア教育を実践しているか、それぞれの質問にて「そうである」と答えた学校では、「高いレベルにある」もしくは「相応のレベルにある」と回答している学校が多く、自信のほどを示している。もっとも全体としてはこれらの学校でも、「低いレベルである」と回答している謙虚な学校も多い。

これらの質問にて、「どちらかといえばそうでない」及び「そうではない」と答えた学校では「低いレベルである」と答えた学校の数が多いことは言うまでもない。この点ははっきり認識されているようである。

④ キャリア教育の現状（d～f）とのクロス集計

図表 70 キャリア教育への取組みレベルの評価とキャリア教育の現状(2)

問10. 貴校のキャリア教育への取組みレベルについて、どのように評価していますか？（選択は1つ）		件数	思いにかなうレベル高	相応のレベルにある	いまいち低い	とても低い	だいたい低い	無回答
合計		725	15	121	260	244	69	16
割合（％）		100.0	2.1	16.7	35.9	33.7	9.5	2.2
問5 d. 現状／キャリア教育を積極的に推進する体制が整っている	そうである	162	13	71	40	34	1	3
		100.0	8.0	43.8	24.7	21.0	0.6	1.9
	どちらかといえばそうである	318	1	45	159	103	3	7
		100.0	0.3	14.2	50.0	32.4	0.9	2.2
	どちらかといえばそうではない	184		3	53	90	38	
		100.0	－	1.6	28.8	48.9	20.7	－
	そうではない	51			8	14	27	2
		100.0	－	－	15.7	27.5	52.9	3.9
問5 e. 現状／キャリア教育を評価・改善する機能や取組みがある	そうである	101	10	52	16	20		3
		100.0	9.9	51.5	15.8	19.8	－	3.0
	どちらかといえばそうである	314	4	56	152	92	6	4
		100.0	1.3	17.8	48.4	29.3	1.9	1.3
	どちらかといえばそうではない	223		11	77	103	28	4
		100.0	－	4.9	34.5	46.2	12.6	1.8
	そうではない	78		1	15	26	35	1
		100.0	－	1.3	19.2	33.3	44.9	1.3
問5 f. 現状／キャリア教育について、教職員に対する普及に努力している	そうである	182	11	75	44	48		4
		100.0	6.0	41.2	24.2	26.4	－	2.2
	どちらかといえばそうである	342	3	42	168	114	9	6
		100.0	0.9	12.3	49.1	33.3	2.6	1.8
	どちらかといえばそうではない	147		2	37	69	38	1
		100.0	－	1.4	25.2	46.9	25.9	0.7
	そうではない	45		1	11	10	22	1
		100.0	－	2.2	24.4	22.2	48.9	2.2

キャリア教育を積極的に推進する体制が整っているか、キャリア教育を評価・改善する機能や取組みがある、キャリア教育について教職員に対する普及に努力しているか、これらの質問に対して「そうである」「どちらかといえばそうである」と答えた学校では「高いレベルにある」もしくは「相応のレベルにある」と回答している学校の割合が高く、「どちらかといえばそうでない」「そうではない」と答えた学校では「低いレベルである」と答えた学校の割合が高い。この質問に於いてもはっきりと問題点が認識されているようである。

⑤ キャリア教育の現状（g～h）とのクロス集計

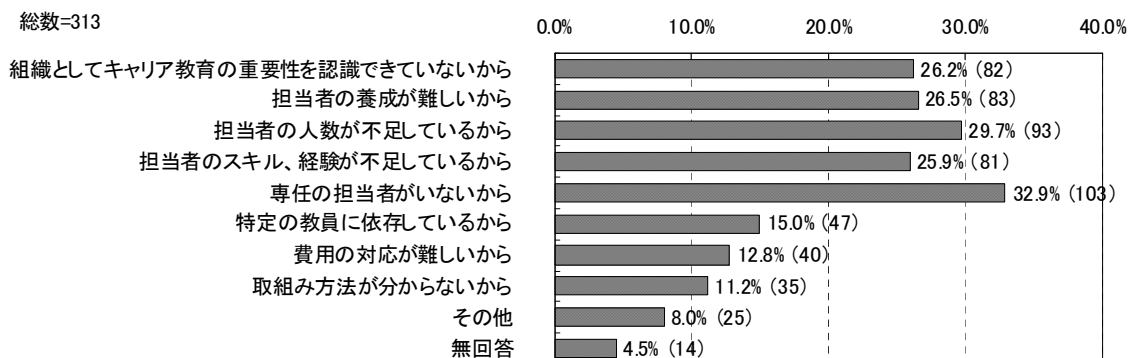
キャリア教育について入学前に取組んでいるかという質問では、これまでと異なり分散した回答となっている。入学前教育に対する考え方が確定していないのか、はっきりとした定義を出せていないところに問題があったようである。

同様に、卒業生に対するサービスや支援を行っているかという質問の回答と比較してもはっきりとした相関関係が出るものではなかった。（図表未掲載）

この2点の質問に対しては、今後も定義等明確に考える必要があろう。

付問 10. 取組みレベルが低い原因は何ですか？

図表 71 キャリア教育への取組みレベルが低い原因



付問 10 は、問 10 で自校のキャリア教育への取組みレベルが「まだ低いレベルにある」、「低いレベルである」と回答した学校（総数 313）に対して、取組みレベルが低いと考える原因を聞いたものである。

最も多かった回答は「専任の担当者がいないから」の 32.9%、最も少なかった回答（その他を除く）は「取組み方法が分からない」の 11.2%であった。

その他の回答を合わせて見ると、「取組み方は分かっているが担当者がいない、あるいは不足している」という回答が平均的なものであると考えられる。

また、現在不満足な状況であると認識している学校がどのようなことに不満を持ち、どのような改善を模索しているかが現れている。

（１）教育分野・在籍学生数とのクロス集計

図表 72 キャリア教育への取組みレベルの低い原因と開設教育分野・在籍学生数

付問 10. 取組みレベルが低い原因は何ですか？（選択はいくつでも） 集計軸：開設教育分野／在籍学生数		件数	組織的なキャリア教育の重要性を認識できていないから	組織としてキャリア教育の重要性を認識しているが、担当者から養成が難しいから	担当者から養成が難しいから	担当者の経験が不足しているから	専任の担当者がないから	特定している教員から依頼するから	費用の対応が難しいから	取組みの方法が分からないから	その他	無回答
合計		313	82	83	93	81	103	47	40	35	25	14
割合（％）		100.0	26.2	26.5	29.7	25.9	32.9	15.0	12.8	11.2	8.0	4.5
開設教育分野	工業	65	12	18	20	17	22	14	11	9	2	2
	農業	3	-	2	1	-	-	1	2	-	-	-
	医療	68	25	20	19	10	21	5	10	10	11	2
	衛生	74	16	20	26	20	30	9	5	7	3	5
	教育・社会福祉	51	17	11	9	11	11	11	5	5	3	3
	商業実務	55	10	16	18	19	17	16	6	6	4	3
	服飾・家政	29	6	7	11	5	11	5	5	1	2	1
	文化・教養	58	14	18	14	16	16	12	8	9	7	7
		100.0	24.1	31.0	24.1	27.6	27.6	20.7	13.8	15.5	12.1	-
在籍学生数	～40人	41	4	14	15	8	11	6	7	1	4	2
	41～80人	41	9	9	14	14	12	9	4	4	1	1
	81～200人	112	38	33	35	30	50	14	15	17	8	5
	201～400人	73	18	17	17	19	21	10	10	9	8	4
	401～600人	29	7	6	9	7	5	4	3	3	3	2
	601～800人	5	2	-	1	1	-	3	1	-	-	-
	801人～1000人	7	3	2	1	1	2	1	-	1	1	-
	1001人以上	4	1	2	1	1	1	-	-	-	-	-
		100.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	-	-	-	-	-

開設教育分野別の比較では他の質問と同様に広がりがあるけれども、質問項目回答の最頻値を比べてみると、医療、教育・社会福祉分野では「組織としてキャリア教育の重要性を認識できていない」であり、文化教養分野では「担当者の養成が難しいから」、商業実務では「担当者のスキル、経験が不足しているから」、工業、衛生、服飾・家政分野では「専任の担当者がないから」と分かれている。

在籍学生数の比較でも同様に質問項目回答の最頻値は、80 人以下の学校及び 401～600 人の学校群が「担当者の人数が不足しているから」、81～400 人の学校群が「専任の担当者がないから」と回答している。

（２）自主退学者割合・卒業時進路未定者割合とのクロス集計

図表 73 キャリア教育への取組みレベルの低い原因と自主退学者割合・卒業時進路未定者割合

付問 10. 取組みレベルが低い原因は何ですか？（選択はいくつでも） 集計軸：自主退学者割合／卒業時進路未定者割合		件数	い性リ組 なをア織 か認教と か識育し らでのキ き重要	難担 し当 の者 の 養 成 が	ら不担 足し者 ての 人 数 が	しル担 当 の 者 の ス キ ル が 不 足	い専 任 の 担 当 者 が	存特 定 の 教 員 に 依 る	し費 用 の 対 応 が 難	か取 組 み 方 法 が 分	そ の 他	無 回 答
合計		313	82	83	93	81	103	47	40	35	25	14
割合（％）		100.0	26.2	26.5	29.7	25.9	32.9	15.0	12.8	11.2	8.0	4.5
自主退学者割合	0％	20	2	5	9	4	5	3	4	—	1	1
	～5％未満	144	39	36	38	30	52	26	19	17	12	6
	5～10％未満	110	26	32	38	37	38	15	14	10	6	4
	10～20％未満	28	11	7	5	5	5	2	2	6	5	1
	20～30％未満	8	2	3	3	4	1	1	1	2	1	2
	30％以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		100.0	26.2	26.5	29.7	25.9	32.9	15.0	12.8	11.2	8.0	4.5
卒業時進路未定者割合	0％	61	16	15	17	11	19	5	8	5	4	5
	～5％未満	104	22	31	34	27	32	20	13	13	7	4
	5～10％未満	63	20	14	17	21	22	8	6	5	4	2
	10～20％未満	48	10	9	16	10	18	7	5	8	5	2
	20～30％未満	17	6	4	6	7	6	3	4	1	1	1
	30％以上	14	6	9	1	5	5	3	3	3	1	—
		100.0	42.9	64.3	7.1	35.7	35.7	21.4	21.4	21.4	7.1	—

① 自主退学者割合とのクロス集計

最頻値を比べてみると、自主退学割合が 0％であると答えた学校からの回答では「担当者の人数が不足しているから」、10％未満の学校では「専任の担当者がいないから」、10～20％未満の学校では「組織としてキャリア教育の重要性を認識できていない」、20％以上の学校では「担当者のスキル、経験が不足しているから」となっており、それぞれ異なる項目が最頻値となっている。

② 卒業時進路未定者割合とのクロス集計

各項目の最頻値は、0％と答えた学校と 5～20％未満の学校では「専任の担当者がいないから」、5％未満の学校では「担当者の人数が不足しているから」、20％以上の学校では「組織としてキャリア教育の重要性を認識できていない」となっている。

これらの回答をみると学校としてキャリア教育への取組みができない状況も浮かび上がって来ており、組織として取組むためには専任の担当者の必要性や担当者の養成が必要であり、キャリア教育は一般の教員では出来ないと考えられていることなどが見受けられる。キャリア教育には全ての教職員が取組む必要があるので、その点はこれからの方策であろう。

(3) キャリア教育の現状（a～c）とのクロス集計

図表 74 キャリア教育への取組みレベルの低い原因とキャリア教育の現状

付問 10. 取組みレベルが低い原因は何ですか？（選択はいくつでも）		件数	い性り組 なをア織 い認教と か識育し らでき重 きて要	難担 し当 い者 の か の 養 成 が	ら不担 足当 者 の い 人 数 か が	しル担 てい 経者 の か が 不 足	い専 任 の 担 当 者 が	存特 定 の 教 員 か ら 依	し費 用 か の 対 応 が 難	か取 組 み 方 か 分	そ 他	無 回 答
合計		313	82	83	93	81	103	47	40	35	25	14
割合（％）		100.0	26.2	26.5	29.7	25.9	32.9	15.0	12.8	11.2	8.0	4.5
問 5 a. 現状／キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針等の中に定めている	そうである	109	14	37	34	28	24	19	13	7	6	4
	どちらかといえばそうである	100.0	12.8	33.9	31.2	25.7	22.0	17.4	11.9	6.4	5.5	3.7
	どちらかといえばそうではない	118	28	38	40	38	43	25	19	16	8	4
	どちらかといえばそうではない	100.0	23.7	32.2	33.9	32.2	36.4	21.2	16.1	13.6	6.8	3.4
	そうではない	61	27	4	16	13	30	2	5	9	4	4
問 5 b. 現状／キャリア教育の方針を明確に定めている	そうである	100.0	44.3	6.6	26.2	21.3	49.2	3.3	8.2	14.8	6.6	6.6
	どちらかといえばそうである	22	13	4	2	2	5	1	2	3	7	2
	どちらかといえばそうである	100.0	59.1	18.2	9.1	9.1	22.7	4.5	9.1	13.6	31.8	9.1
	どちらかといえばそうである	67	12	28	21	22	13	14	8	4	3	1
	どちらかといえばそうである	100.0	17.9	41.8	31.3	32.8	19.4	20.9	11.9	6.0	4.5	1.5
問 5 c. 現状／全校をあげて、体系的・総合的なキャリア教育を実践している	そうである	105	15	27	36	25	34	26	13	9	6	3
	どちらかといえばそうである	100.0	14.3	25.7	34.3	23.8	32.4	24.8	12.4	8.6	5.7	2.9
	どちらかといえばそうではない	98	33	22	28	28	40	6	16	15	9	7
	どちらかといえばそうではない	100.0	33.7	22.4	28.6	28.6	40.8	6.1	16.3	15.3	9.2	7.1
	そうではない	40	22	6	7	6	15	1	2	7	7	3
問 5 c. 現状／全校をあげて、体系的・総合的なキャリア教育を実践している	そうである	100.0	55.0	15.0	17.5	15.0	37.5	2.5	5.0	17.5	17.5	7.5
	そうである	48	8	18	15	15	8	10	6	3	2	—
	どちらかといえばそうである	100.0	16.7	37.5	31.3	31.3	16.7	20.8	12.5	6.3	4.2	—
	どちらかといえばそうである	115	15	36	43	32	35	26	15	10	4	4
	どちらかといえばそうではない	100.0	13.0	31.3	37.4	27.8	30.4	22.6	13.0	8.7	3.5	3.5
問 5 c. 現状／全校をあげて、体系的・総合的なキャリア教育を実践している	そうである	106	40	24	28	30	43	11	16	14	10	7
	どちらかといえばそうではない	100.0	37.7	22.6	26.4	28.3	40.6	10.4	15.1	13.2	9.4	6.6
	そうではない	41	19	5	6	4	16	—	2	8	9	3
	そうではない	100.0	46.3	12.2	14.6	9.8	39.0	—	4.9	19.5	22.0	7.3
	そうではない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

a. キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針の中に定めているか、b. キャリア教育の方針を明確に定めている、c. 全校あげて体系的・統合的なキャリア教育を実践しているか、それぞれの質問にて「そうである」と答えた学校からの回答でも最頻値は「担当者の養成が難しいから」であり、「どちらかといえばそうである」と答えた学校では最頻値が異なり、a. の質問では「専任の担当者がいないから」、b. の質問では「担当者の人数が不足しているから」、c. の質問では「担当者の養成が難しいから」と分かれている。もっともそれぞれの回答数は僅差であり、明確な差が出た訳ではない。

また、「どちらかといえばそうでない」と答えた学校では3つとも「専任の担当者がいないから」が最頻値であり、「そうではない」と答えた学校も同様に「組織としてキャリア教育の重要性を認識できていない」とそろっているのが興味深いところである。

（４）キャリア教育の現状（d～f）とのクロス集計

図表 75 キャリア教育への取組みレベルの低い原因とキャリア教育の現状

		件数	性別 なをア い認教 か識育 らでし て重要	組織 の教 養成 が	担 当 者 の 人 数 が	不 担 当 者 の 人 数 が	し る 担 当 者 の 人 数 が	い 専 任 の 担 当 者 が	存 特 定 の 教 員 に 依	し 費 用 の 対 応 が 難	か 取 組 み 方 が 分	そ の 他	無 回 答
付問10. 取組みレベルが低い原因は何ですか？（選択はいくつでも）													
合計		313	82	83	93	81	103	47	40	35	25	14	
割合（%）		100.0	26.2	26.5	29.7	25.9	32.9	15.0	12.8	11.2	8.0	4.5	
問5 d. 現状／キャリア教育を積極的に推進する体制が整っている	そうである	35	4	14	10	10	8	9	4	3	1	-	
	どちらかといえばそうである	106	15	32	39	31	22	23	12	10	6	4	
	どちらかといえばそうではない	128	45	30	35	37	57	15	20	16	8	5	
	そうではない	41	18	7	8	3	15	-	3	6	10	5	
		100.0	43.9	17.1	19.5	7.3	36.6	-	7.3	14.6	24.4	12.2	
問5 e. 現状／キャリア教育を評価・改善する機能や取組みがある	そうである	20	3	7	12	4	3	2	1	2	1	-	
	どちらかといえばそうである	98	19	30	28	27	25	22	12	9	4	5	
	どちらかといえばそうではない	131	29	38	39	40	50	22	21	10	9	3	
	そうではない	61	31	8	13	10	24	1	5	14	11	6	
		100.0	50.8	13.1	21.3	16.4	39.3	1.6	8.2	23.0	18.0	9.8	
問5 f. 現状／キャリア教育について、教職員に対する普及に努力している	そうである	48	10	20	15	13	5	7	5	1	2	-	
	どちらかといえばそうである	123	14	39	43	43	37	30	15	12	5	5	
	どちらかといえばそうではない	107	41	18	28	22	52	9	17	15	9	7	
	そうではない	32	17	6	6	3	8	1	2	7	9	2	
		100.0	53.1	18.8	18.8	9.4	25.0	3.1	6.3	21.9	28.1	6.3	

d. キャリア教育を積極的に推進する体制が整っているか、e. キャリア教育を評価・改善する機能や取組みがある、f. キャリア教育について教職員に対する普及に努力しているか、これらの質問に対して「そうである」「どちらかといえばそうである」と答えた学校ではそれぞれの回答の上位が「担当者の養成が難しいから」、「担当者の人数が不足しているから」の集中している。ところが「どちらかといえばそうでない」、「そうではない」と答えた学校では「専任の担当者がいないから」が最頻値であってこの問題が明白に見える結果となっている。

(５) キャリア教育の現状（g～h）とのクロス集計

図表 76 キャリア教育への取組みレベルの低い原因とキャリア教育の現状

付問 10. 取組みレベルが低い原因は何ですか？（選択はいくつでも）		件数	性別を認識しているから重要	組織としてキャリア教育の重要性を認識しているから重要	担当者の養成が難しいから	担当者の人数が不足しているから	担当者の経験が不足しているから	専任の担当者がいないから	特定の教員に依存しているから	費用の対応が難しいから	取組まない方法が分らないから	その他	無回答
合計		313	82	83	93	81	103	47	40	35	25	14	
割合（％）		100.0	26.2	26.5	29.7	25.9	32.9	15.0	12.8	11.2	8.0	4.5	
問 5 g. 現状／キャリア教育について、入学前の時点から取組んでいる	そうである	17	3	9	4	4	6	2	1	2	2	-	
	どちらかといえばそうである	56	12	17	23	13	15	12	7	7	1		
	どちらかといえばそうではない	117	26	30	27	32	43	20	18	10	10	7	
	そうではない	120	41	27	38	32	38	13	13	16	13	6	
		100.0	34.2	22.5	31.7	26.7	31.7	10.8	10.8	13.3	10.8	5.0	
問 5 h. 現状／キャリア教育について、卒業生に対するサービスや支援を行っている	そうである	38	10	10	13	10	8	4	4	2	3		
	どちらかといえばそうである	91	16	29	34	29	27	16	9	10	5	5	
	どちらかといえばそうではない	108	27	28	28	25	45	18	13	8	7	5	
	そうではない	71	28	15	15	17	22	8	12	15	9	4	
		100.0	39.4	21.1	21.1	23.9	31.0	11.3	16.9	21.1	12.7	5.6	

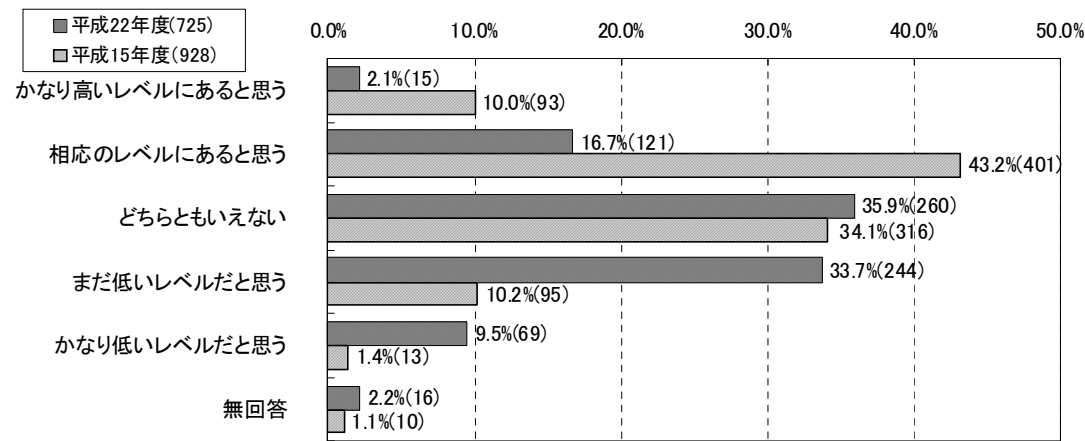
g. キャリア教育について入学前に取組んでいるかという質問では、「そうである」と答えた学校では「担当者の養成が難しいから」、「どちらかといえばそうである」と答えた学校では「担当者の人数が不足しているから」、「どちらかといえばそうでない」と答えた学校では「専任の担当者がいないから」、「そうではない」と答えた学校では「組織としてキャリア教育の重要性を認識できていない」が最頻値であり、それぞれ分かれた結果となっている。

次に、h. 卒業生に対するサービスや支援を行っているかという質問では、「そうである」「どちらかといえばそうである」と答えた学校では「担当者の人数が不足しているから」、「どちらかといえばそうでない」と答えた学校では「専任の担当者がいないから」、「そうではない」と答えた学校では「組織としてキャリア教育の重要性を認識できていない」が最頻値であり上記質問に近い回答であった。

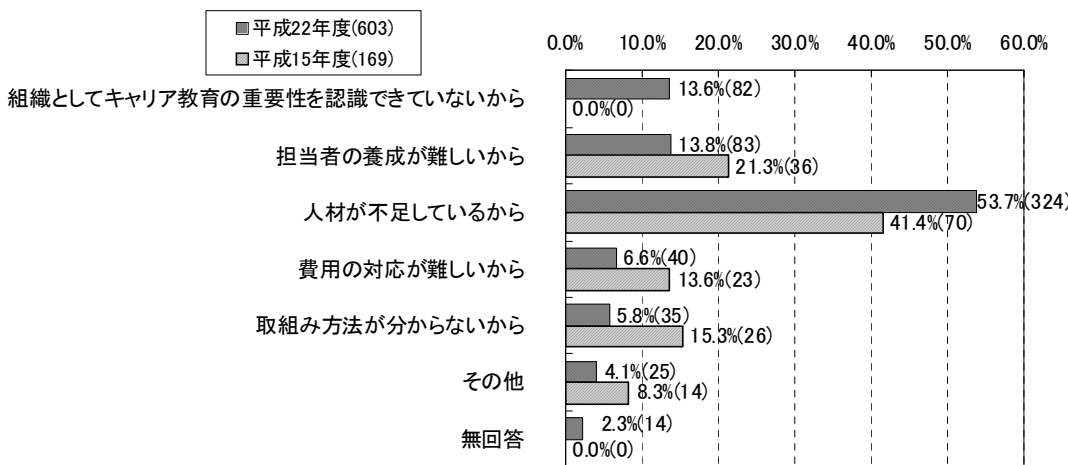
ここまでのクロス集計をみるとキャリア教育に取り組んでいない学校では、担当者不足や組織の理解のなさを答えるものが多く、キャリア教育に取り組んで来るにつれて担当者の養成が必要であると感じるようである。このことからキャリア教育の内容は複雑であり、ただ単に取り組めばすむものではなく、連続した内容把握が必要であり、担当者の養成に時間がかかることを認識して行くようである。

(6) 平成15年度調査との比較

図表 77 キャリア教育への取組みレベルについての評価(平成22年度と平成15年度の比較)



図表 78 キャリア教育への取組みレベルが低い原因(平成22年度と平成15年度の比較)



① キャリア教育への取組みレベル

問10の質問は、平成15年度の調査と同じ質問であるので、比較は容易い、但し、付問10では選択肢が増えているので若干比較がしがたい点もある。

この結果は平成15年度の調査結果と比べてもかなり顕著に違いが表れており、前回は自信にあふれた回答が多かったが、今回は逆にまだ不十分であるとする学校が多い結果となった。これは単にレベルが下がったのではなく、キャリア教育に対する内容が理解されてきたために、内容の奥の深さが理解され、まだ取り組む課題の多いことに気がついたためではないかと推測される。

前回の質問は「職業・進路指導、キャリア相談等の取組みのレベルについては、どのように評価しますか。」と問うているのに対して、今回の質問は「キャリア教育への取組みレベルについて、どのように評価していますか？」と若干ニュアンスは違うかもしれないが、質問の本質は同じであると考えているので、「まだ低いレベル」と答えた学校が増加したこ

とは、キャリア教育への認識が高まったために、かえって構えて考えたためでないかと思われる。(図表 77 参照)

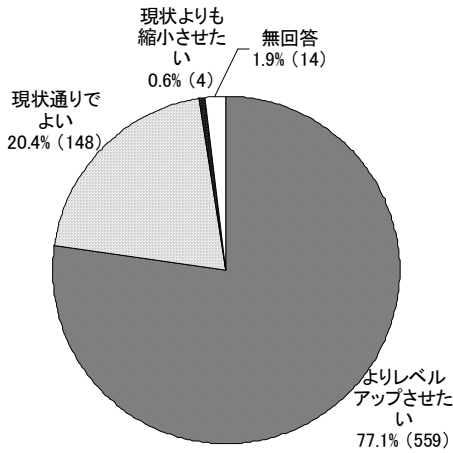
特に付問にて「人材不足」を原因として掲げている回答が多いことから見ても、これからの人材投入の必要性を各学校が感じているものと考えられる。(図表 78 参照)

問 11. 今後、貴校のキャリア教育の取組みに対して、どのようにお考えですか？

(選択は1つ)

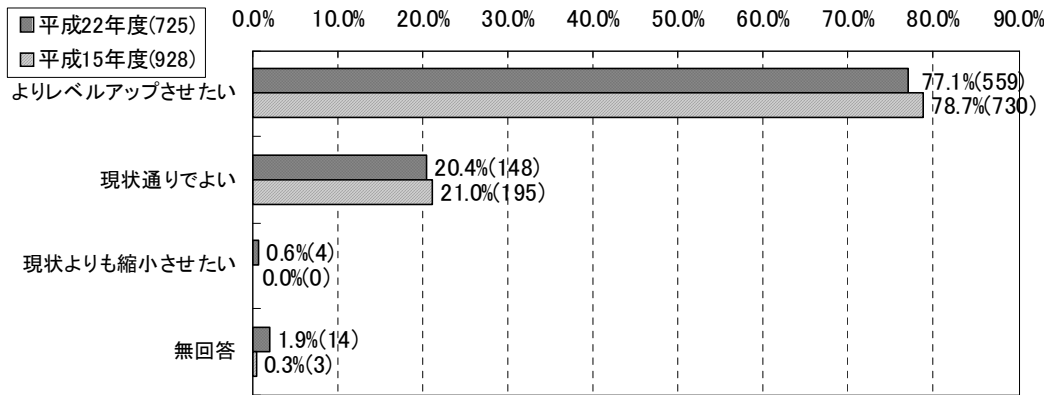
この質問は、今後のキャリア教育に対する学校の考えを求めたものであり、前問同様これから高めて行きたいという意気込みが感じられた。77%以上の回答者がより高いレベルを希望しており、これからの専門学校教育に必要であると認識しているものと考えられる。ただ、現状で良いという回答も約 20%あり、これらの学校はもう既に相当のレベルにあるのかというと、前問にて「高いレベルにある」もしくは「相応のレベルにある」と回答している学校の合計よりも多いので、必ずしも高いレベルにあると満足している学校だけではないように思われる。

図表 79 今後のキャリア教育への取組み



(1) 平成 15 年度調査との比較

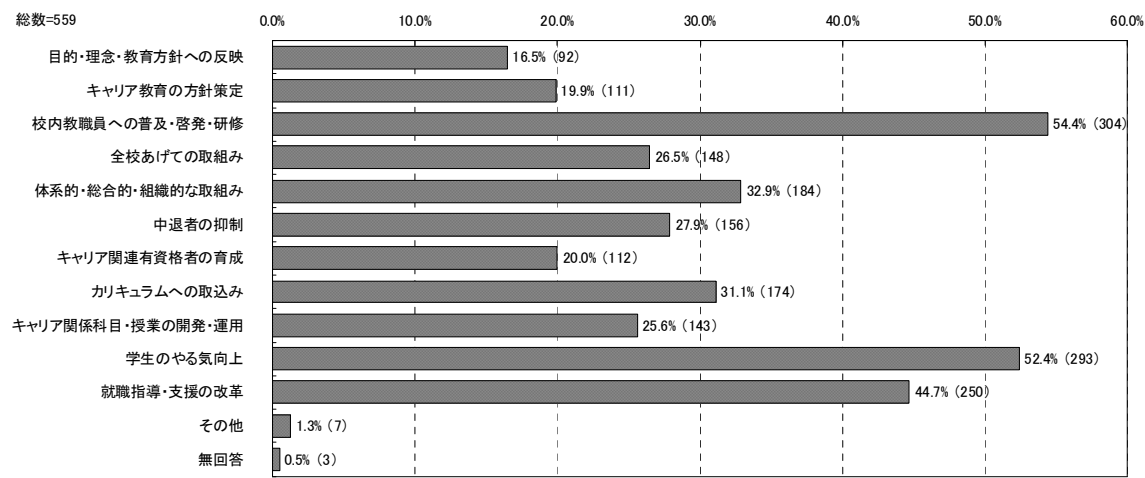
図表 80 今後のキャリア教育への取組み(平成 22 年度と平成 15 年度の比較)



平成 15 年度の調査結果と比べても「よりレベルアップさせたい」と答えている学校の割合は依然として高く、キャリア教育に対して取組む内容には終わりが無いと感じさせられる。

付問 11. どのような点を充実させたいとお考えですか？（複数選択可）

図表 81 今後のキャリア教育への取組みの内容



「校内教職員への普及・啓発・研修」の 54.4%が最頻値であり、僅差で「学生のやる気向上」が 52.4%で続いている。その他にここで質問した項目はいずれも興味のある項目であり、いずれも充実させたいものであった。

（１）問 11 のクロス集計

今回の結果を他の質問の回答状況と照らし合わせて検討すると次のような結果となった。

① 教育分野・在籍学生数とのクロス集計

図表 82 今後のキャリア教育への取組みと開設教育分野・在籍学生数

問 11. 今後、貴校のキャリア教育の取組みに対して、どのようにお考えですか？（選択は1つ） 集計軸：開設教育分野／在籍学生数		件数	たより アップ レベル させ	現状 通り で	現状 より 小さ きも	無 回 答
合計		725	559	148	4	14
割合（％）		100.0	77.1	20.4	0.6	1.9
開設教育分野	工業	144	118	25		1
		100.0	81.9	17.4	－	0.7
	農業	8	6	2		
		100.0	75.0	25.0	－	－
	医療	156	112	39	2	3
		100.0	71.8	25.0	1.3	1.9
	衛生	152	107	40		5
		100.0	70.4	26.3	－	3.3
	教育・社会福祉	138	105	30	2	1
		100.0	76.1	21.7	1.4	0.7
在籍学生数	商業実務	168	144	21	1	2
		100.0	85.7	12.5	0.6	1.2
	服飾・家政	48	39	7		2
		100.0	81.3	14.6	－	4.2
	文化・教養	169	149	19		1
		100.0	88.2	11.2	－	0.6
	～40人	66	42	20	1	3
		100.0	63.6	30.3	1.5	4.5
	41～80人	99	77	18	1	3
		100.0	77.8	18.2	1.0	3.0
	81～200人	232	176	53		3
		100.0	75.9	22.8	－	1.3
	201～400人	170	135	31	2	2
		100.0	79.4	18.2	1.2	1.2
	401～600人	77	59	17		1
		100.0	76.6	22.1	－	1.3
	601～800人	30	28	2		
		100.0	93.3	6.7	－	－
	801人～1000人	30	27	3		
		100.0	90.0	10.0	－	－
	1001人以上	17	14	3		
		100.0	82.4	17.6	－	－

開設教育分野別の比較では概ねどの分野も同様の結果であり、あまり差は出てはいない。

強いて言えば、工業、商業、文化・教養の各分野が80%を超えて「よりレベルアップさせたい」と答えている。在籍学生数でみると、601～1000人までの学校が90%を超えて「よりレベルアップさせたい」と答えている。

② 自主退学者割合・卒業時進路未定者割合とのクロス集計

図表 83 今後のキャリア教育への取組みと自主退学者割合・卒業時進路未定者割合

問11. 今後、貴校のキャリア教育の取組みに対して、どのようにお考えですか？（選択は1つ） 集計軸：自主退学者割合／卒業時進路未定者割合		件数	プ よ さ り せ れ た べ い ル ア ッ	現 状 通 り で よ い	さ 現 状 を よ り も 縮 小	無 回 答
合計		725	559	148	4	14
割合（％）		100.0	77.1	20.4	0.6	1.9
自主退学者割合	0％	46	27	15	1	3
		100.0	58.7	32.6	2.2	6.5
	～5％未満	349	268	74	2	5
		100.0	76.8	21.2	0.6	1.4
	5～10％未満	268	222	43		3
		100.0	82.8	16.0	－	1.1
	10～20％未満	46	32	12	1	1
		100.0	69.6	26.1	2.2	2.2
卒業時進路未定者割合	20～30％未満	9	7	2		
		100.0	77.8	22.2	－	－
	30％以上	1	1			
		100.0	100.0	－	－	－
	0％	152	105	42	2	3
		100.0	69.1	27.6	1.3	2.0
	～5％未満	253	202	48		3
卒業時進路未定者割合		100.0	79.8	19.0	－	1.2
	5～10％未満	165	134	28	1	2
		100.0	81.2	17.0	0.6	1.2
	10～20％未満	83	61	20		2
		100.0	73.5	24.1	－	2.4
	20～30％未満	30	27	3		
		100.0	90.0	10.0	－	－
卒業時進路未定者割合	30％以上	27	23	2		2
		100.0	85.2	7.4	－	7.4

自主退学割合が0％と答えた学校では「現状通りでよい」の回答が32％と高くなっているが、それ以外の割合の学校では「よりレベルアップさせたい」と答えている学校が圧倒的に多い。これは卒業生進路未定者割合でも同様で、0％の学校では「現状通りでよい」の回答が他に比べて高くなっている。

③ キャリア教育の現状（a～c）とのクロス集計

図表 84 今後のキャリア教育への取組みとキャリア教育の現状

問1 1. 今後、貴校のキャリア教育の取組みに対して、どのようにお考えですか？（選択は1つ）		件数	よりアップしたい	現状通り	現状より縮小	無回答
合計		725	559	148	4	14
割合（％）		100.0	77.1	20.4	0.6	1.9
問5 a. 現状／キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針等の中に定めている	そうである	325	282	37	—	6
		100.0	86.8	11.4	—	1.8
	どちらかといえばそうである	276	207	66	3	—
		100.0	75.0	23.9	1.1	—
問5 b. 現状／キャリア教育の方針を明確に定めている	どちらかといえばそうではない	85	53	29	1	2
		100.0	62.4	34.1	1.2	2.4
	そうではない	30	13	15	—	2
		100.0	43.3	50.0	—	6.7
問5 c. 現状／全校をあげて、体系的・総合的なキャリア教育を実践している	そうである	230	200	27	—	3
		100.0	87.0	11.7	—	1.3
	どちらかといえばそうである	298	235	58	2	3
		100.0	78.9	19.5	0.7	1.0
問5 d. 現状／全校をあげて、体系的・総合的なキャリア教育を実践している	どちらかといえばそうではない	136	95	39	1	1
		100.0	69.9	28.7	0.7	0.7
	そうではない	52	25	23	1	3
		100.0	48.1	44.2	1.9	5.8
問5 e. 現状／全校をあげて、体系的・総合的なキャリア教育を実践している	そうである	199	170	26	—	3
		100.0	85.4	13.1	—	1.5
	どちらかといえばそうである	322	259	59	2	2
		100.0	80.4	18.3	0.6	0.6
問5 f. 現状／全校をあげて、体系的・総合的なキャリア教育を実践している	どちらかといえばそうではない	145	105	37	1	2
		100.0	72.4	25.5	0.7	1.4
	そうではない	50	21	25	1	3
		100.0	42.0	50.0	2.0	6.0

キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針の中に定めているか、キャリア教育の方針を明確に定めている、全校あげて体系的・統合的なキャリア教育を実践しているか、それぞれの質問にて「そうである」～「どちらかといえばそうではない」と答えた学校では「よりレベルアップさせたい」と答えている学校が多いけれども、「そうではない」と答えた学校では「現状通りでよい」と答えた学校がやや多いのが見受けられる。他の質問でもこの傾向は見られることは何らかの理由でキャリア教育への理解が得られていないからのものである。

④ キャリア教育の現状（d～f）とのクロス集計

図表 85 今後のキャリア教育への取組みとキャリア教育の現状

問1 1. 今後、貴校のキャリア教育の取組みに対して、どのようにお考えですか？（選択は1つ）		件数	より アップ したい	現状 通り	現状 より 縮小	無 回答
合計 割合（％）		725 100.0	559 77.1	148 20.4	4 0.6	14 1.9
問5 d. 現状／キャリア教育を積極的に推進する体制が整っている	そうである	162 100.0	137 84.6	25 15.4	—	—
	どちらかといえばそうである	318 100.0	258 81.1	54 17.0	1 0.3	5 1.6
	どちらかといえばそうではない	184 100.0	136 73.9	43 23.4	3 1.6	2 1.1
	そうではない	51 100.0	23 45.1	25 49.0	—	3 5.9
問5 e. 現状／キャリア教育を評価・改善する機能や取組みがある	そうである	101 100.0	85 84.2	16 15.8	—	—
	どちらかといえばそうである	314 100.0	261 83.1	48 15.3	1 0.3	4 1.3
	どちらかといえばそうではない	223 100.0	164 73.5	54 24.2	3 1.3	2 0.9
	そうではない	78 100.0	45 57.7	29 37.2	—	4 5.1
問5 f. 現状／キャリア教育について、教職員に対する普及に努力している	そうである	182 100.0	159 87.4	22 12.1	—	1 0.5
	どちらかといえばそうである	342 100.0	276 80.7	59 17.3	3 0.9	4 1.2
	どちらかといえばそうではない	147 100.0	100 68.0	44 29.9	1 0.7	2 1.4
	そうではない	45 100.0	20 44.4	22 48.9	—	3 6.7

キャリア教育を積極的に推進する体制が整っているか、キャリア教育を評価・改善する機能や取組みがある、キャリア教育について教職員に対する普及に努力しているこれらの質問に対しても「そうである」～「どちらかといえばそうではない」と答えた学校では「よりレベルアップさせたい」と答えている学校が多いけれども、「そうではない」と答えた学校では「現状通りでよい」と答えた学校の割合がやや多い。

⑤ キャリア教育の現状（g～h）とのクロス集計

図表 86 今後のキャリア教育への取組みとキャリア教育の現状

問11. 今後、貴校のキャリア教育の取組みに対して、どのようにお考えですか？（選択は1つ）		件数	より アップ したい	現状 通り	現状 より 縮小	無 回答
合計		725	559	148	4	14
割合（％）		100.0	77.1	20.4	0.6	1.9
問5 g. 現状／キャリア教育について、入学前の時点から取組んでいる	そうである	90	80	10		
		100.0	88.9	11.1	－	－
	どちらかといえばそうである	172	136	32	1	3
		100.0	79.1	18.6	0.6	1.7
	どちらかといえばそうではない	228	172	53	1	2
		100.0	75.4	23.2	0.4	0.9
	そうではない	226	167	52	2	5
		100.0	73.9	23.0	0.9	2.2
問5 h. 現状／キャリア教育について、卒業生に対するサービスや支援を行っている	そうである	122	107	15		
		100.0	87.7	12.3	－	－
	どちらかといえばそうである	257	200	49	4	4
		100.0	77.8	19.1	1.6	1.6
	どちらかといえばそうではない	210	162	46		2
		100.0	77.1	21.9	－	1.0
	そうではない	123	82	37		4
		100.0	66.7	30.1	－	3.3

キャリア教育について入学前に取組んでいるかという質問の答えと比較すると、ほとんど同様に「よりレベルアップさせたい」と答えている学校が多い。

また、卒業生に対するサービスや支援を行っているかという質問の回答と比較しても同様に「よりレベルアップさせたい」と答えている学校が多い積極的な取組みを示しているものである。

（２）付問 11 のクロス集計

付問 11 は問 11 にて「よりレベルアップさせたい」と答えた学校に対して、どのような点を充実させたいかを質問するものである。

① 教育分野・在籍学生数とのクロス集計

図表 87 よりレベルアップさせるための取組みと開設教育分野・在籍学生数

付問 11.（問 11 で、「1. よりレベルアップさせたい」とお答えの方に）それでは、どのような点を充実させたいとお考えですか？（選択はいくつでも） 集計軸：開設教育分野／在籍学生数		件数	育目的針・理の念反・映教	方キヤ針策リ定ア教育の	修普校及内・教職発員・へ研の	組全み校あげての取	組的体み・系組的織・的総な合取	中退者の抑制	資キヤ格者のア育開連有	のカ取リ込みラムへ	発目・キヤ運授リアの業関係科	上学生のやる気向	の就職革指導・支援	その他	無回答
合計		559	92	111	304	148	184	156	112	174	143	293	250	7	3
割合（％）		100.0	16.5	19.9	54.4	26.5	32.9	27.9	20.0	31.1	25.6	52.4	44.7	1.3	0.5
開設教育分野	工業	118	15	33	63	40	54	34	30	45	41	75	64	2	—
	農業	6	2	2	2	3	2	—	1	—	2	4	4	—	—
	医療	112	25	24	54	28	37	45	17	40	29	66	41	—	—
	衛生	107	22	19	63	34	36	33	25	35	23	62	52	—	1
	教育・社会福祉	105	23	23	59	32	34	38	19	39	26	61	42	1	1
	商業実務	144	17	31	92	42	48	33	37	48	42	67	62	2	1.0
	服飾・家政	39	6	9	23	12	13	9	8	12	12	18	25	1	—
	文化・教養	149	23	27	90	38	51	37	26	48	47	69	69	4	1
		100.0	15.4	18.1	60.4	25.5	34.2	24.8	17.4	32.2	31.5	46.3	46.3	2.7	0.7
		42	6	8	23	7	11	4	8	11	11	23	17	—	—
在籍学生数	～40人	100.0	14.3	19.0	54.8	16.7	26.2	9.5	19.0	26.2	26.2	54.8	40.5	—	—
	41～80人	77	14	14	36	20	21	16	19	24	21	42	37	1	2
	81～200人	176	34	36	90	44	55	50	30	54	36	98	79	2	1
	201～400人	100.0	19.3	20.5	51.1	25.0	31.3	28.4	17.0	30.7	20.5	55.7	44.9	1.1	0.6
		135	20	21	79	30	46	44	26	36	30	64	58	2	—
	401～600人	100.0	14.8	15.6	58.5	22.2	34.1	32.6	19.3	26.7	22.2	47.4	43.0	1.5	—
		59	9	19	37	22	26	24	14	23	18	31	28	—	—
	601～800人	100.0	15.3	32.2	62.7	37.3	44.1	40.7	23.7	39.0	30.5	52.5	47.5	—	—
		28	4	6	16	10	13	10	6	11	10	14	11	—	—
1001人以上	801人～1000人	100.0	14.3	21.4	57.1	35.7	46.4	35.7	21.4	39.3	35.7	50.0	39.3	—	—
		27	3	4	14	9	6	7	9	11	12	11	14	2	—
		100.0	11.1	14.8	51.9	33.3	22.2	25.9	33.3	40.7	44.4	40.7	51.9	7.4	—
		14	2	3	9	6	6	1	—	4	5	9	5	—	—
		100.0	14.3	21.4	64.3	42.9	42.9	7.1	—	28.6	35.7	64.3	35.7	—	—

開設教育分野別の比較では「工業」、「農業」、「医療」、「教育・社会福祉」が「学生のやる気向上」を最頻値としており、「衛生」、「商業実務」、「服飾・家政」、「文化・教養」が「校内教職員への普及・啓発・研修」を最頻値としている。

在籍学生数の比較でも同様に 40 人までと 201 人以上の学校では「校内教職員への普及・啓発・研修」が最頻値、41 人から 200 人までの学校では「学生のやる気向上」が最頻値となっている。1001 人以上の学校では両者が同数で最頻値となっている。

② 自主退学者割合・卒業時進路未定者割合とのクロス集計

図表 88 よりレベルアップさせるための取組みと自主退学者割合・卒業時進路未定者割合

付問 1 1. (問 1 1 で、「1. よりレベルアップさせたい」とお答えの方に) それでは、どのような点を充実させたいとお考えですか? (選択はいくつでも)		件数	育目的針・への態度・映教	方針策定・教育の	修普校及内・教啓職員・への研の	組全み校あけての取	組的体系的組織的・総合的な取	中退者の抑制	資格者リア育関連有	の力取込み・ラムへ	発目キ・運授リア用業の関係科	上学生のやる気向	の就改職指導・支援	その他	無回答
合計		559	92	111	304	148	184	156	112	174	143	293	250	7	3
割合 (%)		100.0	16.5	19.9	54.4	26.5	32.9	27.9	20.0	31.1	25.6	52.4	44.7	1.3	0.5
自主退学者割合	0 %	27	5	5	12	4	6	3	7	9	8	15	12	-	-
		100.0	18.5	18.5	44.4	14.8	22.2	11.1	25.9	33.3	29.6	55.6	44.4	-	-
	～ 5 % 未満	268	40	53	161	68	87	67	59	81	67	138	115	5	-
		100.0	14.9	19.8	60.1	25.4	32.5	25.0	22.0	30.2	25.0	51.5	42.9	1.9	-
	5 ～ 1 0 % 未満	222	35	41	113	68	74	74	42	72	56	121	102	2	3
		100.0	15.8	18.5	50.9	30.6	33.3	33.3	18.9	32.4	25.2	54.5	45.9	0.9	1.4
	1 0 ～ 2 0 % 未満	32	7	7	14	6	12	11	3	9	10	14	18	-	-
		100.0	21.9	21.9	43.8	18.8	37.5	34.4	9.4	28.1	31.3	43.8	56.3	-	-
	2 0 ～ 3 0 % 未満	7	3	4	3	1	4	1	1	2	2	3	2	-	-
		100.0	42.9	57.1	42.9	14.3	57.1	14.3	14.3	28.6	28.6	42.9	28.6	-	-
	3 0 % 以上	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卒業時進路未定者割合	0 %	105	15	15	51	24	30	30	14	31	24	60	35	2	-
		100.0	14.3	14.3	48.6	22.9	28.6	28.6	13.3	29.5	22.9	57.1	33.3	1.9	-
	～ 5 % 未満	202	38	39	118	66	74	64	45	55	54	96	94	2	1
		100.0	18.8	19.3	58.4	32.7	36.6	31.7	22.3	27.2	26.7	47.5	46.5	1.0	0.5
	5 ～ 1 0 % 未満	134	19	25	70	35	42	37	33	46	33	72	60	2	-
		100.0	14.2	18.7	52.2	26.1	31.3	27.6	24.6	34.3	24.6	53.7	44.8	1.5	-
	1 0 ～ 2 0 % 未満	61	5	16	38	12	23	11	8	22	17	27	27	-	2
		100.0	8.2	26.2	62.3	19.7	37.7	18.0	13.1	36.1	27.9	44.3	44.3	-	3.3
	2 0 ～ 3 0 % 未満	27	8	10	17	6	10	6	3	8	10	18	16	-	-
		100.0	29.6	37.0	63.0	22.2	37.0	22.2	11.1	29.6	37.0	66.7	59.3	-	-
	3 0 % 以上	23	6	4	6	3	3	7	9	7	4	14	13	1	-
		100.0	26.1	17.4	26.1	13.0	13.0	30.4	39.1	30.4	17.4	60.9	56.5	4.3	-

自主退学の割合別に「よりレベルアップさせたいと考えている取組み」を見てみると、自主退学率が 0%と答えた学校と 5～10%未満と答えた学校の最頻値は「学生のやる気向上」、～5%未満の学校の最頻値は「校内教職員への普及・啓発・研修」、10～20%未満の学校の最頻値は「就職指導・支援の改革」、20～30%未満の学校の最頻値は「キャリア教育の方針策定」と「体系的・総合的・組織的な取組み」となっている。

次に、卒業時進路未定割合との比較で見ると卒業時進路未定者の割合が 0%、5～10%未満、20%以上と回答した学校の最頻値は「学生のやる気向上」となっており、それ以外の学校の最頻値は「校内教職員への普及・啓発・研修」となっている。

③ キャリア教育の現状（a～c）とのクロス集計

図表 89 よりレベルアップさせるための取組みとキャリア教育の現状

付問 11. （問 11 で、「1. よりレベルアップさせたい」とお答えの方に）それでは、どのような点を充実させたいとお考えですか？（選択はいくつでも）		件数	反教目 映育的 方・ 針理 へ念 の・	のキ 方 針リ 策ア 定 育	発の校 ・普内 研及 修・職 啓員 へ	取全 組校 みあ げ て の	取組・系 み組的 織・的 的 な 含	中退 者 の 抑 制	成有キ 資格 リ 者 の 関 育 連	へカリ 取 込 み ラ ム	開科キ 発目・リ 運授ア 用業 の係	向学 上生 の や る 気	援就 の職 改指 導・ 支	そ の 他	無 回 答
合計		559	92	111	304	148	184	156	112	174	143	293	250	7	3
割合（％）		100.0	16.5	19.9	54.4	26.5	32.9	27.9	20.0	31.1	25.6	52.4	44.7	1.3	0.5
問 5 a. 現状／キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針等の中に定めている	そうである	282	48	52	148	92	103	98	65	104	90	175	129	3	2
	どちらかといえばそうである	100.0	17.0	18.4	52.5	32.6	36.5	34.8	23.0	36.9	31.9	62.1	45.7	1.1	0.7
	どちらかといえばそうではない	207	30	40	122	44	59	44	39	49	44	87	84	3	1
	そうではない	100.0	14.5	19.3	58.9	21.3	28.5	21.3	18.8	23.7	21.3	42.0	40.6	1.4	0.5
	そうではない	53	12	15	27	10	18	9	8	17	4	22	25	-	-
問 5 b. 現状／キャリア教育の方針を明確に定めている	そうである	100.0	22.6	28.3	50.9	18.9	34.0	17.0	15.1	32.1	7.5	41.5	47.2	-	-
	どちらかといえばそうである	13	1	4	4	1	3	1	-	2	3	5	9	1	-
	どちらかといえばそうではない	100.0	7.7	30.8	30.8	7.7	23.1	7.7	-	15.4	23.1	38.5	69.2	7.7	-
	そうである	200	35	33	100	63	67	76	45	80	72	131	89	3	2
	どちらかといえばそうである	100.0	17.5	16.5	50.0	31.5	33.5	38.0	22.5	40.0	36.0	65.5	44.5	1.5	1.0
問 5 c. 現状／全校をあげて、体系的・総合的なキャリア教育を実践している	どちらかといえばそうである	235	32	41	146	55	73	55	46	55	46	108	99	3	-
	どちらかといえばそうではない	100.0	13.6	17.4	62.1	23.4	31.1	23.4	19.6	23.4	19.6	46.0	42.1	1.3	-
	そうである	95	20	30	42	23	36	18	21	32	19	37	43	1	1
	どちらかといえばそうではない	100.0	21.1	31.6	44.2	24.2	37.9	18.9	22.1	33.7	20.0	38.9	45.3	1.1	1.1
	そうではない	25	4	7	13	6	7	3	-	5	4	13	16	-	-
問 5 a. 現状／キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針等の中に定めている	そうである	100.0	16.0	28.0	52.0	24.0	28.0	12.0	-	20.0	16.0	52.0	64.0	-	-
	どちらかといえばそうである	170	34	28	80	54	55	66	36	70	62	115	83	4	2
	どちらかといえばそうではない	100.0	20.0	16.5	47.1	31.8	32.4	38.8	21.2	41.2	36.5	67.6	48.8	2.4	1.2
	そうである	259	33	47	161	69	83	64	55	59	52	123	102	2	-
	どちらかといえばそうではない	100.0	12.7	18.1	62.2	26.6	32.0	24.7	21.2	22.8	20.1	47.5	39.4	0.8	-
問 5 b. 現状／キャリア教育の方針を明確に定めている	そうである	105	22	29	52	20	38	17	19	37	24	41	51	1	1
	どちらかといえばそうである	100.0	21.0	27.6	49.5	19.0	36.2	16.2	18.1	35.2	22.9	39.0	48.6	1.0	1.0
	どちらかといえばそうではない	21	2	7	8	4	7	5	2	6	3	10	11	-	-
	そうである	100.0	9.5	33.3	38.1	19.0	33.3	23.8	9.5	28.6	14.3	47.6	52.4	-	-
	どちらかといえばそうである	100.0	16.5	19.9	54.4	26.5	32.9	27.9	20.0	31.1	25.6	52.4	44.7	1.3	0.5
問 5 c. 現状／全校をあげて、体系的・総合的なキャリア教育を実践している	どちらかといえばそうである	282	48	52	148	92	103	98	65	104	90	175	129	3	2
	どちらかといえばそうではない	100.0	17.0	18.4	52.5	32.6	36.5	34.8	23.0	36.9	31.9	62.1	45.7	1.1	0.7
	そうである	207	30	40	122	44	59	44	39	49	44	87	84	3	1
	どちらかといえばそうではない	100.0	14.5	19.3	58.9	21.3	28.5	21.3	18.8	23.7	21.3	42.0	40.6	1.4	0.5
	そうではない	53	12	15	27	10	18	9	8	17	4	22	25	-	-

「キャリア教育の現状 a～c」と「よりレベルアップさせたいと考えている取組み」をクロスして見てみると、「キャリア教育を重視した考え方を学校の目的・教育理念・教育方針の中に定めている」、「キャリア教育の方針を明確に定めている」、「全校あげて体系的・統合的なキャリア教育を実践している」に対して「そうである」と答えた学校は、全て「学生のやる気向上」が「よりレベルアップさせたいと考えている取組み」の最頻値となっている。

「どちらかといえばそうである」と回答した学校では「校内教職員への普及・啓発・研修」が最頻値、「そうではない」と答えた学校では「就職指導・支援の改革」が最頻値となっているのが特徴的である。

「どちらかといえばそうでない」と回答した学校では、a. と c. の質問では「校内教職員への普及・啓発・研修」が最頻値で、「どちらかといえばそうである」と回答した学校と同数であるが、b. の質問では「就職指導・支援の改革」が最頻値で、「そうではない」と回答した学校に近いものがある。

④ キャリア教育の現状（d～f）とのクロス集計

図表 90 よりレベルアップさせるための取組みとキャリア教育の現状

付問 11. (問 11 で、「1. よりレベルアップさせたい」とお答えの方に) それでは、どのような点を充実させたいとお考えですか? (選択はいくつでも)		件数	反教 育的 方・ 針理 へ念 の・	のキ ヤ リ ア 策ア 定教 育	発の校 ・普内 研修・ 職啓員 へ	取全 組校 みあげ ての	取的体 組・系 み・組 織・的 的総 な合	中退 者 の抑 制	成有キ ヤ リ ア 格ア の関 育連	ヘカ リ キ ュ ラ ム の取 込 み	開科キ ヤ リ ア 運 発 ・リ 授ア 用業 の係	向学 上生 のや る気	授就 の職 改指 革・支	その他	無 回 答
合計		559	92	111	304	148	184	156	112	174	143	293	250	7	3
割合 (%)		100.0	16.5	19.9	54.4	26.5	32.9	27.9	20.0	31.1	25.6	52.4	44.7	1.3	0.5
問 5 d. 現状／キャリア教育を積極的に推進する体制が整っている	そうである	137	26	26	64	43	46	58	31	55	53	90	67	3	1
	どちらかといえばそうである	100.0	19.0	19.0	46.7	31.4	33.6	42.3	22.6	40.1	38.7	65.7	48.9	2.2	0.7
	どちらかといえばそうではない	258	36	43	158	63	76	63	53	71	57	128	100	1	1
	そうではない	100.0	14.0	16.7	61.2	24.4	29.5	24.4	20.5	27.5	22.1	49.6	38.8	0.4	0.4
	そうではない	136	25	35	70	40	52	28	26	40	26	63	66	2	1
問 5 e. 現状／キャリア教育を評価・改善する機能や取組みがある	そうである	100.0	18.4	25.7	51.5	29.4	38.2	20.6	19.1	29.4	19.1	46.3	48.5	1.5	0.7
	どちらかといえばそうである	23	4	7	9	1	9	3	2	5	5	7	13	-	-
	どちらかといえばそうではない	100.0	17.4	30.4	39.1	4.3	39.1	13.0	8.7	21.7	21.7	30.4	56.5	-	-
	そうである	85	16	16	43	26	29	37	23	41	34	63	45	2	1
	どちらかといえばそうである	100.0	18.8	18.8	50.6	30.6	34.1	43.5	27.1	48.2	40.0	74.1	52.9	2.4	1.2
問 5 f. 現状／キャリア教育について、教職員に対する普及に努力している	どちらかといえばそうである	261	38	47	151	64	78	70	55	66	62	124	99	4	1
	どちらかといえばそうではない	100.0	14.6	18.0	57.9	24.5	29.9	26.8	21.1	25.3	23.8	47.5	37.9	1.5	0.4
	そうである	164	29	35	87	49	56	35	32	52	37	85	81	1	1
	どちらかといえばそうではない	100.0	17.7	21.3	53.0	29.9	34.1	21.3	19.5	31.7	22.6	51.8	49.4	0.6	0.6
	そうではない	45	8	13	20	8	20	10	2	13	8	17	22	-	-
問 5 f. 現状／キャリア教育について、教職員に対する普及に努力している	そうである	100.0	17.8	28.9	44.4	17.8	44.4	22.2	4.4	28.9	17.8	37.8	48.9	-	-
	どちらかといえばそうである	159	26	29	78	53	55	61	38	70	54	104	66	4	2
	どちらかといえばそうではない	100.0	16.4	18.2	49.1	33.3	34.6	38.4	23.9	44.0	34.0	65.4	41.5	2.5	1.3
	そうである	276	44	51	165	66	84	66	57	71	67	134	129	3	-
	どちらかといえばそうではない	100.0	15.9	18.5	59.8	23.9	30.4	23.9	20.7	25.7	24.3	48.6	46.7	1.1	-
問 5 f. 現状／キャリア教育について、教職員に対する普及に努力している	そうである	100	20	28	51	26	36	22	17	25	15	44	40	-	1
	どちらかといえばそうではない	100.0	20.0	28.0	51.0	26.0	36.0	22.0	17.0	25.0	15.0	44.0	40.0	-	1.0
	そうではない	20	1	3	7	2	8	3	6	5	7	12	-	-	-
		100.0	5.0	15.0	35.0	10.0	40.0	15.0	-	30.0	25.0	35.0	60.0	-	-

「キャリア教育の現状 d～f」とのクロス集計を見てみると、「キャリア教育を積極的に推進する体制が整っている」、「キャリア教育を評価・改善する機能や取組みがある」、「キャリア教育について教職員に対する普及に努力している」に対して「そうである」と答えた学校は、この3つの質問に対していずれも「学生のやる気向上」を最頻値としている。

一方、「どちらかといえばそうである」と回答した学校ではいずれも「校内教職員への普及・啓発・研修」が最頻値となっており、分かれているのが興味深い。

更に、「どちらかといえばそうでない」と回答した学校では d. と f. の回答では「校内教職員への普及・啓発・研修」が最頻値であるが、e. の回答では「学生のやる気向上」が最頻値となっている。「そうではない」と回答した学校はいずれも「就職指導・支援の改革」が最頻値となっている。

⑤ キャリア教育の現状（g～h）とのクロス集計

図表 91 よりレベルアップさせるための取組みとキャリア教育の現状

[illegible]

「キャリア教育について、入学前に取組んでいるか」と「よりレベルアップさせたいと考えている取組み」をクロスして見てみると、「どちらかといえばそうである」と答えた学校では「校内教職員への普及・啓発・研修」を最頻値としているが、それ以外の回答の学校では「学生のやる気向上」が最頻値となっている。

「キャリア教育について、卒業生に対するサービスや支援を行っているか」と「よりレベルアップさせたいと考えている取組み」をクロスして見てみると、「そうである」「どちらかといえばそうである」と答えた学校では「学生のやる気向上」が最頻値となっており、それ以外の回答の学校では「校内教職員への普及・啓発・研修」が最頻値となっている。

(3) 専門学校におけるキャリア教育の取組みについて

付問 11 の質問の答えを問 1～5 までの回答と比較して検討してみると、一定のパターンを見ることができる。問 11 にて今後のキャリア教育の取組みについて「よりレベルアップさせたい」と回答した学校は 77% にのぼり、この結果は分野や規模においても変わることのない状況であった。ところが、付問 11 のクロス集計を見ると、特に、問 5 のキャリア教育への取組みが積極的な学校とまだ不十分であると認識している学校とでは大きな違いを見ることができる。多くの学校が「よりレベルアップさせたい」と答えた後の質問に対して、「校内教職員への普及・啓発・研修」、「学生のやる気向上」を挙げているけれども、まだ不十分であると回答している学校では「就職指導・支援の改革」を挙げる割合が高いことが興味深いものであった。

問 12. キャリア教育や、アンケートの内容、本事業等について、ご意見をお聞かせください。（自由記述）

この項目は「キャリア教育や、アンケートの内容、本事業等について、ご意見をお聞かせください」という自由記入である。毎回のアンケート調査に入れることによって、この調査の理解度や直接の生の声を聞くことができる。

今回の自由記入に記載のあったものは 119 校であり、大きく内容から分類すると次のようになる。

1. キャリア教育の資格や研修について	11 校
2. 授業に取入れるのが困難である	24 校
3. 積極的に授業に取入れている	41 校
4. キャリア教育取組みの自覚や反省	31 校
5. 「やる気の根っこ」への評価	1 校
6. 今回のアンケートへのお礼	1 校
7. アンケートへの不明な点や意見	10 校

自由記入の中で多かったのが、キャリア教育への評価や積極的に授業に取入れている内容のものである。また逆に、医療系など国家資格の養成校では規定の授業以外にキャリア教育の時間を取ることが困難であるとか、無理をして入れなければならないなどの記載が見受けられた。今回の調査では国家資格取得のための実習などを調査枠から外したために、これらの学校では回答に困難があったものと思われる。

次に、このアンケート調査によってキャリア教育への関心が高まった意見や、重要性に気がついたなどの意見もあり、調査に対して評価を頂いたものと考えられる。毎回感じることであるが、アンケート調査に時間を割いて返答して頂く担当者の方々の生の声を聞くことは、専門学校におけるキャリア教育の方向性を感じ取ることができ、次回の調査への励みになるものである。

4 番目に多かったのが、資格取得や研修会などの情報提供や全専各への要望である。専門学校では横のつながりが十分ではないために分野を超えて情報交換をする機会が少なく、このキャリア教育のように全ての専門学校に必要な情報や資格は専教振からの情報に期待されているようである。

5 番目は今回のアンケートの意味が分からないとか、言葉の意味や内容に対する意見もあった。毎回十分に注意して質問を作成しているけれども、言葉の定義等は難しいものがある。また、次回の調査へのご意見も頂いた。

それ以外には本調査に対するお礼と教材「やる気の根っこ」を使用して役に立っているというありがたい記載もあった。

総 括

本調査は、平成 15 年度以降の社会環境の大きな変化とともに、専門学校におけるキャリア教育の実態がどのように変化しているかを調査研究し、専門学校におけるキャリア教育の一層の普及推進を目的として行った。

総括にあたり、まず、調査の背景をおさえておきたい。

平成 15 年当時の経済情勢は、バブル崩壊後の大底（日経平均株価 7,607 円）であり、完全失業率（季節調整値）は全体で 5.5%（平成 15 年 4 月）、15～24 歳層では 10.8%（平成 15 年 3 月）にのぼり、現在まで続く若年雇用の最も厳しい時代に突入した時期である。

その後、中国市場の拡大や IT バブルの発生などによって、平成 19 年ごろにかけてやや持ち直しを見せたが、本調査実施時点（平成 22 年 7 月）においては、日経平均株価 9,537 円、完全失業率は全体で 5.2%、15～24 歳層では 9.1%であり、平成 15 年以来の厳しさ、特に若年雇用は一層厳しいとの見方もあり、早期からの職業観の醸成やキャリア教育の一層の必要性が叫ばれているのである。

さて、続いて「キャリア」について触れると、この言葉が一般に広く普及するきっかけは、平成 14 年に厚生労働省が計画決定した「キャリア・コンサルタント 5 万人計画」がその一つと考えられる。キャリア・コンサルタントが生まれ、企業と個人の架け橋となり、その活躍を通じて産業界や教育界に「キャリア」の新しい概念が普及し始めた。

また、文部科学省では、平成 12 年の大学審議会の答申「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」を契機に議論が進められて以来、平成 23 年 4 月から大学設置基準に「社会的・職業的自立に関する指導等」が法令上明確化されるに至るなど、大学を含む教育界全体の流れとしてキャリア教育の重要性が増してきているところである。

このような中、専門学校のキャリア教育をいかに普及、発展させていくか、それが前回調査と比較して、いかに進展しているのかを調査・研究する必要があった。ゆえに本調査では、まず中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（第二次審議経過報告）2010/5/17」を踏まえた「キャリア教育」の考え方を示して、アンケートを行ったのである。

ここで、改めて調査結果を考察し、平成 15 年度、平成 22 年度調査の双方のアンケート集計で示された数値や、寄せられたコメントを要約した上で総括する。

「平成 15 年度調査の要約」

- ① 就職を第一義においた指導が中心。
- ② キャリアサポート推進の研修システムや具体的な教育カリキュラムが無い。

- ③ 今後、キャリアサポートやキャリア意識向上のための教育が必要不可欠。

「平成 22 年度調査の要約」

- ① 多く学校がキャリア教育を必要であると認めており、その成果は教職員の意識改革や学生のやる気向上につながっていると考えている。
- ② キャリア教育の担当者は、全ての教職員にキャリア教育の理解やキャリア・サポート・マインドの修得が必要と感じており、約半数の学校が教職員研修に取り組んでいる。
- ③ キャリア教育に取り組んでいる学校では、「インターンシップ」そして「体験学習」・「グループワーク」・「ロールプレイング」の学習法を取り入れ、「キャリアガイダンス」「自己理解のための科目」が体系的に行われている。
- ④ キャリア教育は、やればやるほど深く、教職員のやりがいにもつながっていると考えている。
- ⑤ キャリア教育重視を明確にしている学校ほど、企業や業界団体等の外部機関と連携してキャリア教育を進めることが重要だと考えている。
- ⑥ キャリア教育関連有資格者を有する学校は概ね 4 分の 1 にのぼるが、まだ十分とは言えない。
- ⑦ 現場の教職員には、キャリア教育に関する情報が不足している。
- ⑧ キャリア教育に関する教職員研修を行っている学校ほど、自主退学率・卒業時進路未定者割合が低い。

以上を考察すると、二つの潮流を確認することができる。

一つは、キャリア教育への理解の深まりである。

その影響は、キャリア教育への取り組みは奥が深く、単なる職業指導では終わらないので、積極的に取り入れるためには、専任の担当者や担当者のスキルアップ研修が必要であり、そのためには経営資源を投入する必要があるとの認識に至っている。これらは、キャリア教育への理解の一層の深まりと理解することができる。

いま一つは、キャリア教育の具体的な取組みにおいて、平成 15 年度と比較して大きく前進しているわけでは無いということである。

細かく見れば、外部連携、カリキュラム、インターンシップ、教職員の研修などにおいて向上が見られるが、それも若干の範囲にとどまっており、一方では、予算、人員、組織の理解などを理由としてなかなか進まない姿も依然として多く見られ、専門学校におけるキャリア教育の進展は緩やかであり、すなわちキャリア教育への理解の深まりゆえ、かえって不安感が増しているようにも見える。

そもそもキャリア教育の中心は職業教育であり、言うまでもなく専門学校は社会に対する大きな貢献をしている。前述の通り、文部科学省での議論が深まるにつれ、キャリア教育に関する諸施策が各学校種で徐々に進められているが、この中で専門学校が中核的な働

きを担っていくために、この調査を契機にキャリア教育のさらなる研究・普及を進め、取り組みを具体化しなければならない。

第3章で平成21年度に完成したチーム学習型キャリア教育ワークブック「やる気の根っこ」活用方法の実態調査結果が示されるが、キャリア教育の方法論や具体的なカリキュラムを持たない専門学校は、是非この教材とカリキュラムを有効利用してノウハウを蓄積し、専門学校における有益な教育資源へと発展させて欲しい。

最後に、今回の調査では、全国の専門学校725校が協力して下さった。回答は、カリキュラム開発を担当している方をお願いしたが、実際には校長、副校長といった業務多忙な方が回答してくださった学校が多くある。これらの方々の協力が無ければ、専門学校のキャリア教育の現状把握は成し得なかった。この場を借りて、衷心より感謝申し上げる。

調査協力校一覧

今回の調査にご協力いただいた **725** 校のうち、校名の公表を許可された学校 **430** 校の一覧です。
都道府県名後の数字は、都道府県毎の「校名公表可の学校数／調査協力校数」です。

（北海道・25/41） 青山工学・医療専門学校、旭川医療情報専門学校、旭川大学情報ビジネス専門学校、旭川調理師専門学校、帯広コア専門学校、釧路専門学校、こども c o m . 専門学校、駒沢看護保育福祉専門学校、札幌医学技術福祉専門学校、札幌医療科学専門学校、札幌工科専門学校、札幌情報未来専門学校、札幌心療福祉専門学校、札幌福祉専門学校、札幌ブライダル専門学校、札幌ベルエポック製菓調理専門学校、札幌リゾートアンドスポーツ専門学校、札幌リハビリテーション専門学校、専門学校北日本自動車大学校、専門学校北海道自動車整備大学校、日本工学院北海道専門学校、函館臨床福祉専門学校、北海道芸術デザイン専門学校、北海道ハイテクノロジー専門学校、吉田学園ビューティステージ専門学校 **（青森県・4/4）** 東奥保育・福祉専門学院、東北栄養専門学校、東北経理専門学校、東北コンピュータ専門学校 **（岩手県・2/4）** 岩手医科大学歯科技工専門学校、盛岡医療福祉専門学校 **（宮城県・14/21）** 仙台医療福祉専門学校、仙台情報ビジネス専門学校、仙台総合ペット専門学校、仙台ビューティーアート専門学校、仙台ヘアメイク専門学校、仙台モイジジャパン美容専門学校、仙台幼児保育専門学校、専門学校デジタルアーツ仙台、東京 I T 会計専門学校仙台校、東京法律専門学校仙台校、東北外語観光専門学校、東北電子専門学校、東日本航空専門学校、宮城調理製菓専門学校 **（秋田県・0/2）（山形県・3/4）** 専門学校山形 V . カレッジ、山形調理師専門学校、米沢調理師専門学校 **（福島県・3/3）** ケイセンビジネス公務員カレッジ、郡山健康科学専門学校、東北医療福祉専門学校 **（茨城県・7/10）** 専門学校水戸ビューティカレッジ、専門学校水戸自動車大学校、筑波研究学園専門学校、つくばビジネスカレッジ専門学校、水戸経理専門学校、水戸総合福祉専門学校、水戸電子専門学校 **（栃木県・1/7）** 宇都宮メディア・アーツ専門学校 **（群馬県・5/14）** 伊勢崎美容専門学校、群馬県理容専門学校、専門学校群馬自動車大学校、高崎医療技術福祉専門学校、中央情報経理専門学校 **（埼玉県・10/17）** 上尾中央医療専門学校、アルスコンピュータ専門学校、大宮国際動物専門学校、国際航空専門学校、国際調理師専門学校、埼玉福祉専門学校、専門学校関東工業自動車大学校、東京 I T 会計法律専門学校大宮校、ハンサム銀座理容美容専修学校、ホンダテクニカルカレッジ関東 **（千葉県・13/20）** 大原簿記法律専門学校津田沼校、柏調理師専門学校、千葉情報経理専門学校、千葉女子専門学校、千葉デザイナー学院、千葉モードビジネス専門学校、東京 I T 会計法律専門学校千葉校、東洋理容美容専門学校、パリ総合美容専門学校柏校、船橋情報ビジネス専門学校、船橋ファッション＆ビジネス専門学校、ユニバーサルビューティーカレッジ **（東京都・67/109）** 青山製図専門学校、赤堀栄養専門学校、アポロ歯科衛生士専門学校、アポロ美容理容専門学校、上野法律専門学校、大森家政専門学校、香川調理製菓専門学校、北豊島医療専門学校、窪田理容美容専門学校、国際動物専門学校、国際ビジネス専門学校、国際文化理容美容専門学校国分寺校、国際理容美容専門学校、専門学校桑沢デザイン研究所、専門学校田中千代ファッションカレッジ、専門学校東京テクニカルカレッジ、専門学校東京法律 2 1、専門学校トヨタ東京自動車大学校、専門学校日本スクールオブビジネス、専門学校日本スクールオブビジネス 2 1、専門学校日本動物 2 1、専門学校読売自動車大学校、中央工学校、中央動物専門学校、東京 I T 会計専門学校、東京医療専門学校、東京医療秘書福祉専門学校、東京外語専門学校、東京工科専門学校品川校、東京こども専門学校、東京ゴルフ専門学校、東京柔道整復専門学校、東京スポーツ・レクリエーション専門学校、東京テクノ・ホルティ園芸専門学校、東京デザイン専門学校、東京デジタルテクニカル専門学校、東京豊島医療福祉専門学校、東京バイオテクノロジー専門学校、東京美容専門学校、東京ファッション専門学校、東京福祉専門学校、東京ヘアメイク専門学校、東京ベルエポック製菓調理専門学校、東京ベルエポック美容専門学校、東京保育専門学校、東京法律専門学校、東京マックス美容専門学校、東京 Y M C A 医療福祉専門学校、東放学園専門学校、ドレスメーカー学院、日商簿記三鷹福祉専門学校、日本歯歯薬専門学校、日本ウェルネス歯科衛生専門学校、日本菓子専門学校、日本工学院専門学校、日本写真芸術専門学校、日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校、日本動物専門学校、日本フラワーデザイン専門学校、八王子栄養専門学校、華学園栄養専門学校、華服飾専門学校、二葉製菓学校、二葉ファッションアカデミー、ホスピタリティツーリズム専門学校、武蔵野調理師専門学校、読売理工医療福祉専門学校 **（神奈川県・17/34）** 浅野工学専門学校、厚木高等専修学校、神奈川衛生学園専門学校、神奈川経済専門学校、神奈川歯科大学附属歯科技工専門学校、鎌倉早見美容芸術専門学校、呉竹鍼灸柔整専門学校、国際フード製菓専門学校、湘南歯科衛生士専門学校、専門学校横浜ミュージックスクール、東京 I T 会計法律専門学校横浜校、日本映画学校、矢沢服飾専門学校、横浜経理専門学校、横浜デザイン学院、横浜日建工科専門学校、Y M C A スポーツ専門学校 **（新潟県・16/24）** 国際映像メディア専門学校、国際自然環境アウトドア専門学校、国際ペットワールド専門学校、国際メディカル専門学校、上越看護専門学校、上越保健医療福祉専門学校、専門学校新

新潟国際自動車大学校、伝統文化と環境福祉の専門学校、長岡看護福祉専門学校、新潟工科専門学校、新潟こども医療専門学校、にいがた製菓・調理師専門学校えぷろん、新潟リハビリテーション専門学校、日本自然環境専門学校、フォーラム情報アカデミー専門学校、悠久山栄養調理専門学校（**富山県・3/6**）専門学校職藝学院、富山健康科学専門学校、富山情報ビジネス専門学校（**石川県・2/5**）金沢福祉専門学校、専門学校アリス学園（**福井県・2/2**）国際ビジネス専門学校福井、福井県理容美容専門学校（**山梨県・4/5**）AOBビューティクリエイト専門学校、甲府看護専門学校、中央商科専門学校、優和福祉専門学校（**長野県・8/13**）飯田ゆめみらいICTカレッジ、伊那ビジネス専門学校、エプソン情報科学専門学校、信州リハビリテーション専門学校、長野医療衛生専門学校、長野医療技術専門学校、長野調理製菓専門学校、松本調理師製菓師専門学校（**岐阜県・6/9**）飯原服装専門学校、大垣文化総合専門学校、岐阜美容専門学校、コロムビア・ファッション・カレッジ、中日本航空専門学校、ベルフォートアカデミーオブビューティ（**静岡県・21/33**）オイスカ開発教育専門学校、大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校静岡校、国際ことば学院外国語専門学校、国際ペットビジネス専門学校熱海校、静岡産業技術専門学校、静岡福祉医療専門学校、専門学校静岡工科自動車大学校、専門学校静岡電子情報カレッジ、専門学校ノアデザインカレッジ、専門学校白寿医療学院、専門学校浜松医療学院、専門学校ルネサンス・デザインアカデミー、専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー、中央歯科衛生士調理製菓専門学校、中央調理製菓専門学校静岡校、デザインテクノロジー専門学校、東海医療学園専門学校、東海調理製菓専門学校、常葉学園静岡リハビリテーション専門学校、富士メカニック専門学校、プロスペラ学院外国語専門学校（**愛知県・25/47**）アリアーレビューティー専門学校、エクラ美容専門学校、ELICビジネス&公務員専門学校、専門学校名古屋デザイナー学院、専門学校名古屋デンタル衛生士学院、専門学校日産愛知自動車大学校、専門学校日本デザイナー芸術学院、中部ファッション専門学校、東海医療科学専門学校、東海医療工学専門学校、東海医療福祉専門学校、東海工業専門学校金山校、東海歯科医療専門学校、豊橋ファッション・ビジネス専門学校、トライデントスポーツ医療看護専門学校、名古屋経営会計専門学校、名古屋工学院専門学校、名古屋歯科医療専門学校、名古屋製菓専門学校、名古屋調理師専門学校、名古屋ファッション専門学校、西尾高等家政専門学校、ビジネス教養専門学校エクセレンス、三河歯科衛生専門学校、名鉄自動車専門学校（**三重県・1/6**）鈴鹿オフィスワーク医療福祉専門学校（**京都府・10/18**）＜専＞YIC京都工科大学校、京都IT会計法律専門学校、京都医健専門学校、京都栄養医療専門学校、京都自動車専門学校、京都調理師専門学校、京都理容美容専修学校、京都YMCA国際福祉専門学校、ディースファッション専門学校、YIC京都ビューティ専門学校（**大阪府・45/74**）藍野医療福祉専門学校、ECCコンピュータ専門学校、上田安子服飾専門学校、エール学園、NRB日本理容美容専門学校、大阪IT会計専門学校、大阪IT会計専門学校天王寺校、大阪医療技術学園専門学校、大阪医療福祉専門学校、大阪芸術大学附属大阪美術専門学校、大阪工業技術専門学校、大阪コミュニケーションアート専門学校、大阪歯科衛生士専門学校、大阪社会福祉専門学校、大阪スクールオブミュージック専門学校、大阪ダンス&アクターズ専門学校、大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校、大阪動物専門学校、大阪動物専門学校天王寺校、大阪ハイテクノロジー専門学校、大阪ビジネスカレッジ専門学校、大阪ビューティーアート専門学校、大阪美容専門学校、大阪ファッションデザイン専門学校、大阪物療専門学校、大阪法律専門学校、大阪法律専門学校天王寺校、大阪保健福祉専門学校、大阪YMCA国際専門学校、大手前栄養学院専門学校、大手前製菓学院専門学校、関西外語専門学校、近畿社会福祉専門学校、修成建設専門学校、駿台観光アンド外語専門学校、専門学校イーエスピーエンタテインメント、太成学院大学歯科衛生専門学校、辻学園栄養専門学校、辻学園調理・製菓専門学校、東洋医療専門学校、東洋ファッションデザイン専門学校、日本分析化学専門学校、ミスバリエステティック専門学校、箕面学園福祉保育専門学校、履正社医療スポーツ専門学校（**兵庫県・12/19**）環境学園専門学校、神戸医療福祉専門学校三田校、神戸医療福祉専門学校須磨校、神戸医療福祉専門学校中央校、神戸国際調理製菓専門学校、神戸製菓専門学校、興隆学林専門学校、専門学校トヨタ神戸自動車大学校、東亜学園商業実務専門学校、阪神自動車航空鉄道専門学校、ビジネス専門学校キャリアカレッジ但馬、ヘアラルト阪神理容美容専門学校（**奈良県・1/4**）関西文化芸術学院（**和歌山県・1/2**）和歌山YMCA国際福祉専門学校（**鳥取県・3/4**）専門学校米子ビューティーカレッジ、鳥取ビジネス学院、YMCA米子医療福祉専門学校（**島根県・6/8**）出雲コンピュータ専門学校、島根総合福祉専門学校、島根リハビリテーション学院、専門学校島根自動車工学専門学校、専門学校松江総合ビジネスカレッジ、六日市医療技術専門学校（**岡山県・10/18**）朝日医療専門学校岡山校、朝日リハビリテーション専門学校、インターナショナル岡山歯科衛生専門学校、岡山科学技術専門学校、専門学校岡山情報ビジネス学院、専門学校岡山ビジネスカレッジ、専門学校岡山ビューティモード、専門学校ビーマックス、中国デザイン専門学校、西日本調理製菓専門学校（**広島県・18/23**）IGL医療専門学校、穴吹医療福祉専門学校、穴吹情報デザイン専門学校、専門学校マインドビューティーカレッジ、広島アニマルケア専門学校、広島医療保健専門学校、広島会計学院電子専門学校、広島外語専門学校、広島工業大学専門学校、広島公務員専門学校、広島コンピュータ専門学校、広島歯科技術専門学校、広島情報ビジネス専門学校、広島酔心調理製菓専門学校、広島ビジネス専門学校、広島美容専門学校、福山福祉と動物専門学校、福山YMCA国際ビジネス専門学校（**山口県・9/11**）下関福祉専門学校、専門学校YICリハビリテーション大学校、山口コ・メディカル学院、山口調理製

菓専門学校、YIC 看護福祉専門学校、Y I C キャリアデザイン専門学校、Y I C 公務員専門学校、Y I C ビジネスアート専門学校、Y I C ビューティモード専門学校（徳島県・1/1）プレーメン愛犬クリエイティブ専門学校（香川県・8/12）香川看護専門学校、キッス調理技術専門学校、四国医療専門学校、専門学校穴吹医療カレッジ、専門学校穴吹工科カレッジ、専門学校穴吹コンピュータカレッジ、専門学校穴吹ビジネスカレッジ、専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ（愛媛県・3/3）今治商業専門学校、愛媛コミュニケーションビジネス専門学校、愛媛調理製菓専門学校（高知県・4/6）高知外語ビジネス専門学校、高知情報ビジネス専門学校、高知ペットビジネス専門学校、高知リハビリテーション学院（福岡県・14/31）I L P お茶の水医療福祉専門学校、麻生看護医療専門学校、麻生公務員専門学校北九州校、麻生情報ビジネス専門学校北九州校、北九州調理製菓専門学校、専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ、専門学校九州テクノカレッジ、専門学校公務員ゼミナール、専門学校西日本アカデミー、専門学校福岡カレッジ・オブ・ビジネス、福岡医療秘書福祉専門学校、福岡外語専門学校、福岡スクールオブミュージック専門学校、福岡バルエポック美容専門学校（佐賀県・4/6）九州国際情報ビジネス専門学校、佐賀工業専門学校、専門学校モードリゲル、寺元ドレメデザイン専門学校（長崎県・2/4）こころ医療福祉専門学校、長崎公務員専門学校（熊本県・5/11）九州中央リハビリテーション学院、熊本駅前看護リハビリテーション学院、熊本社会福祉専門学校、湖東カレッジ教育芸術専門学校、専修学校熊本Y M C A 学院（大分県・2/5）専修学校明星国際ビューティカレッジ、総合技術工学院（宮崎県・3/6）都城コアカレッジ、都城文化服装専門学校、宮崎サザンビューティー美容専門学校（鹿児島県・6/12）鹿児島建設専門学校、鹿児島レディスカレッジ、原田学園こども・医療秘書専門学校、原田学園デジタルアーツ専門学校、原田学園ハイテク専門学校、原田学園ビューティ専門学校（沖縄県・4/7）専修学校インターナショナルデザインアカデミー、専修学校沖縄大原簿記専門学校、専門学校 I T カレッジ沖縄、専門学校沖縄中央学園

第3章 学生向けキャリア教育教材・教員用ガイドの 活用方法に関する実態調査

1. 調査の概要

(1) 実施概要

①目的

専教振が平成 21 年度に研究・開発し、平成 22 年度に刊行した「チーム学習型キャリア教育ワークブック『やる気の根っこ』」について、全国の専修学校等における活用状況の実態及び事例を調査し、実際に使用した学生及び教員からの意見・感想等を聴取し、回答結果を踏まえて、今後、「学生向け教材」本体及びそれに対応する「教員用ガイド」を改訂する上での検討資料とする。

②日程

平成 22 年 11 月 19 日～12 月 24 日

③方法

電子メールによる「アンケート調査」及び「レポート報告」への協力を依頼。

④件数

[回答校数]

アンケート調査回答校 2 校

レポート報告校 2 校

[※参考：協力依頼対象校数]

教材購入校 218 校（平成 22 年 11 月現在）

うち 10 冊以上購入校 23 校

キャリア教育技法研修会参加校 95 校（平成 22 年 10 月・11 月専教振主催）

⑤内容

アンケート調査

教材使用状況の詳細（学科・学年・人数・期間・時間数・教科名等）、單元ごとの学生評価・教材評価・教員用ガイド評価、意見・感想等の自由記述

レポート報告

実際に使用した教員による意見・感想・要望等の自由記述

⑥結果

回答校数は少ないものの、実施した單元に関する学生の理解度、教員の満足度については良好。教材使用初年度現在では、全單元にわたる使用を終えての意見聴取にまでは至らなかった。今後、研修会等を通じて教材のより一層の普及を推進するとともに、各校での一定の使用期間を経た後に、より多くの使用校からの意見集約等が再度必要。

(2) 本調査実施までの専教振キャリア・サポート事業の経緯

平成15年度 文科学委託事業(専修学校先進的教育研究開発事業)

「あらゆる専門学校で活用できるキャリア・カウンセリング導入方法の研究開発」

【事業の概要】

- 
- ①『専門学校キャリア・サポートに関する実態調査』の実施
 - ②『専門学校教職員のためのキャリア・サポート・マインド養成講座』の開発
⇒グループワークやロールプレイング等の体験学習方式を中心としたカリキュラム
 - ③「実証講習会」及び「成果報告会」の開催
- ★学生自身がキャリア（働く意味、職業選択、職業適性、職業人生など）について真剣に考えることを支援する観点で、教職員が身に付けるべきマインド（考え方や態度）を養成するための研修カリキュラム、教材、推進モデルなどの開発を目的とした。
- ★実際のキャリア・カウンセラーに必要な知識や技術を習得し直接的なカウンセラーの人材養成を目指す事業との誤解を避けるため、本事業の基本理念として、「キャリア・サポート」という言葉を用いた。
- ★議論の過程において、「キャリア・サポート」を「学生が自分自身のキャリアを主体的に設計・選択・決定できるように支援すること」と定義した。

「CSM講座」カリキュラム原案完成

- 
- ★「CSM講座」を全国的に展開するために、講座を運営する講師に必要な資質、知識、技能等を研究し、講師養成プログラムを開発するとともに、講師の認定・登録制度の在り方について研究することが必要。

平成16年度 文科学委託事業(専修学校先進的教育研究開発事業)

「CSM講座の講師養成プログラム等の研究開発」

【事業の概要】

- 
- ①講師認定・登録制度の策定
 - ②CSM講座修了基準の策定
 - ③CSMトレーナー養成研修カリキュラムの策定
- ★教える講師ではなく「講座を運営する者＝ファシリテータ」の養成に主眼を置く（講義を最小限に留め、基本的には教えない、気づかせる）。「CSM講座に参加する教職員が自発的に態度・行動を変容するためのファシリテーションができること」が目標。

「CSM講座」カリキュラム完成

「CSMトレーナー養成研修」カリキュラム完成

★平成17年度より、「CSM講座」を専教振及び各都道府県協会・学校法人等の主催により全国で実施。修了者を「キャリア・サポーター」として認定・登録。なお、平成22年度より、「キャリア・サポーター養成講座」に改称。全22回開催、「キャリア・サポーター」認定者は全国419名(平成23年1月現在)。

★学生に対して使用するキャリア・サポート実践のための教材が必要。

平成21年度 文科省国庫補助事業(専修学校教育内容等改善研究協力校事業)

「キャリア・サポートのための学生向け教材研究開発」

「チーム学習型キャリア教育ワークブック

『やる気の根っこ』」及び「教員用ガイド」完成

★専修学校におけるキャリア教育への理解と普及推進を目的とした「キャリア教育技法研修会」を開催(平成22年10月26日・大阪会場67名参加、11月15日・東京会場65名参加)。「やる気の根っこ」を題材としたグループワーク・シェアリングの体験を導入。

平成22年度 文科省国庫補助事業(専修学校教育内容等改善研究協力校事業)

「専修学校におけるキャリア教育に関する調査研究」

(3) 「チーム学習型キャリア教育ワークブック『やる気の根っこ』」の概要

① 目標

“チーム学習”を活用した“気づき”による“行動変容”

② 学習の基本的な流れ

「Ⅰ ワークシートを使ったセルフワーク(自分自身で考えを深める作業)」

↓

「Ⅱ ワークシートを使ったチーム学習(互いに気づき、学び合う)」

↓

「Ⅲ リフレクション(振り返って、学びの整理と次への課題確認)」

③ 構成

90分を1コマとして、全15週の授業(毎週連続でなくとも構わない)で実施。

■第1章 チーム学習を進めるためのヒント<1コマ>

…効果的な話し合いをするためのコミュニケーション手法を体験する。

■第2章 自己理解<6 コマ>

…学生がこれまでの人生を振り返り、自分の物の考え方や性格・価値観・能力・強み・弱みなどについて「セルフワーク」と「チーム学習」を通じて自己理解を深め、そこから「自分が何のために働くのか」の気付きへつなげる。

■第3章 仕事理解<3 コマ>

…自己理解を踏まえて、「実際に働くこととは?」を聞いたり、調べたりしながら、互いに知識の共有をはかり、「仕事や就職」について現実味を持って体感する。働く人からも声を聴き、自分が職業に就くということをイメージしていく。

■第4章 仕事選択～未来へ向けて<4～5 コマ>

…本教材の最終章として、自己理解と仕事理解を融合して思考するために、「模擬店を出そう」というワークを複数回で行う。多様な役割に対する自らの志向性を認識し、その上で自らのキャリアプランを考え、共に学び合う仲間からエールをもらって締めくくる。

④ 体裁

学生用教材は、「ワークシート」形式で、リングファイルに綴って、学生が在学中・卒業後も必要なときに自分の思いを振り返ることができるよう配慮。

⑤ 教員用ガイド

教員用ガイドは、学生用教材購入校用のダウンロードサイトを開設。教材使用教員のためのWeb上のサークルを設けて、意見交換による改善・発展を企図。

【参考：「チーム学習型キャリア教育ワークブック『やる気の根っこ』」より
第2章第3節（一部抜粋・禁転載）】

チーム学習型キャリア教育ワークブック「やる気の根っこ」

第2章 自己理解

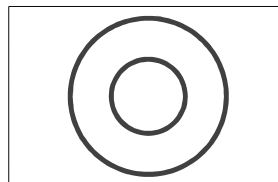
第3節 私の大切なもの探し

1. 「私の大切なもの探し」ワークの進め方

自分は普段どのように考え、どのように動いているのかを知ること、自分のものの考え方の特徴や態度、行動の仕方などに気づいて見ましょう。

STEP 1

- A3の用紙を用意し、右図のように自分を表す丸を自由に描きます。
- 中央の円に、自分の名前やニックネームを書きます。



STEP 2

- 参考資料の用語集(p. 65)を見て、(自分の態度／行動の仕方／考え方の特徴／大切なこと／周りからよく言われること)などで、用語集にないものがあれば、空欄に記入しましょう。
- 用語集を線にそって切ります。ハサミを使わず定規で切ってもかまいません。

STEP 3

- 中央に自分の名前を書いたA3用紙に、切り取った用語を置いていきます。
 - ・ 自分の名前とそれぞれの言葉の距離や位置を考えながら配置します。
 - ・ 例えば自分にぴったりの言葉を自分の近くに置いたり、あるいはその逆にというように置いたりしてみるのもよいでしょう。
 - ・ 言葉同士の関係も考えて位置を決めてください。例えばよく似たものをそばに置いたり、その逆というようにしてもよいでしょう。
 - ・ 用語集の言葉は全部使い、自分と直接つながらないと思う言葉も、どこかに仮に置いてください。

STEP 4

- 自分なりにそれぞれの言葉の位置が決まれば、のりで貼り付けます。
- 貼り終わったら自分なりに分類して、色鉛筆で色分けします。
- 分類の基準は自分で決めてもよいですし、また決めなくても構いません。

STEP 5

- 完成したら、まず眺めてみましょう。
- さらに色鉛筆でもっと自分に近付けたい言葉は、中央に向けて、遠ざけた言葉は外に向けて矢印を書いてみましょう。

(財) 専修学校教育振興会

第2章 自己理解

第3節 私の大切なもの探し

1. 「私の大切なもの探し」振り返りシート

● ■自分の大切なことは何か、やってみた感想を記入しましょう。 ●

● ■チームの話し合いが終わったら、メンバーからもらった感想や自分の気づきを記入しましょう。 ●

【参考：「チーム学習型キャリア教育ワークブック『やる気の根っこ』」より
第2章第3節に対応する「教員用ガイド」（一部抜粋）】

1. ワーク名 第2章3節 自己理解 「私の大切なもの探し」
2. 教 材 ワークの進め方シート
 用語集
 A3用紙
 振り返りシート
3. 備 品 はさみ、のり、色鉛筆 ※各自持参 但し、予備をチーム分準備
4. 指導目標 自分は普段どのように考え、どのように動いているのかを知ること、
 自分のものの考え方の特徴や態度、行動の仕方などに気づいて見る
 ことで、自分が大切にしている思いや価値観といえるものを自分自
 身理解しておく。

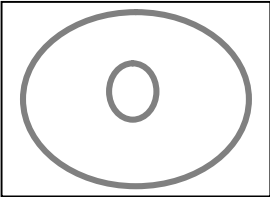
5. ワークの流れ

- 1 導 入 （5分）
- 2 手順の説明とセルフワーク （25分）
- 3 セルフワークのまとめ記入 （10分）
- 4 振り返り （35分）
- 5 まとめ （15分）

6. 授業の展開 (90 分)

段階・時間	学生の行動および注意点	教師の発問および注意点	形態
1 導入 5 分		* 今日の内容と目標および全体の進め方の説明をする 1. 「人はそれぞれ生まれ育ってきた過程で身につけたことがあります。その中には、自分にとって大切にしたい思いや大事なことがらなど価値観と呼ばれるものがあります。」 「今日は、自分の大切なものを探してみましょう。そして、自分で探し出した大切なものを自分なりに言葉・文章にしてみることで、改めて気づきを得ていただきたいと思います。」 「そして、自分自身が気づいた大切なものを、チームになって、許せる範囲で話して見ましょう。同じ職業を目指す、或いは同じ学びをしている皆さんですが、いろんな大切なものをもたれた方がいることに気づかれるかもしれません。」	一 斉
2 手順の説明とセルフワーク 25 分 手順 1 ～ 8 (25 分)	1. 資料の確認をする。 * ワークの進め方シート * 用語集 * A3 用紙 2. 本日、使用する備品の確認 * はさみ * のり * 色鉛筆 * 「ワークの進め方」シートを見ながら、セルフワークについて、説明をする。○の書き方の例を板書する。 3. A3 用紙に○を書く	1. 「それでは、はじめましょう。まずは、資料をお配りします。各自 1 枚ずつ取ってください。資料は 3 種類です。」 2. 「皆さん、届きましたか？」 「今日は、はさみ、のり、色鉛筆を持ってくることになっていますが、ない方はいますか？」 隣り同士でかりることが出来ない方は、後ほど使用する際に声をかけてください。」 3. 「まずは、ワークの進め方を説明します。A3 用紙を横にしておき○を板書で示したように書いておいてください。○の大きさや形は各自自由で構いません。」	一 斉

	4. 空欄に自分の態度・行動の仕方や考え方の特徴、大切なことで、用語集にないものがあれば記入 5. 用語集を線に沿って切る 6. A3用紙の真中に自分の名前やニックネームを書き、切り取った用語を真ん中の自分を意識しておいていく 7. のり付けする 8. 色鉛筆で色分け	4. 「次に用語集を見て、自分の態度・行動の仕方や考え方の特徴、大切なことで、用語集にないものがあれば、空欄に記入しましょう。他人からよく言われることも付け加えましょう。」 5. 「用語集を線にそって切ります。はさみを使わず定規で切ったりしても構いません。」 6. 「A3用紙を前において、その用紙の真ん中に自分の名前やニックネームを書きいれましょう。そして、切り取った用語を真ん中の自分を意識しておいていきます。」 *その際、真ん中の自分とそれぞれの言葉の距離や位置を考えながら配置します。例えば、自分にぴったりとした言葉を、自分の近くに置いたり、或いはその逆というように置いたりしてみるのもいいでしょう。 *言葉同士の関係も考えて位置を決めていくとよいでしょう。例えば、よく似たものをそばに置いたり、その逆というようにしてもいいでしょう。 *コピーされた言葉は全部使い、自分と直接つながらないと思うような言葉も、どこかに仮においてみて下さい。 7. 「自分なりにそれぞれの言葉の位置が決まれば、のりで貼り付けます。」 8. 「貼り終わったら、自分なりに分類して、色鉛筆で色分けします。分類の基準は自分で決めればいいですし、また決めなくても構いません。ご自分が思うような場合わけをしてみてください。」	
3 セルフワークのまとめ記入 10分	セルフワークで用紙に貼り付けた全体像から、自分自身の大切なものを整理・統合させるために、振り返りシートに文章で書きとめておく。 *振り返りシートを一人1枚ずつ配る。 *全体を巡回し、様子をみて次に移る。	「完成したら、まず眺めて見ましょう。さらに、色鉛筆でもっと私に近づけたい言葉は私（中央）に向けて、遠ざけたい言葉は外に向けて、矢印を書いてみましょう。」 「それでは、自分の大切なことは何か」を文章で表現してみましょう。」	個人ワーク



4 振り返り 35 分	1. 色んな声を聴くことができるように 6～7 人のチームを作る。 *ただし、時間が限られる場合は、4～5 人で実施しても構わない。 2. チームのメンバーで意見交換 * 順番を強制しないでひとり 3 分以内 * 話をしているときは途中で遮らずに 聴く * 話終わったら感想を言ってあげる * 全部で 1 人 5 分 * 終了時間を板書しておきます。 * まだチームに複数残っているような らば、少しはやめるように促す。	* 6 人 1 組でチームを作ります。机をつけて囲むよ うにして準備してください。 1. 「このワークを通して自分の大切なものを、改め て気づいたり、感じたりしたことを、チームメン バーにシートを見せながら、話をしてみましょう。」 2. 「話す時間は 3 分以内をお願いします。順番は強 制をせずに決めるようにしましょう。話をする方 が話をしている時は、他の方はまずは聴くことに してください。途中で話をさえぎることは遠慮し ましょう。話が終った時点で、他のメンバーは、 一人ずつ、一言、話し手の内容について感想を言 ってあげましょう。全員からのフィードバックを 含めて、一人について 5 分以内とします。6 人で は 30 分ですね。」 「それでは、はじめてください。」 7 分前に 「そろそろ時間になります。皆さん全員話終りまし たか」 終了 1 分前に 「時間です。まだ終わっていない方は？ 全員話は しているようですので、こちらで終了です。」	6 名 1 組
--------------------------------------	---	---	-----------------------

5 まとめ 15分	1. チーム作業についての感想をシートに書く。 2. チームごとに、1名ずつ話をした感想を発表してもらう。 *自分の大切なこと（思い）について、意識して、自らの価値観と他者の価値観の違いを受容して、仕事選択をする際のより所となる価値観を確認しておく。	1. 「それでは、シートにチームで話をしたことの感想として、書き留めておきましょう。5分程度時間をとります。どうぞ、お書きください。」 *5分経過又は記入している状況をみて、 2. 「それでは、チームでお一人ずつ、話をした感想をお聴きします。どなたか話したい方いらっしゃいますか。」 *いれば、そのまま発表してもらう。いなければ、 「それでは、チームで一人ずつ決めて、順番に発表していただきます。簡単で結構です。」 「では、順番に発表していただきます。」 「発表ありがとうございました。」 *できれば、一人ひとりにコメントを簡単にする。 *そして、コラムを参考に、職業選択に必要な要素としての価値観（大切なこと）を知ること、これからの仕事選びの参考にしてほしい旨を伝える。 *なお、他人と比較したり、どの価値観が正しいといった評価をするものではなく、自分自身の大切なことを自分が理解しておくことが重要であることを説明する。	一 斉
---	---	---	---

2. 実際のアンケート調査票

財団法人専修学校教育振興会「やる気の根っこ」活用者アンケート(1)

【全体質問項目】

[illegible]

＜お問い合わせ・ご返送先＞ 財団法人専修学校教育振興会 事務局

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25 私学会館別館 TEL03(3230)4814 FAX03(3230)2688

※ご記入頂いた Word ファイル(2 点)を添付の上、電子メールで 宛ご返送ください。

財団法人専修学校教育振興会「やる気の根っこ」活用者アンケート(2) 【単元別質問項目】

◆ 教材「やる気の根っこ」・指導案「教員用ガイド」について

単元		実施状況(数字に下線または ☐ 線を付けて下さい) ・1→実施した ・2→実施しなかった ・3→これから実施する	①学生評価(下線または ☐ 線を付けて下さい) ※選択肢の内容は、表の下の説明を参照してください	②教材評価(下線または ☐ 線を付けて下さい) ・1→非常に満足・2→やや満足 ・3→やや不満・4→非常に不満	④各章・節ごとのご意見
		授業時間数(分) (上の実施状況で1を選択された場合)	③教員用ガイド評価(下線または ☐ 線を付けて下さい) ・1→非常に満足・2→やや満足 ・3→やや不満・4→非常に不満		⑤教員用ガイドについてのご意見、感想
第1章	チーム学習を進めるためのヒント	1 2 3	① 1 2 3 4	② 1 2 3 4	③
		分	④ 1 2 3 4		⑤
第2章	第1節 過去を振り返ろう!	1 2 3	① 1 2 3 4	② 1 2 3 4	④
		分	③ 1 2 3 4		⑤
	第2節 自分を知る手がかり	1 2 3	① 1 2 3 4	② 1 2 3 4	④
		分	③ 1 2 3 4		⑤
	第3節 私の大切なもの探し	1 2 3	① 1 2 3 4	② 1 2 3 4	④
		分	③ 1 2 3 4		⑤
	第4節 私ってどんな人?	1 2 3	① 1 2 3 4	② 1 2 3 4	④
		分	③ 1 2 3 4		⑤
	第5節 なぜ働くの?	1 2 3	① 1 2 3 4	② 1 2 3 4	④
		分	③ 1 2 3 4		⑤
第3章	第1節 地図を作ってみよう!	1 2 3	① 1 2 3 4	② 1 2 3 4	④
		分	③ 1 2 3 4		⑤

第4章	第2節 ケーススタディで学ぶ実際の仕事	1 . 2 . 3	① 1 . 2 . 3 . 4	② 1 . 2 . 3 . 4	④
		分	③ 1 . 2 . 3 . 4		⑤
	第3節 インタビューしてみよう!	1 . 2 . 3	① 1 . 2 . 3 . 4	② 1 . 2 . 3 . 4	④
		分	③ 1 . 2 . 3 . 4		⑤
	第1節 模擬店を出そう!	1 . 2 . 3	① 1 . 2 . 3 . 4	② 1 . 2 . 3 . 4	④
		分	③ 1 . 2 . 3 . 4		⑤
第4章	第2節 未来カード	1 . 2 . 3	① 1 . 2 . 3 . 4	② 1 . 2 . 3 . 4	④
		分	③ 1 . 2 . 3 . 4		⑤
	第3節 背中にエール	1 . 2 . 3	① 1 . 2 . 3 . 4	② 1 . 2 . 3 . 4	④
		分	③ 1 . 2 . 3 . 4		④

※「①学生評価」については、下記の選択肢の中から最もふさわしいものを選んで、それぞれ上欄の数字に下線または囲み線を付けてください。

① 学生評価

1. (先生から見て)ほぼ理解できていた(ようだ) 2. (先生から見て)半分以上理解できていた(ようだ) 3. (先生から見て)少し理解できていた(ようだ)
4. (先生から見て)全然理解できていなかった(ようだ)

【総合評価】「やる気の根っこ」の総合評価を ☆ の数で表してください(最大 ☆ 5 つまで)。該当するもの1つを選択して、()に○を記入してください。

- () ☆☆☆☆☆
() ☆☆☆☆
() ☆☆☆
() ☆☆
() ☆

その ☆ の数を付けられた理由等について、簡単なコメントをお書きください。

◆ その他、ご意見や感想がありましたら、以下にお書きください。

<お問い合わせ・ご返送先> 財団法人専修学校教育振興会 事務局

102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25 私学会館別館

TEL03 (3230) 4814 FAX03 (3230) 2688

※ご記入頂いた Word ファイル(2点)を添付の上、電子メールで

宛ご返送ください。

3. アンケート回答内容の概要

【回答校①：福島県・ケイセンビジネス公務員カレッジ】

- | | |
|--------------|--|
| 1. 対象学科・学年 | コンピュータ会計学科 1年 |
| 2. 時期・総時間数 | 4月1日～11月30日 計14時間 |
| 3. 回数・方式 | 不定期に実施 |
| 4. 担当講師 | 教員（専教振認定キャリア・サポーター、キャリア・コンサルタント有資格者） |
| 5. 教科名 | キャリアデザイン |
| 6. 併用教材 | 市販の他の教材等（日経就職活動ナビゲーション） |
| 7. 比較検討教材 | 特に無し |
| 8. 実施した単元 | 第1章～第3章第1節まで実施。それ以降は今後実施予定。 |
| 9. 学生評価 | 「(先生から見て) 半分以上理解できていた(ようだ)」 |
| 10. 教材評価 | 「非常に満足」または「やや満足」 |
| 11. 教員用ガイド評価 | 「非常に満足」 |
| 12. 意見・感想等 | <ul style="list-style-type: none">・ケースストーリーの内容が医療系の学生の話だったので、実施クラスが経理系ということもあり、身近な話としてとらえられない学生がいた。ただ、学生の理解力不足も懸念される。・ケースストーリーの内容が大変ドラマティックな展開で、このようなことが実際にあるのだろうかと考えてしまった。 |
| 13. 総合評価 | (5点満点中) ☆☆☆☆…大変良くできていると思う。☆が一つ少ないのは、まだ全体をやり終えていないため。 |

【回答校②：神奈川県・日産横浜自動車大学校】

- | | |
|------------|------------------------------------|
| 1. 対象学科・学年 | 自動車整備学科 1年、一級自動車工学科 1年 |
| 2. 時期・総時間数 | 6月28日～7月7日 計3時間 |
| 3. 回数・方式 | 計2回にわたり集中的に実施 |
| 4. 講師 | 担任(4名) |
| 5. 教科名 | キャリア教育 |
| 6. 併用教材 | 特に無し |
| 7. 比較検討教材 | 特に無し |
| 8. 実施した単元 | 本年度は第2章第5節「なぜ働くの?」を実施 |
| 9. 学生評価 | 「(先生から見て) 半分以上 または 少し理解できていた(ようだ)」 |
| 10. 教材評価 | 「やや満足」 |

11. 教員用ガイド評価 「やや満足」

12. 意見・感想等

●例題の内容が現実的であり、理解しやすかった。

●教員用ガイドに時間配分と要点が記入してあり、使用しやすい。

●総合的に実施するには時間がかかりすぎるため、第1章から通して実施するのは現状難しい。抜粋しても進行できる内容構成もあると実施しやすい。

13. 総合評価

(5点満点中) ☆☆☆…ほぼ理解できたと思われる。

(5点満点中) ☆☆☆…一单元しか実施していないため、総合的には不明。

(5点満点中) ☆☆☆…働くという観点ではためになる。

(5点満点中) ☆☆☆…今回は一单元だけを抜き出して実施しており、一連の流れでの評価はできない。

4. レポート回答内容の概要

◆回答校①：福島県・ケイセンビジネス公務員カレッジ

1. 実施対象：ビジネス系 コンピュータ会計コース

2. 対象年齢：18～22 歳

3. 実施期間：4 月 1 日～12 月 9 日 不定期

4. 実施時間：延べ 16 時間

5. 科目名：キャリアデザイン

6. 意見・感想等：

初めに、今回このテキストを執筆された先生方に感謝申し上げたい。

ご縁があり、今年度使用させていただいたわけだが、製作のご苦勞は計り知れないと感じている。

そして、記録として残っている部分と記憶を辿りながらという部分が交じり合っているレポートであるということもお許しいただきたい。

今回のこのレポートにより本校学生の低学力化、教員の指導力不足も明らかになってしまい、お恥ずかしい限りである。

教材及び教員ガイド本文中の誤字脱字に関しては既にチェック済であると考えて省かせていただいている。

まず、対象の学生についてだが、当然毎年変わるわけだが、とりわけ、本校の今年

度学生は自己肯定感が強い傾向がある。

また、自己主張といえるかどうかは別として、半数は自分の意見をためらわずに発言することができる。自信もあるようだ。

そして、就職に関しての考えは「こういう時代なので、会社命にはなりたくない。会社に期待はしていない。趣味が続けられる会社を選びたい」という学生が多い。

このような状況でのグループワークは、時には想像を超えた内容となる。そして、自分自身の力量不足を感じる。

学生向けキャリア教育教材『やる気の根っこ』については、これから社会に出るにあたり、不安感が強く、自分に自信が持てず、いわゆる自己肯定感の低い学生を対象としているように感じた。

「大丈夫だよ」「怖くないよ」という母性的なテキストではないだろうか。

4月からこのテキストを使用して授業の中に取り入れているわけだが、正直、自分自身満足度の高い授業をしたと感じることもあり、また、思うように授業が進まず、また思った通りの展開にならずに落ち込むことも多い。

前述したが、このギャップはまさしく、対象者の変化ではないだろうかと考えている。東北という地域性もあり、大変恥ずかしがりやで、人前で声も出せないような学生も多かった昨年までとは違い、今年は人前に出たがる元気印の学生が多い。自分に酔っているように見受けられる学生もいる。このような学生が、自己分析を行い、自分自身を客観視できているのだろうか、何かに気づいてくれるのだろうかと疑問を抱きながらも日々奮闘している。

《感じている問題点等》

- ・昨年と今年の対象のギャップへの対応。
- ・「気付かせる」難しさ。
- ・グループワークが多いが、少人数のために慣れ合いになってしまう。
- ・お互いの信頼関係が築かれていないと無駄な時間になってしまう。（この人には言われたくないという思い等）
- ・グループの話題がずれて行ってしまう。ちょっと暇になると、雑談がちらほら出てくる。
- ・チーム作業はグループによっては1、2名だけが頑張ってしまう。
- ・クラスの雰囲気、学生同士の仲の良さ（コミュニケーション）が授業の良し悪しに影響する。
- ・「考える」という作業に慣れていない。つまり、簡単に答えが出てしまう。
- ・人の話を聞かない。あるいは聞いていない。
- ・話をしても「でもこうだから」と、自分の意見を通す。（教員の指導力の問題？）

- ・語彙が少ない。
- ・自己肯定感が強すぎる学生への対応が難しい。
- ・己を知るということができないのではないかと感じる。つまり、客観視できないのでは？
- ・振り返り反省するという時点でも自己肯定で終わってしまう。
- ・「俺はできる」と思い込んでいる。しかし実際にはどうだろうか？
- ・自尊心を傷つけないように指導したいのだが、匙加減が難しい。
- ・恥ずかしさのためか、おチャラけてしまう。
- ・思った以上に作業に時間がかかる。
- ・仕事が丁寧にできない学生が多い。(例：紙を切る作業など)
- ・こちらから見てみると中途半端なのに、満足している。つまり、幼い。
- ・自分のことを考えると時間がかかる傾向がある。

《工夫》

- ・発声練習を毎行っている。
- ・天声人語を毎年導入している。
- ・本当は書き写しをさせたいが、時間の関係上、発声練習に追加する形で使用している。

《提案》

- ・分野毎の単発講座としても使用できるような、分割テキストとしての活用。
- ・社会人、新入社員向けの講座での活用。

第1章 チーム学習を進めるためのヒント

- ・まだ、緊張感もあり、お互いの様子をうかがっているようなところがあったのでアイスブレイクは大変有効であった。ゴンベンテストも盛り上がりを見せていた。
- ・教員ガイドには「皆さんが苦手意識を持つ、『リーダーシップ』…」とあるが、苦手意識を持っていない学生も多い。
- ・コミュニケーション能力も高いと思っている学生も多い。(事実、面接試験対策の長所としてコミュニケーション能力を挙げている学生も多い)
- ・診断シートが分かりにくかったので、ページが入っていると分かり易くてよい。
- ・メルヘン大会は時間が不足してしまい、順位をつけ、審査することができなかった。

第2章

第1節 自己理解「過去を振り返ろう！」

- ・思った以上に時間がかかった。
- ・ペンが進まない学生が数名。
- ・思い出せないようなので、「学校は好きだった？」「部活は何をしていた？」「入学式の時はどうだった？」など問いかけをしてみたが、それで思い浮かぶ学生もいれば、そうでない学生もいた。

第2節 自己理解「自分を知る手がかり」

- ・第2章で、学生たちが一番興味を示した内容である。
- ・作業の手順をなかなか理解できない学生もいる。
- ・話を聞いていない。もしくは聞いていても理解できない。
- ・感想を書くのが苦手。
- ・表現力が乏しい。結果、時間もかかる。では時間をかければ書けるかという、そうではない。
- ・時間を短く区切りすぎるとやる気をなくす。
- ・テキスト12ページの言葉が気になる。例えば、「信号守る？」→「信号は守る？」の方が正しい日本語なのではないだろうか？

第3節 自己理解「私の大切なもの探し」

- ・思ったより時間がかかった。
- ・用語を選ぶにあたり、なかなか選べない学生がいた。
- ・「誠実」や「責任」などの言葉を遠ざける学生が多かった。近づきたい学生は2名程度だったので、これには少々落胆した。
- ・逆に、「自由」や「友人」などは近づきたい学生が多かった。

第4節 自己理解「私ってどんな人？」

〈ネガポジまっぷ〉

- ・自分の強み・弱みを理解できていない学生は記入が少なく、自分で見付けることができない。
- ・長所と短所が表裏一体だということと一緒に考える時間が必要であると感じた。
- ・講座でも、長所・短所は学生がじっくり時間をかけて取り組みたがる部分である。
- ・もう少しじっくり時間をかけてもよいのではないか。
- ・しかし、一緒に考えるに当たっては教員（ファシリテーター）の語彙力や豊富な経験などが必要になってくる。

- ・このあたりは、己を知るということや就職面接の際にも役立つ重要なポイントではないだろうか。
- ・短所が長所になった時の喜びが、学生の自信と確信に繋がっているように感じる。

〈自己PRマップ〉

- ・線をつないで行く作業がうまくできない学生が多い。
- ・発想することが苦手のようなのである。時間をかけるにしても、教員（ファシリテーター）のアドバイスが必要である。

第5節 自己理解「なぜ働くの？」

- ・Yさんのケース内容はドラマティックな印象が若干あったことと、本校導入クラスと学習内容が違っているようで、現実からかけ離れているような感じがしたようである。
- ・Sくんのケースは、先生方もよく直面している内容で、学生がこれから悩むことが想定されることだと感じた。

第3章

第1節 仕事理解「地図を作ってみよう！」

- ・アイスブレイクゲームは大変集中して盛り上がって楽しんでいた様子である。
- ・結論から言うと、本校学生に「地図作り」はレベルが高かったかもしれない。アイスブレイクの内容を少し高度にしたもの、例えば「絵」などで行っても学習効果が期待できそうだった。
- ・この内容は、1回だけではなく、反復作業で数回行くと学生の作業能力も高まるのではないだろうか。職業人としての成長も期待できるのでは？
- ・テキストには何の地図を作るのかは明確になっていないが、教員用ガイドに「地元の案内マップ」とあった。読んでいくと「観光マップ」「観光ガイド」という言葉が出てくるので、それらしいと判断できるが、少し分かりにくい。
- ・テキストには、あえて「どんな地図か」ということを伏せてあるのかもしれないが、教員用ガイドの方にも最初に「観光マップ」と提示した方が良いと感じる。細かくて申し訳ないが、「案内マップ」と「観光案内マップ」では目的が違う。
- ・学生用テキストにも『観光案内マップ』作り」と明示した方が学生も分かりやすいのではないかな。
- ・本校学生向けには以下の通り行った。

○65 歳のお年寄り向けというと、すぐにはイメージがわからないので、まず、「65 歳のお年寄りとは？」ということを考えることが必要だった。（例えば 65 歳の

健康なお年寄りはどういう生活をしているか？病気だったら？などということ
を考える時間)

○限られた時間内での作業ということもあり、時間短縮のため事前に内容を変更
した。

○お年寄り向け／本校学生向け／近所の保育所の親御さん向け／転勤してきた独
身サラリーマン向け（年齢や家族の有無はグループで設定）

○この中からイメージがわいてすぐに作れそうなものを選んで作成してもらった。

○学校を拠点として作成。（学生は地元出身者だけではないので、詳しい学生とそ
うでない学生が混在）

○インターネットでの検索を認めた。（しかし使用したチームはなかった）

- ・変更したため、当初の目的とずれてしまったかもしれない。
- ・特性評価カードは 3 分記入では時間が不足していた。さらに自分のカードに記入
の作業を入れると全体 15 分では短いと感じた。
- ・コメント欄とカードはどちらか一方でよいのではないだろうか。

第 2 節 仕事理解「ケーススタディで学ぶ実際の仕事」

- ・まだ途中であるが、思った以上に期待できる常識的な回答が返ってきて安心した。
- ・特にマナー関係で入社後指導を受ける機会も少ない企業に入社した学生には特に
有効なのではないだろうか。
- ・社会人、新入社員向け研修にも活用できるのではないだろうか。
- ・ケース 2、3 の「怒っている」という表現は「腹を立てている」の方が良いのでは
ないかと感じた。

◆回答校②：山口県・Y I C キャリアデザイン専門学校

1. 実施対象：医療ビジネス科 1 年 19 名
2. 対象年齢：18～22 歳の女性
3. 実施期間：4 月 26 日～6 月 21 日で週 1 回のペース
4. 実施回数：90 分×6 回
5. 科目名：ソーシャルスキル
6. 意見・感想等：

第 2 章

第 1 節 過去を振り返ろう

<学生の反応・効果>

K 君の話から

セルフワークは各自真剣に取り組むが、専攻理由を話すグループワークは盛り上がりに欠ける。真剣さが足りない、各自の発表が短い、傾聴の姿勢がとれていないなどの理由だと考える。

ライフイベント

上記と同様、まだまだ自分のことを話すことに照れがある。

私が燃えるわけ

「必要な条件」については、ほとんどの学生が記入できていた。ライフイベントが十分に記入できていない学生はこのページは書きづらいようである。

※学生にとって、専門学校への入学理由をあらためて考える時間となった。

＜教員用ガイドについて＞

教員の発言内容などが詳しく記載してあるので、授業のイメージがつかめてよい。複数のクラスで同時進行の場合、ガイドは役に立つ。学生の自主的な発言により進めていく部分もあるが、なかなかその通りにはいかない。ガイドがあっても、教員の力量に左右される。

第2節 自分を知る手がかり

＜学生の反応・効果＞

質問タイム

順調に進む。意外な答えが返ってくるとグループで盛り上がる。

集計と振り返り

学生はどんな結果になるのか期待感を持って集計した。4つの窓の意味を知り、いろいろな発見や気づきがあったようである。

※このクラスは以前にもジョハリの窓の演習をした。今回のほうがより多くの気づきを得たようである。

＜教員用ガイドについて＞

ジョハリの窓を説明だけに終わらせずに、ワークとして具体的に展開でき、効果的である。「今日のまとめ」の部分も学生は理解しやすい。

第3節 私の大切なもの探し

＜学生の反応・効果＞

セルフワーク

用語集の言葉の意味が理解できない学生がいる。真剣に作業する学生もいれば、単純に好き嫌いで配置する学生もいる。

振り返り

振り返りの発言内容が軽く薄い。セルフワーク時にしっかり考えていないせい

か、それとも年齢的なものか。

※最後に、教員自身が作成したものを見せたところ、そんなに深く考えていなかったという意見が学生からあがった。学生には、時間をおいて、もう一度作成させたい。

＜教員用ガイドについて＞

コラムの中の気づきのメカニズムの話は学生の心に大きく響いたようだ。自分で気づくことの大切さがよく分かったようである。

第4節 私ってどんな人

＜学生の反応・効果＞

ネガポジマップ

自分自身のことであること、作成例があることで、セルフワークは順調に進む。

青（弱み）の分量が赤（強み）の分量よりも極端に多い学生もいる。

自己PRマップ

ネガポジマップに比べると作成しづらいようである。学生は自己PRが苦手である。自分自身を見つめ直すことがしっかりとできていないためだと考える。

※第1節からのまとめとも言える内容である。1週間に1回の授業サイクルで実施したが、集中的な展開をすれば、もっと効果があったと考える。

＜教員用ガイドについて＞

ガイドの流れに沿うとともに、学生自身が自己肯定感を持てるような雰囲気作りに気を配った。

第5節 なぜ働くの？

＜学生の反応・効果＞

※この授業の前にCSM（キャリアサポートマインド）研修で経験した、職業カード実習を行った。また、生活に困らない程度のお金があった場合、働くか・・・ということを考えさせた。

Yさん、S君のワークは順調に進む。自分のことについては、なりたい職業が具体的に挙げられる学生は、しっかりと記入できるが、まだまだ将来像がつかめない学生は記入量が少なく、具体的でない。グループワークにおいては、メンバーの価値の見出し方に感心する学生もいた。

5. 今年度の調査研究概要と今後への課題

調査の結果、教材については、学生評価、教員評価ともに、「非常に満足」あるいは「やや満足」の回答をいただき、一定の評価を得ることができたことに感謝するとともに、より良い教材にブラッシュアップできるという手ごたえも感じることもできた。

ただし、第3章、第4章は調査時期が年度途中であったということもあり、実施例が少なく、総合評価については「全体をやり終えていない」、「一單元だけを抜き出して実施している」ため、「一連の流れでの評価はできない」との意見であった。今後も第2章と併せて実施評価を受けながら、「どこまで導き教え」「どのように見守り気づかせていくか」を実践している教員と共有し、さらなる充実を図りたいと考えている。

また、本教材は「自己理解」を深めた上で「仕事理解」をし、「チームの力」を通じて、自らのキャリアを考えるというステップで学習を進めることができるよう作成した教材であるが、次のような提案があった。

- ・「総合的に実施するには時間がかかりすぎるため、ワークを抜粋しても進行できる内容構成もあると実施しやすい」
- ・「分野毎の単発講座として利用できるような分割テキストとしての活用」
- ・「社会人・新入社員向け講座での活用」

教材をより多くの教員や学生に活用してもらうためにも、この提案についても検討を重ねていきたい。

教員用ガイドについては、次のような一定の評価を得ることができた。

- ・「時間配分や要点が記入してあり、使用しやすい」
- ・「教員の発言などの詳しい記載があり授業イメージがつかめてよい」

一方で次に下記のような意見もあり、実施前後の教員の不安も感じられた。

- ・「学生の自主的な発言により進めていく部分もあるが、ガイドの通りにはいかない面もあり、教員の指導力や力量に左右される」
- ・「語彙力や豊富な経験などが必要となってくる」

ガイド作成にあたっては、教員が「やってみよう」と一歩踏み出すことができるように教員の言葉の参考例も詳細に記載した。教員が事前にワークの流れ・目標を理解し、何を気づかせ、どのようなことを伝えるのかを把握しておくことが必要であるが、あらかじめ答えや結果を想定するのではなく、それぞれの経験を活かして、自らの言葉で伝えることや、学生自身に「気づかせる」ことの大切さを改めて伝えていきたいと考える。

今回の実態調査に協力をいただいた学校はアンケート回答、レポート報告ともに 2

校にとどまった。これは「やる気の根っこ」を使用している学校が想定よりも下回ったこともあるが、情報発信の不足も要因であることも反省としなければならない。

また、専教振主催で実施された「キャリア教育技法研修会」（大阪会場：10月26日 67名参加、東京会場：11月15日 65名参加）において、キャリア教育におけるチーム学習やファシリテーションの有効性を「やる気の根っこ」のワークを実際に学生の立場で体験することで実感してもらう内容の研修を実施した。

実施後のアンケートには、「学生の立場になって参加したことで、グループワーク、シェアリングを通して得られる気づきがあった」との意見が多数寄せられ、教員自らが自分のこととしてワークを体験することの必要性とその効果を改めて認識した。

また、全体の流れや具体的な使用方法をじっくりと学ぶために、「継続的な研修会の開催、東京・大阪以外の地域での開催」や「『やる気の根っこ』を使用している教員の事例発表」などを望む声も複数見られた。

このことから、教員自らが、自分のこととしてワークを実践し、自らのキャリア観を整理することは、キャリア教育に携わっていく上で何よりの手引きとなることを改めて実感することができた。今後も同様の研修会を実施し、まず教員自身が体験学習の効果に気づき、実践するきっかけとなることを期待したい。

今回の調査からも、教員には実施することで得られたものが多くあり、学生にも気づきがあったことを読み取ることができた。今後は、「やる気の根っこ」を使用し実践している教員からの具体例を含めた情報の提供・共有とその蓄積の中から、第2章の専門分野別のケースストーリーの作成、教員ガイド改訂版など、新たなものを生み出していくことも視野に入れている。そのためにも、現在、実践している教員や開発委員の意見交換の場としてweb上で立ち上げている「やる気の根っこ指導教員グループ」を活性化させ、その有効活用を図り、「やる気の根っこ」を現場の声が活かされた教材として育てていくことを今後の目標としたい。

文部科学省
平成 22 年度教育研修活動補助事業

「専修学校におけるキャリア教育に関する調査研究」報告書

平成 23 年 3 月

発行 財団法人専修学校教育振興会
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25
(私学会館別館)
電話 03(3230)4814